



大学発新産業創出基金事業

研究成果展開事業
大学発新産業創出プログラム (START)

大学等発
スタートアップ創出力の
強化を目指して

CONTENTS

◎大学発新産業創出基金事業

大学発新産業創出基金事業とは	02
ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム (D-Global)	05
スタートアップ・エコシステム共創プログラム	07
早暁プログラム	09
プロジェクト推進型 起業実証支援/可能性検証	11
ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム (D-Global) 採択プロジェクト一覧	12
スタートアップ・エコシステム共創プログラム 採択プロジェクト一覧	14
早暁プログラム 採択プロジェクト一覧	19
プロジェクト推進型 起業実証支援 採択プロジェクト一覧	21
大学発新産業創出基金事業発 スタートアップ一覧	22

◎大学発新産業創出プログラム (START)

大学発新産業創出プログラム (START) プロジェクト推進型

各プログラムの概要	23
プロジェクト推進型 事業プロモーター支援	24
プロジェクト推進型 SBIR フェーズ1 支援	25
プロジェクト推進型発 スタートアップ一覧	27
プロジェクト推進型 起業実証支援 プロジェクト事業化実績	31
事業プロモーターユニット一覧	32
プロジェクト推進型 採択プロジェクト一覧	33

大学発新産業創出プログラム (START) 大学・エコシステム推進型

各プログラムの概要	44
大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援	45
大学・エコシステム推進型 大学推進型	47
大学・エコシステム推進型 拠点都市環境整備型	48
スタートアップ・エコシステム形成支援採択プラットフォームによる アントレプレナーシップ人材育成プログラムの実施内容紹介	49
大学・エコシステム推進型発 スタートアップ一覧	53
大学・エコシステム推進型 採択プロジェクト/プラットフォーム一覧	56



大学発新産業創出基金 ガバニングボード委員長からのご挨拶

大学発新産業創出基金 ガバニングボード委員長
窪田 規一



「技術で勝ってビジネスでも勝てる日本」を創ることを目指して……

「技術で勝ってビジネスで負ける日本」と揶揄され続けて久しく経ちますが、その原因は何でしょうか？ テック系スタートアップ成功のポイントは「ヒト（人材）」「モノ（技術）」「カネ（資金）」と言われています。わが国には素晴らしい要素技術が多く存在しますが、その技術をビジネスに結びつけるプランと人材が育っていないことが大きな原因と考えられています。大学発新産業創出基金事業では、創業に十分な資金を提供しつつ、秀逸な技術（アカデミア）を選出し、社会実装に向けたビジネスプランを考える。その為には事業化を計画できる組織（人材）と、創業と同時に全力疾走が出来る経営者候補（人材）をチームとして組成して、創業に向けたOJTでの実践を通して誰もが認める「成功事例（ロールモデル）」を創り出すことを目標としています。

「この国の未来のために孫子の世代に美田を残す」皆さんのチャレンジが、わが国の将来を創り上げます。本事業は皆さんの積極的なチャレンジを全力で支援します。やってみなければ物事は進みません。まずは一步踏み出す、皆さんのチャレンジを期待しています！

大学発新産業創出基金事業とは

事業の目的

大学等発スタートアップ創出力の強化に向けて、研究開発成果の事業化や海外での事業展開の可能性検証を視野に入れた研究開発を推進するとともに、地域の中核となる大学等を中心とした産学官共創による大学等発スタートアップ創出支援等を実施可能な環境の形成を推進します。

本事業が目指す姿

本事業は、スタートアップ育成5か年計画を踏まえ、以下の目標の達成に向けて、スタートアップの成長促進に関する施策を担う関係機関と連携しつつ実施する。

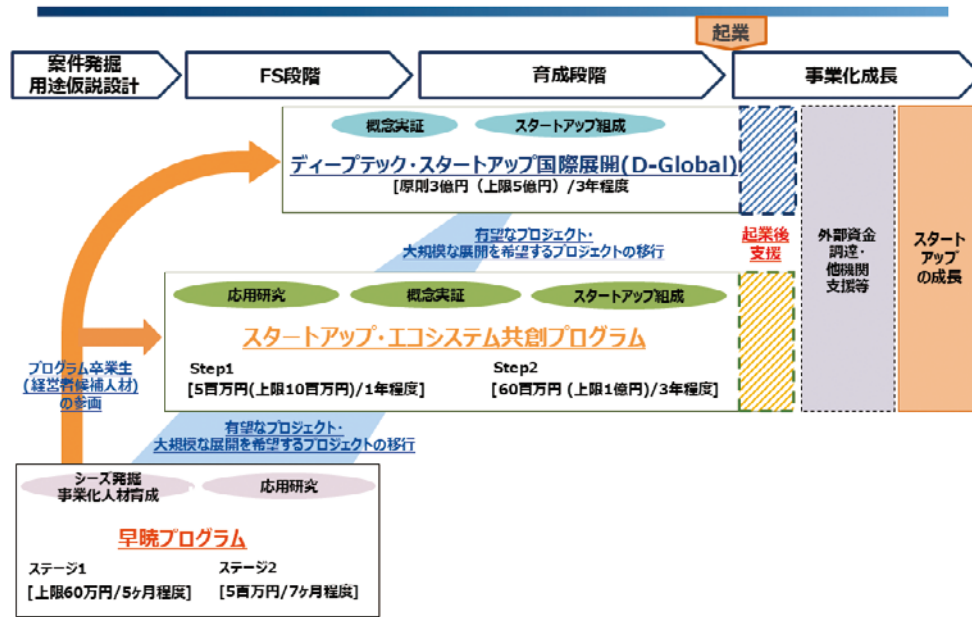
- ①社会・経済にインパクトを生み、国際展開を含め事業成長するポテンシャルを有する、大学等のアカデミアから生まれるスタートアップ（以下、「大学等発スタートアップ」という）の創出を、質・量ともに格段に充実させること。
- ②大学等発スタートアップの継続的な創出を支える、人材・知・資金が循環するエコシステムの仕組みを全国に形成すること。



大学発新産業創出基金事業

大学発新産業創出基金事業

各実施プログラムにおけるフェーズ間のイメージ



各プログラムの重複実施制限

		大学発新産業創出基金事業		研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム	
		ディープテック・スタートアップ 国際展開①	スタートアップ・エコシステム 共創内の研究開発課題②	SBIR フェーズ1支援	
				起業による技術シーズの 事業化を目指す場合③	技術移転による技術シーズの 事業化を目指す場合④
大学発新産業 創出基金事業	ディープテック・スタート アップ国際展開①	—	×	×	△
	スタートアップ・エコシステム 共創内の研究開発課題②	×	—	×	△
研究成果展開事業 大学発新産業 創出プログラム	SBIR フェーズ 1支援				
	起業による技術 シーズの事業化を 目指す場合③	×	×	—	—
	技術移転による技術 シーズの事業化を目指す 場合④	△	△	—	—

- △：技術シーズが異なれば実施可
- ×：同時に実施不可
- ：同時に申請不可（同一制度への複数申請は不可）

※研究代表者の方については、こちらに記載されている2つ以上の制度を同時に実施することは出来ません。また、最終年度を除き、1つの制度を実施しながら、もう1つの制度に応募することも出来ません。また、同一の研究代表者による同一の制度への複数課題申請も出来ませんのでご注意ください。また、対象となる制度に加え、公的資金を原資とし、スタートアップの創出を目的とするその他の制度に関しても、同一の技術シーズを用いる場合も同様の重複制限がございますのでご注意ください。なお、これらの重複制限は研究代表者に関するものとなりますので、事業化推進機関については原則、応募にあたり重複の制限はございません。



D-Global ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム (D-Global)

D-Global 委員会 委員長からのご挨拶

D-Global 委員会 委員長 (プログラム・オフィサー)
長谷川 克也



D-Globalを活用してグローバルなディープテック・スタートアップの起業を

D-Globalは研究機関で生み出された研究成果を基にしてスタートアップを創出するためのプログラムです。ただし、目標は単に会社を作ることではありません。社会・経済に大きなインパクトをもたらすグローバル企業、つまりGAFAMやモデルナやイルミナのような会社を創出することが目標です。

しかし、大学での研究成果がそのまま製品やサービスとして使えることは稀です。本プログラムは、あと2～3年技術を磨けば事業化できるような技術について、事業化への最後の一押しを研究開発と事業開発の両面から支援し、ベンチャーキャピタル等の投資対象となるようなスタートアップの起業に至ることを目指しています。

そのため、本プログラムでは事業化のプロと研究者がチームを組んでいただき、期間中にスタートアップの経営者となる方にも参画していただくことが特徴です。事業化を目指した研究開発は基礎研究とは異なる視点が必要ですので、事業化推進機関や経営者候補の方には、事業開発のみならず研究開発のプロジェクトマネジメントも担っていただくことを想定しています。

事業化まであと少しという技術を次のステージに引き上げるためのプログラムですので、是非、皆様にご活用いただければ幸いです。

事業概要

「ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム (D-Global)」は、大学等発の技術シーズを核にして、社会・経済に大きなインパクトを生み、国際展開を含め大きく事業成長するポテンシャルを有するディープテック・スタートアップの創出を目的とします。当該目的を達成するため、技術シーズの事業開発に責任を有する事業化推進機関および研究開発に責任を有する研究代表者が共同代表者となり、事業化推進機関のプロジェクトマネジメントのもとに事業化マイルストーン及び研究開発マイルストーンを設定し、事業化推進機関と研究代表者が一体的に課題を推進します。

支援の概要

● 支援の目的

社会・経済に大きなインパクトを生み、国際展開を含め大きく事業成長するポテンシャルを有するディープテック・スタートアップの創出

● 推進体制

事業化推進機関および研究代表者が共同代表者となり、事業化推進機関のプロジェクトマネジメントのもとで一体的に課題を推進します。また、事業化に向けて必須となる経営者候補人材についても、原則採択後1年以内に参画が必要です。

● 研究開発期間

最長3年程度

● 研究開発費

原則3億円程度まで(直接経費)

※正当な理由がある場合、上限5億円



実施イメージ

D-Global



公募情報

新規の公募については、「公募情報」のページをご参照ください。

<https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/deeptech/koubo2025.html>



問い合わせ先

国立研究開発法人科学技術振興機構

スタートアップ・技術移転推進部 スタートアップ第1グループ

<ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム (D-Global) >担当

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町

Tel : 03-5214-7054

e-mail : start-boshu@jst.go.jp



スタートアップ・エコシステム共創委員会委員長からのご挨拶

スタートアップ・エコシステム共創委員会
委員長（プログラム・オフィサー）
北岡 康夫



大学の技術シーズを活用して社会課題を解決し 未来社会の創出に結び付けよう

「スタートアップ5カ年計画」を背景に、大学シーズを活用したスタートアップ創出による地域のエコシステム構築が求められています。

大学では基礎から応用まで様々な分野で幅広い研究が遂行され、多くの有望技術シーズが創出されています。技術シーズからビジネスを生み出し、社会と結びつける手段の一つがスタートアップです。本プログラムでは、全国に形成された、多くの大学・自治体・企業が参画する9つのプラットフォームに対して、スタートアップ創出を推進すると共に、国内産業の活性化からグローバル展開まで社会的な価値を最大限に引き出すための一貫した支援に取り組んでいます。

各プラットフォームでは、大学内の有望技術シーズ発掘を起点に、知財戦略・ビジネス仮説の立案、事業パートナーやベンチャーキャピタルとの連携など幅広い支援を進め、研究成果と事業化の間を埋めるギャップファンドを活用して、各地域の社会課題解決を図るとともに企業連携やグローバル展開を通じて社会価値の高いスタートアップ創出を目指しています。重要となるのが、案件の事業化を支援する人材であり、未来のストーリーを描ける人材の輩出も期待されています。

是非、大学の技術シーズを活用して、輝かしい未来社会の創出に結び付けましょう。

事業概要

「スタートアップ・エコシステム共創プログラム」は、大学等発スタートアップの創出にポテンシャルのあるシーズを全国から引き出し、国際市場への展開を含め、大学等発スタートアップの創出に向けた取組について質・量の両面を充実させるとともに、大学等発スタートアップの継続的な創出を支える人材・知・資金が循環するエコシステムを、参画機関を拡充しながら形成する活動を支援します。

支援の概要

支援の目的

社会・経済にインパクトを生み、国際展開を含め事業成長するポテンシャルを有する、大学等のアカデミアから生まれるスタートアップの創出を、質・量の両面から格段に充実させるとともに、大学等発スタートアップの継続的な創出を支える、人材・知・資金が循環するエコシステムの仕組みを全国に形成することを目指します。

募集対象

大学等の研究機関を中心とし、複数機関が連携し形成したプラットフォーム
※研究者個人、機関単独では対象となりません。

【拠点都市プラットフォーム共創支援】

大学発新産業創出プログラム（START）大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援を実施中のプラットフォーム

【地域プラットフォーム共創支援】

大学発新産業創出プログラム（START）大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援での支援を受けていない地域の大学等を主幹機関としたプラットフォーム

詳細な要件については必ず公募要領・Q&Aを確認してください。



大学発新産業創出基金事業

支援期間

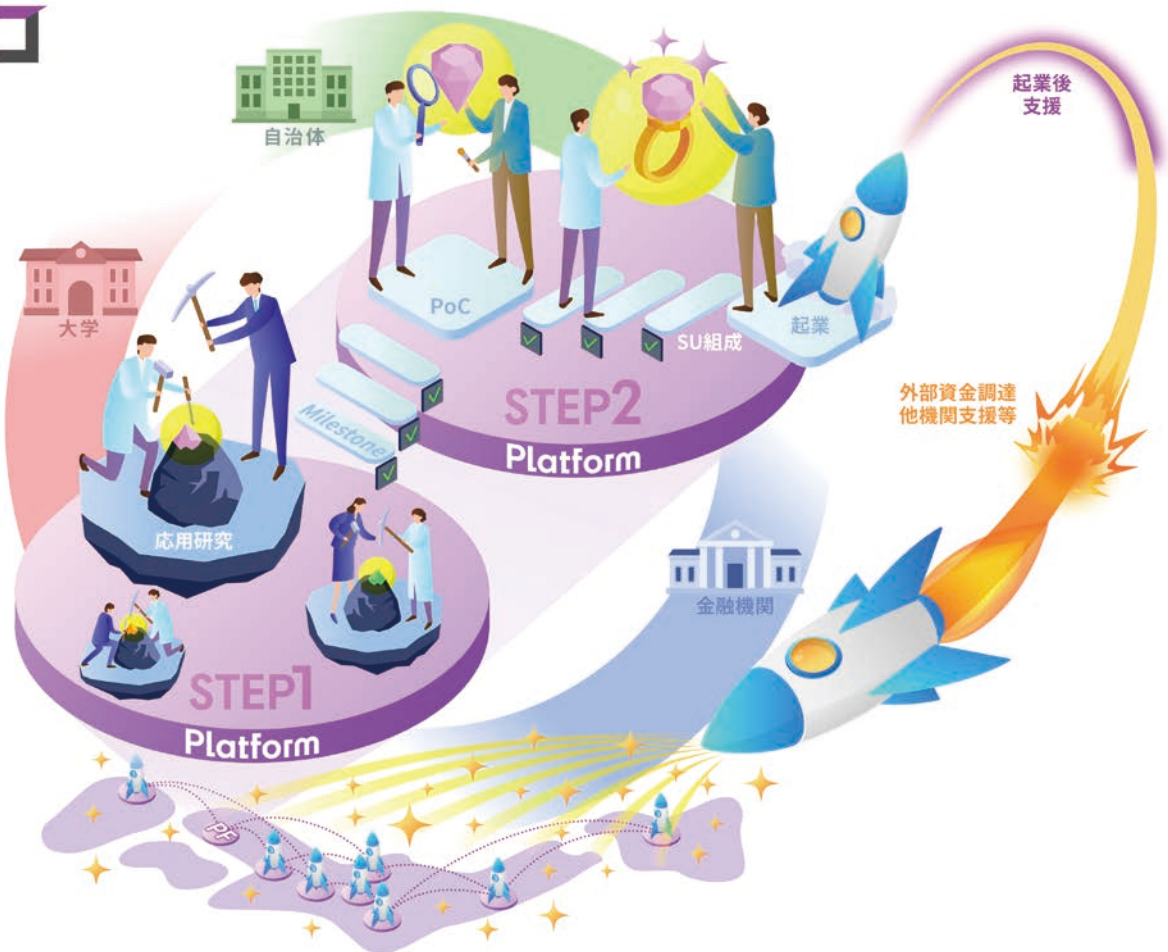
支援開始日から令和9年度末まで

ただし、個別の研究開発課題の新規採択は令和9年度までとし、個別の研究開発課題及びそれに付随する活動は、採択年度を含めて最長3ヶ年度程度可能（最長令和11年度末まで）。

支援額

プラットフォームとして必要と考える金額を申請。支援額は「スタートアップ・エコシステム共創委員会」による審査を踏まえ、JSTが決定。

実施イメージ



公募情報

新規の公募の予定はありません。

問い合わせ先

国立研究開発法人科学技術振興機構
スタートアップ・技術移転推進部 スタートアップ第2グループ
<スタートアップ・エコシステム共創プログラム>担当
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町
Tel : 03-3512-3529
e-mail : su-ecosys@jst.go.jp



早暁委員会 委員長からのご挨拶

早暁委員会 委員長（プログラム・オフィサー）
古川 尚史



チームアップによってイノベーションを創り上げていく実現と喜びを

日本国内の大学で培われ、世界に革新をもたらす可能性のある科学技術が多くある中で、その技術をビジネスに仕立てていく事業化人材が不足していることが、一つの課題となっています。

一方、この事業化人材には、サイエンス・技術を理解し、権利・利害関係を調整し、資金を調達し、チームをつくり、潜在顧客・顧客の声を聞きながら製品・サービスとしての磨きをかけ、技術からビジネスとして収益を生み出していくことが求められます。いわば、経営の総合格闘技であり、これらの能力を身につけるには、実践が最大の方法だと思います。ただ実践すること自体、簡単なことではありません。そこで、このプログラムでは、これら多岐にわたる活動を実践し、事業化の実現を成し遂げた第一線で活躍する起業家・投資家等がメンターとなり、メンターの経験に基づく助言を個別に直接受けながら、事業化を目指します。

事業化人材には、是非、このプログラムを通じて、大学の研究成果を用い、また、メンターを含む強力なチームをつくり、世に革新をもたらす大きな事業を構築することを期待しています。

事業概要

「早暁（そうぎょう）プログラム」は、大学等発スタートアップ創出に向けて、ビジネス視点を持つ事業化人材が、起業経験や投資経験等を有するメンターによるメンタリングを受けながら、自らが描いた事業化構想を実現させるために大学等の技術シーズを探索し、研究者とチームになってビジネスモデルのブラッシュアップと研究開発を推進し、大型ギャップファンド等の次のフェーズへの移行を目指します。

支援の概要

● 支援の目的

ディープテック・スタートアップ経営者人材およびディープテック・スタートアップの創出

● 推進体制

本プログラムは、ステージ1とステージ2で構成されています。

ステージ1では、自らの事業化構想を実現するための技術シーズの探索および技術シーズを活用したビジネスモデルの構築を行う事業化人材が課題を推進します。ステージ2は、研究代表者とステージ1に採択されている事業化人材から構成される研究開発チームが研究開発課題を推進します。

● 活動期間および研究開発期間

ステージ1：活動期間 5ヶ月程度

ステージ2：研究開発期間 7ヶ月程度

● 活動費および研究開発費

ステージ1：活動費 上限60万円

ステージ2：研究開発費 上限500万円（直接経費）



実施イメージ



公募情報

新規の公募については、「公募情報」および「公募特設ページ」をご参照ください。

【公募情報】 <https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/sogyo/koubo.html>

【公募特設ページ】 <https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/sogyo-sp/index.html>



公募情報



公募特設ページ

問い合わせ先

国立研究開発法人科学技術振興機構
スタートアップ・技術移転推進部 スタートアップ第1グループ
<早稲プログラム>担当
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町
Tel : 03-5214-7054
e-mail : sogyo@jst.go.jp



プロジェクト推進型 起業実証支援（※新規の公募は行いません）

事業概要

「プロジェクト推進型 起業実証支援」では、事業化ノウハウを持った人材（「事業プロモーター」）ユニットを活用し、大学等発スタートアップの起業前段階から、研究開発・事業育成のための公的資金と民間の事業化ノウハウ等を組み合わせることにより、リスクは高いがポテンシャルの高い技術シーズに関して、事業戦略・知財戦略を構築しつつ、市場や出口を見据えて事業化を目指します。これにより、大学等の研究成果の社会還元を実現し、持続的な仕組みとしての日本型イノベーションモデルの構築を目指します。

支援の概要

- 支援の目的：起業に向けた研究開発・事業化
- 課題提案者：大学等の研究者
- 研究開発期間：最長2年半程度
- 研究開発費：上限3,000万円／年（直接経費）

可能性検証（※新規の公募は行いません）

事業概要

「可能性検証」は、研究成果最適展開支援プログラム（A-STEP）トライアウトで行ってきた地域の大学等の基礎研究成果による企業ニーズの達成を目指す支援に加えて、大学等の成果に基づくスタートアップ等の創出も視野に入れた実用化の可能性も検証するものです。具体的には、大学等の研究成果について企業等との連携による実用化や起業に挑戦できる可能性を検証するための試験研究を行い、実用化の可能性を判断し、それに向けた本格的な研究開発等に移行することで、科学技術イノベーションの創出や、社会的・経済的な波及効果の創出を期待します。

【起業挑戦】 起業を検討する提案
研究代表者、支援人材の2者で実施（企業担当者を含め3者での実施も可）。

【企業等連携】 既存企業への技術移転を検討する提案
研究代表者、支援人材、ニーズ元企業担当者の3者で実施。

※実用化に向けてより効果的に推進するため、研究開発の進捗状況等に応じて、提案時の【起業挑戦】・【企業等連携】の設定にかかわらず、より適切な方法での実用化を目指して柔軟に検討いただきます。

支援の概要

- 支援の目的：企業等との連携による実用化や起業に挑戦できる可能性を検証するための試験研究
- 課題提案者：大学等の研究者
- 研究開発期間：最長2年度
- 研究開発費：【起業挑戦】 上限600万円（総額、間接経費含む）
【企業等連携】 上限300万円（総額、間接経費含む）

○可能性検証 採択プロジェクト一覧

<https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/feasibility/project2023.html>





ディープレック・スタートアップ 国際展開プログラム (D-Global) プロジェクト一覧

※所属・役職名はすべて採択時のものとなります。

採択年度	プロジェクト名	代表事業化推進機関	研究代表者	概要
2025年度	新規光受容チャンネル遺伝子を用いた遺伝子治療による網膜色素変性症患者の視覚再建	東北大学ベンチャーパートナーズ株式会社	岩手大学 農学部教授 富田 浩史	光に対する感度・応答波長・反応速度に優れた特徴を持つチャンネルロドプシン「ComV1」を用いた遺伝子治療により、従来技術では困難であった失明者の視覚再建を実現するスタートアップの設立を目指す。
	FABP3リガンドを用いたパーキンソン病根本治療薬の開発と国際展開	DCIパートナーズ株式会社	福島県立医科大学 医学部 附属生体情報伝達研究所 特任准教授 川畑 伊知郎	パーキンソン病の新規治療薬として脂肪酸結合たんぱく質3型 (FABP3) を標的とする低分子化合物を開発することにより、疾患の進行を抑制可能な革新的治療薬の創出とグローバル展開を実現するスタートアップの設立を目指す。
	地熱発電の拡大に向けた坑井刺激型地熱開発の社会実装	Beyond Next Ventures株式会社	大阪大学 大学院工学研究科 准教授 緒方 奨	坑井刺激を活用した次世代型地熱開発の実用化に向けて、デジタル空間での最適設計とその現場実装を実現し、地熱発電に大幅な経済性向上と適地拡大をもたらすグローバルスタートアップの設立を目指す。
2024年度	低分子がん創薬 Magic Bulletの開発とグローバル展開	株式会社ビジョンインキュベイト	筑波大学 数理物質系 教授 長崎 幸夫	抗体をしのぐ腫瘍集積性を有し、副作用が劇的に低減された抗がん剤「低分子 Magic Bullet」を開発し、がん患者を救い、がん治療における社会課題を解決するグローバルスタートアップの設立を目指す。
	低張浸透圧バイオフィルム殺菌技術を用いた医療機器開発と国際展開	株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ	物質・材料研究機構 高分子・バイオ材料研究センター グループリーダー 岡本 章玄	新原理の低張浸透圧バイオフィルム殺菌技術を活用して、整形外科インプラント感染および創傷感染に対する治療機器を開発し、展開するグローバルスタートアップの設立を目指す。
	既存分子標的薬不応性のチロシンキナーゼ高発現がん、および小胞体ストレス脆弱性がんを治療対象とした新規ARF/GEF阻害経口低分子抗がん剤の開発	三菱UFJキャピタル株式会社	東京理科大学 理学部第一部 応用化学科 教授 椎名 勇	従来の分子標的抗がん剤では治療が困難ながんの一つである「チロシンキナーゼ高発現TKI不応がん」「小胞体ストレス脆弱性がん」を対象として、ARF/GEF阻害の新しいメカニズムによる経口低分子抗がん剤の開発を進め、その製造手段を中核技術とするスタートアップの設立を目指す。
	革新的分離技術によるホワイトリグニン創出と高付加価値バイオマス製品の開発	Beyond Next Ventures株式会社	京都大学 生存圏研究所 特定准教授 西村 裕志	革新的な植物バイオマスの分離技術を活用して、高純度ホワイトリグニンを創製し、高付加価値新素材として用途展開をすることで、バイオマスを基幹とした循環型社会を実現するスタートアップの設立を目指す。



ディープレック・スタートアップ 国際展開プログラム (D-Global) プロジェクト一覧

※所属・役職名はすべて採択時のものとなります。

採択年度	プロジェクト名	代表事業化推進機関	研究代表者	概要
	ナノ粒子を用いた新規構造色インク・塗料の開発及び事業化推進	ANRI株式会社	神戸大学 大学院工学研究科 准教授 杉本 泰	構造発色ナノ粒子の技術を活用して、「軽い・薄い・強い」を実現する革新的な構造色インク・塗料を開発し、量産技術の確立と事業開発を進めることで、グローバルで戦えるマテリアルスタートアップの設立を目指す。
	特発性肺線維症治療薬の国際展開に向けた研究開発	大鵬イノベーションズ 合同会社	岡山大学 学術研究院 医歯薬学域 教授 阪口 政清	有効な治療法がない特発性肺線維症や炎症性疾患などの難治性疾患に対して、新たな作用メカニズムに基づく独創的かつファースト・イン・クラスの抗体医薬を創製・開発するスタートアップの設立を目指す。
2023年度	プラスチック混合廃棄物や繊維製品に対する革新的ケミカルリサイクル技術の事業化検証	京都大学イノベーションキャピタル 株式会社	弘前大学 地域戦略研究所 准教授 吉田 暁弘	複数素材の混合を許容できる革新的ケミカルリサイクル技術の開発を進め、今後さらに需要の高まるサステナブルなリサイクルポリエステルおよびその原料を経済的かつ大量に製造販売できるスタートアップの設立を目指す。
	ペプチドを基盤とした新規モダリティ「分子集合体治療」の創出	株式会社ケイエスピー	東京医科歯科大学 統合研究機構 脳統合機能研究センター 准教授 味岡 逸樹	ペプチド分子集合体の動的制御技術を活用し、既存の治療モダリティ「分子治療」とは異なり、分子が集合化して機能を発揮する新しい治療モダリティ「分子集合体治療」を創出するためのスタートアップ設立を目指す。
	mRNA構造を標的とした新規免疫炎症制御医薬研究開発	株式会社ファストトラックイニシアティブ	京都大学 大学院医学研究科 教授 竹内 理	mRNAのステムループ構造を標的とした免疫・炎症を制御するアンチセンスオリゴ核酸を開発し、ヒト免疫・炎症疾患およびがんを対象とした核酸医薬品群を創製するスタートアップの設立を目指す。
	iPS細胞由来3次元成熟心臓組織を用いた新規心臓病研究プラットフォーム事業	DCIパートナーズ 株式会社	京都大学 iPS細胞研究所 (CiRA) 准教授 吉田 善紀	独自に開発したヒトiPS細胞由来の3次元成熟心臓組織を用いて、①新規開発薬に対する心臓への機能評価・毒性評価の受託事業および②心臓病新規治療薬開発事業の2つを柱とするスタートアップ設立を目指す。
	革新的マイクロLEDディスプレイ実現に向けた希土類添加GaN LEDの事業化	Beyond Next Ventures株式会社	立命館大学 総合科学技術研究機構 教授 藤原 康文	世界で唯一無二の希土類添加半導体の技術を活用して、高輝度・高精細のマイクロLEDを開発し、次世代AR/VR機器用の革新的マイクロLEDディスプレイ用デバイスを実現するグローバルスタートアップの設立を目指す。
	慢性腎臓病腎機能改善薬の国際展開に向けた研究開発	Beyond Next Ventures株式会社	岡山大学 研究推進機構 医療系本部 教授 中山 雅敬	腎臓のポドサイトの障害による慢性腎臓病・ポドサイトパチーに対して、新たに解明されたメカニズムを基に腎機能を回復する薬剤の研究開発を進め、その国際展開を図るスタートアップの設立を目指す。



大学発新産業創出基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム 採択プロジェクト一覧

※2026年1月22日現在

■ 拠点都市プラットフォーム共創支援

採択年度	2023年度	
プラットフォーム名	北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク (HSFC)	
主幹機関	北海道大学【総括責任者】総長 實金 清博	
SU創出共同機関	小樽商科大学、室蘭工業大学、北見工業大学、公立はこだて未来大学、札幌医科大学、北海道情報大学、北海道科学大学、苫小牧工業高等専門学校、函館工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校、北海道科学技術総合振興センター、旭川医科大学、帯広畜産大学、北海道医療大学、旭川市立大学、北星学園大学・北星学園大学短期大学部	
全体概要	HSFCは、北海道を「課題先進地域」から「世界的課題解決先進地域」へと変革すべく、その地域特性に即した「アグリ・フード」「環境・エネルギー」「創業・ヘルスケア」の3つの領域に焦点を当て、札幌市・北海道のスタートアップ創出の活性化に注力する。大学等発スタートアップの創出について、質・量の向上を目指すと同時に、国際展開と事業成長を促進する「ユニコーン志向スタートアップ」と「地域定着型スタートアップ」の2つのスタートアップ像を設定し、社会・経済・地域にインパクトをもたらすプラットフォームを構築し、「北海道発のスタートアップ創出モデル」の確立を目指す。	
実施中のGAPファンド概要	名称	HSFC GAPファンド
	Step1	ユニコーン志向型SU創出プログラム（U型）とゼブラ志向型SU創出プログラム（Z型）の2つのプログラムを設定し、U型はEXIT等を目指したスタートアップの起業を志向する研究者向けのプログラムで、Z型は社会課題解決を目指した地域社会に研究成果還元と持続的成長を志向する研究者向けのプログラムで、どちらもビジネスとしての可能性を評価できる段階まで引き上げることを目指します。 ・ユニコーン志向型（U型）：500万円以下、最長1年 ・ゼブラ志向型（Z型）：300万円以下、最長1年
	Step2	概念実証とSU組成の観点から、前半はビジネスとしての可能性の評価と概念実証(PoC)を行い、起業に向けてクリアすべき課題の解決を目指し、後半は概念実証の取組に加え、大学等発スタートアップの組成とVCが投資判断できるレベルに向けてPoCを継続実施します。 ・ユニコーン志向型（U型）：3,000万円以下、最長3年 ・ゼブラ志向型（Z型）：500万円以下、最長1年
	参考URL	STEP1： https://www.noastec.jp/news/subsidy/post_4921.html STEP2： https://www.noastec.jp/news/subsidy/post_5883.html

採択年度	2023年度	
プラットフォーム名	みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム (MASP)	
主幹機関	東北大学【総括責任者】理事 遠山 毅	
SU創出共同機関	弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、新潟大学、長岡技術科学大学、宮城大学、会津大学、東北芸術工科大学、秋田県立大学、岩手県立大学、東北学院大学、福島県立医科大学、八戸工業高等専門学校、秋田工業高等専門学校、一関工業高等専門学校、鶴岡工業高等専門学校、仙台高等専門学校、長岡工業高等専門学校、福島工業高等専門学校、岩手医科大学、国際教養大学、東北大学ナレッジキャスト株式会社、東北大学共創イニシアティブ株式会社	
全体概要	東北・新潟は、人口問題・産業構造・災害対策などを抱える「課題先進地域」であり、みちのくアカデミアの研究成果と技術シーズから生まれる大学等発スタートアップによって課題解決する。そして、東北・新潟を「課題解決先進地域に変革」し、国際展開を通じて「世界を変革」していく。プログラムの実施に当たっては、以下に掲げる2点の方針に基づいて行う。 ①Deep & Diverse: Deep techの分野における研究成果や技術シーズの事業化と大学等発スタートアップ創出に取り組む。Diverseとして人文・社会科学系や学際領域等との連携、参加校の拡大による領域の多様化等に取り組む。 ②Dynamic Ecosystem: 東北・新潟のスタートアップ・エコシステムの中核として活動する。	
実施中のGAPファンド概要	名称	みちのくGAPファンド
	Step1	ステップ1（応用研究） 基礎研究の成果について、ビジネスとしての可能性を評価できる段階まで引き上げることを目指します。 ①通常枠：500万円以下、1年 ②特別枠：1,000万円以下、1年 ③ソーシャル・イノベーション枠：200万円以下、1年
	Step2	ステップ2（概念実証・スタートアップ組成） 前半ではビジネスとしての可能性の評価と実証（PoC）を行い、起業にあたってクリアすべき課題の解決を目指します（概念実証）。後半ではこれら取組に加え、大学等発スタートアップの組成とVCが投資判断できるレベルに向けて、PoCを継続して実施します（スタートアップ組成）。 ④通常枠：6,000万円以下、2～3年 ⑤特別枠：1億円以下、2～3年
	参考URL	https://michinoku-academia-startup.jp/recruitment/



大学発新産業創出基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム 採択プロジェクト一覧

※2026年1月22日現在

採択年度	2023年度	
プラットフォーム名	Greater Tokyo Innovation Ecosystem(GTIE)	
主幹機関	東京大学【総括責任者】執行役・副学長 染谷 隆夫 早稲田大学【総括責任者】理事(研究推進担当) 若尾 真治 東京科学大学【総括責任者】理事・副学長(研究・産学官連携担当) 波多野 睦子	
SU創出共同機関	筑波大学、千葉大学、東京農工大学、神奈川県立保健福祉大学、横浜国立大学、横浜市立大学、慶應義塾大学、東京都立大学、芝浦工業大学、東京理科大学、茨城大学、電気通信大学、東海大学、理化学研究所、産業技術総合研究所	
全体概要	首都圏エリアにおけるスタートアップ創出により多くの大学が貢献できるよう、STEP1「エントリー」からSTEP2「エクスプロール(2年コース・3年コース)」「海外市場開拓実践」まで幅広いスタートアップ創出プログラムを提供し、スタートアップ創出の裾野形成から、よりスケラブルなスタートアップの創出まで、体系的な支援を行う。併せて、大学の体制・マネジメントの強化によるシーズ・チーム数の拡充と、多様なビジネスのプロが早期からスタートアップ創出に関わるような客員起業家制度の利用、人材プールの可視化などを進める。さらに、学内外の支援人材育成を通じ、起業をめぐるプレイヤー/ステークホルダーが全方位的にレベルアップできるエコシステムの構築を目指す。	
実施中のGAPファンド概要	名称	GTIE GAP ファンド
	Step1	エントリーコース [研究開発・事業化活動] 基礎研究の成果について、ビジネスとしての可能性を評価できる段階まで引き上げます。 支援金額：500万円(最大) 研究期間：9ヶ月(最長)
	Step2	エクスプロールコース(2年・3年) [概念実証・事業化計画のブラッシュアップ・スタートアップ組成] ビジネスとしての可能性の評価と実証(PoC)を行い、起業にあたってクリアすべき課題の解決を目指し(概念実証)、最終的にVCによる投資判断できるレベルの起業を目指します。 支援金額：6,000万円(最大) 研究期間：2年・3年(最長) 海外市場開拓実践コース [取得済みのデータ、プロトタイプを用いて海外の市場を実践的に開拓] 想定する海外市場(顧客やパートナー)にコンタクトし、要求に応えるための研究開発目標をマイルストーンとして設定、その実現を図る研究開発を行うというバックキャスト型のプログラムです。 支援金額：2,200万円(最大) 研究期間：1年間
	参考URL	https://gtie.jp/gap-fund/

採択年度	2023年度	
プラットフォーム名	Tokai Network for Global Leading Innovation(Tongali)	
主幹機関	名古屋大学【総括責任者】東海国立大学機構 機構長 松尾 清一	
SU創出共同機関	豊橋技術科学大学、岐阜大学、三重大学、名城大学、藤田医科大学、名古屋市立大学、静岡大学、浜松医科大学、豊田工業大学、岐阜薬科大学、名古屋工業大学、静岡県立大学、静岡理工科大学、自然科学研究機構、静岡社会健康医療大学院大学、STATION Ai株式会社	
全体概要	東海地域の16の大学・研究機関等が一体となり、Tech Innovation Smart Societyを実現していくため、“グローバル展開を志向するディープテック・スタートアップを創出し、質・量ともに格段に充実させること”、“大学等発スタートアップの継続的な創出を支える、人材・知・資金が循環するエコシステムの仕組みを形成すること”を達成するために、本プログラムを推進していく。具体的には、ステップ1として、まず、シーズの発掘から、顧客開発、チーム形成に向けた取り組みを行い、同時に事業化推進機関とマッチングを進める。ステップ2ではグローバル展開に向けた事業化のためのPMF(Product Market Fit)を固めていくという2段階のGapファンドプログラムを実施していく。	
実施中のGAPファンド概要	名称	Tongali GAP ファンド
	Step1	・基礎研究の成果について、ビジネスとしての可能性を評価できる段階まで引き上げることを目指します。 ・予算 医療系(創薬以外)：最大500万円 医療系(創薬)：特別枠を設定し、最大1,000万円 モノづくり-Deep Tech他：最大500万円 ・期間 1年間
	Step2	・前半ではビジネスとしての可能性の評価と実証(PoC)を行い、起業にあたってクリアすべき課題の解決を目指します(概念実証)。後半ではこれら取組に加え、大学等発スタートアップの組成とVCが投資判断できるレベルに向けて、PoCを継続して実施します(スタートアップ組成)。 ・予算 医療系(創薬以外)：最大6,000万円 医療系(創薬)：最大1億円 モノづくり-Deep Tech他：最大6,000万円 ・期間 最長3年(申請は1年毎とするため、1年、2年、3年での申請が可能)
	参考URL	ステップ1： https://tongali.net/x/gapfund2025-step1/ ステップ2： https://tongali.net/x/gapfund2024-step2/



大学発新産業創出基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム 採択プロジェクト一覧

※2026年1月22日現在

採択年度	2023年度	
プラットフォーム名	関西スタートアップアカデミア・コアリション (KSAC)	
主幹機関	京都大学【総括責任者】理事(産官学連携担当) 澤田 拓子	
SU創出共同機関	大阪大学、神戸大学、大阪公立大学、大阪工業大学、関西大学、近畿大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学、京都府立医科大学、立命館大学、同志社大学、龍谷大学、京都先端科学大学、奈良先端科学技術大学院大学、奈良女子大学、奈良県立医科大学、兵庫県立大学、関西学院大学、滋賀大学、滋賀医科大学、大阪産業局、株式会社産学連携研究所、京都産業大学、大阪医科薬科大学	
全体概要	2021年4月に発足したKSACは、京阪神地域を中心としたスタートアップ・エコシステムの形成から、今後その規模を関西一円へと飛躍的に拡大し、世界有数のエコシステム拠点への成長を展望する。スタートアップ創出プログラムでは400件以上の申請案件を確保し、200件近くの研究開発課題を採択する予定である。プラットフォーム内外機関の連携のもと、それらの採択課題に対して全方位的な起業支援を行うことで持続的にスタートアップを創出していくとともに、国際展開機能の強化により、世界市場で通用するグローバルスタートアップの輩出を可能とする起業環境を構築していくことで、社会課題の解決に貢献していく。	
実施中のGAPファンド概要	名称 KSAC-GAP ファンド	
	Step1	①KSAC-GAP IV IV: Idea Verification 500万円/最長1年間 大学技術シーズに基づくプロダクトコンセプトをもとに、顧客の具体的なニーズの存在検証に取り組む研究開発課題です。 ②KSAC-GAP PSF PSF: Problem Solution Fit 1,000万円/最長1年間 顧客ニーズの存在を認識しているが、大学技術シーズがソリューションとして有効か否かの十分な検証を行う研究開発課題です。 ③KSAC-GAP OD OD: Overseas Deployment 1,000万円/最長1年間 海外での市場ニーズが十分な確度をもって予想されており、起業当初から海外での事業展開を目指す研究開発課題です。 ④KSAC-GAP BCB BCB: Back-Casted Business 1,000万円/最長1年間 将来の社会課題を解決するビジネスモデルの輪郭が定まっており、必要とされる技術の選択・組み合わせの検証を行う研究開発課題です。
	Step2	⑤KSAC-GAP PMF PMF: Product Market Fit 6,000万円/最長2年間 有望市場の中で十分な競争力を確保できるか否かの検証を中心に、VCが投資判断できるレベルにまで起業に向けた課題の解決を目指す研究開発課題です。
	参考URL	https://ksac.site/activity/corporate/
採択年度	2023年度	
プラットフォーム名	Peace & Science Innovation Ecosystem(PSI)	
主幹機関	広島大学【総括責任者】学長 越智 光夫	
SU創出共同機関	岡山大学、島根大学、愛媛大学、徳島大学、高知大学、香川大学、鳥取大学、広島市立大学、観音大学、県立広島大学、広島修道大学、安田女子大学、岡山理科大学、川崎医科大学、周南公立大学、高知工科大学、山口東京理科大学	
全体概要	広島大学およびSU創出共同機関により組織するPSIエコシステムは、豊かな自然環境を抱える中四国地域を中心に、「平和を希求する精神のもと、世界にイノベーションを生み出す」ことをビジョンとする。さらに10年後には、「世界中からスタートアップや支援者が結集し、平和を希求しながら世界にイノベーションを生み出すグローバルエコシステムの1つとなる」ことを目指す。このビジョンの実現を達成するため、本プログラムの実施を通して、GAPファンドの構築、支援人材の拡充、起業環境の整備、グローバル拠点の構築などを行う。	
実施中のGAPファンド概要	名称 PSI GAP ファンド	
	Step1	ステップ1 [応用研究] 基礎研究の成果について、ビジネスとしての可能性を評価できる段階まで引き上げます。 支援金額：500万円(最大) 研究期間：1年(最長)
	Step2	ステップ2 [概念実証・スタートアップ組成] ビジネスとしての可能性の評価と実証を行い、起業にあたってのクリアすべき課題の解決を目指します。 大学等発スタートアップの組成とVCが投資判断できるレベルに向けて、PoCを継続して実施します。 支援金額：6,000万円(最大) 研究期間：3年(最長)
	参考URL	https://psi-ecosystem.net/



大学発新産業創出基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム 採択プロジェクト一覧

※2026年1月22日現在

採択年度	2023年度	
プラットフォーム名	Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem(PARKS)	
主幹機関	九州大学【総括責任者】総長／学術研究・産学官連携本部 本部長 石橋 達朗 九州工業大学【総括責任者】学長 三谷 康範	
SU創出共同機関	長崎大学、北九州市立大学、佐賀大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学、九州産業大学、久留米大学、第一薬科大学、福岡大学、福岡工業大学、山口大学、立命館アジア太平洋大学、沖縄科学技術大学院大学、株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ、九州歯科大学、長崎総合科学大学、九大OIP株式会社	
全体概要	九州・沖縄圏の19機関が共同で、大学発スタートアップ・エコシステムとなるPARKSの構築に取り組んでいる。PARKSでは顧客志向かつイノベーションを実現可能で、各大学の強みや地域の特徴を持ったシーズに基づく大学発スタートアップを継続的に創出可能とするために、2029年度末までにPARKSインターユニバーシティを創設する。あわせて独自の持続可能な起業支援ファンドの整備を目指す。さらに、台湾、シンガポールのスタートアップ・エコシステムの協力を得てグローバルに人材・知・資金が循環するエコシステムの仕組みを形成する。	
実施中のGAPファンド概要	名称	PARKS スタートアップ創出プログラム
	Step1	Step1（研究者）：ディープテックの試作開発、ビジネスモデル原案の作成を行います。（最大500万円、最長1年） Step1（学生）：事業開発可能性を検討するプログラムです。（最大100万円、最長1年）
	Step2	Step2-1（研究者）：応用研究の成果を商業的な可能性評価まで引き上げます。（最大2,000万円、最長1.5年） Step2-2（研究者）：商業的な可能性評価と起業の達成を目指します。（最大4,000万円、Step2-1と合わせて最長3年） Step2（学生）：事業開発から起業までの一気通貫プログラムです。（最大300万円、最長1年）
	参考URL	https://www.parks-startup.jp/program/

■ 地域プラットフォーム共創支援

採択年度	2023年度	
プラットフォーム名	Tech Startup HOKURIKU(TeSH)	
主幹機関	北陸先端科学技術大学院大学【総括責任者】学長／未来創造イノベーション推進本部 本部長 寺野 稔 金沢大学【総括責任者】学長 和田 隆志	
SU創出共同機関	富山大学、福井大学、富山県立大学、公立小松大学、石川県立大学、金沢美術工芸大学、福井県立大学、金沢工業大学、金沢医科大学、北陸大学、福井工業大学、富山高等専門学校、石川工業高等専門学校、福井工業高等専門学校、株式会社ビジョンインキュベイト	
全体概要	TeSHは、北陸先端科学技術大学院大学と金沢大学を主幹機関とし、北陸3県の10大学、3高専を共同機関とする北陸地域の大学・高専発スタートアップ創出プラットフォームである。事業化推進機関には金沢大学が100パーセント出資するベンチャーキャピタルをはじめ、地域ベンチャーキャピタル5社など9機関が参画する。協力機関には3県の自治体、外郭団体、地銀、経済団体など29機関が参画し、産学官金連携体制を構築する。本プラットフォームによって、北陸地域の人材・知・資金が継続的に循環するエコシステムを構築し、2033年までに大学・高専発スタートアップを累計100社とするなど、スタートアップ創出環境を質・量ともに格段に充実させる。	
実施中のGAPファンド概要	名称	TeSH GAP ファンドプログラム
	Step1	ステップ1〔応用研究〕 基礎研究の成果について、ビジネスとしての可能性を評価できる段階まで引き上げることを目指します。 支援金額：500万円（最大） 研究期間：1年（最長）
	Step2	ステップ2〔概念実証・スタートアップ組成〕 前半ではビジネスとしての可能性の評価と実証（PoC）を行い、起業にあたってのクリアすべき課題の解決を目指します。 後半ではこれらの取り組みに加え、大学等発スタートアップの組成とVCが投資判断できるレベルに向けて、PoCを継続して実施します。 支援金額：6,000万円（最大） 研究期間：3年（最長）
	参考URL	https://tech-startup-hokuriku.jp/program/index.html



大学発新産業創出基金事業 スタートアップ・エコシステム共創プログラム 採択プロジェクト一覧

※2026年1月22日現在

採択年度	2023年度
プラットフォーム名	Inland Japan Innovation Ecosystem(IJIE)
主幹機関	信州大学【総括責任者】理事（研究、産学官・社会連携担当）、副学長 清水 聖幸
SU創出共同機関	山梨大学、宇都宮大学、群馬大学、埼玉大学、自治医科大学、埼玉医科大学、東洋大学、株式会社信州TLO
全体概要	IJIEは、甲信・北関東の地方大学の特色ある研究成果・技術シーズに基づく起業を地方自治体、地方銀行等との連携により推進し、地方型スタートアップ・エコシステムを実現するプラットフォームである。地方大学と地域のステークホルダーの連携による課題解決力と地域貢献の実績を軸に、ベンチャーキャピタルや先進地域との連携を通じて、社会を変える地方発のスタートアップを創出する。IJIEの取組みを通して、地域に独自のイノベーションエコシステムを構築することにより、スタートアップと地域産業との融合・連携により新たな付加価値と雇用を創出し、本地域の活性化と経済成長に貢献する。
実施中のGAPファンド概要	名称 IJIE-GAP ファンドプログラム
	Step1 ステップ1 起業シーズ発掘育成フェーズ 事業終了時点でビジネスの可能性評価を目指します。 スタートアップ枠「プレ」：500万円／1年以内（直接経費） インパクトビジネス枠：300万円／1年以内（直接経費）
	Step2 ステップ2 事業化検討フェーズ 事業終了時点で出資や融資による投資判断ができるレベルを目指します。 スタートアップ枠「スタンダード」：3,000万円／2年以内（直接経費） スタートアップ枠「スタンダード+α」：6,000万円／3年以内（直接経費） インパクトビジネス枠：2,000万円／2年以内（直接経費） ※スタートアップ枠：大学等の技術シーズをもとにした社会的に大きなインパクトをもたらすビジネスによりイノベーションを創出し、短期間で急成長することに依って大きな経済的リターンを得るスタートアップの設立を目指す。 インパクトビジネス枠：大学等の研究成果を基にした社会課題を解決するソリューションにより、地域・社会全体に好循環をもたらし、着実な収益を早期に得ながら持続可能な成長をするスタートアップの創出を目指す。
	参考URL https://ijie.jp/startup-program/

■ 全国ネットワーク構築支援

(2025年1月公表)

採択年度	2024年度
参画プラットフォーム	全体概要
北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク (HSFC) みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム (MASP) Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE) Tokai Network for Global Leading Innovation (Tongali) 関西スタートアップアカデミア・コアリション (KSAC) Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI) Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS) Tech Startup HOKURIKU (TeSH) Inland Japan Innovation Ecosystem (IJIE)	既存の各種施策と連携し、大学等発スタートアップ創出の強化に向けた取組を全国で効率的・効果的に促進するため、国内外における事業化推進や研究活動等に関する情報、助言等を効率的・効果的に取得できるネットワークの構築を行う。具体的には以下の取組を実施していく。 1. 既存事業に取り組んでいる各プラットフォームにおいて形成されつつあるスタートアップ・コミュニティの国内外への発展を促し、全国ネットワークの基盤とする。 2. 全国9プラットフォームに存在する研究シーズ情報、経営者候補人材情報や事業化支援人材情報のデータベースを整備し、それぞれにおいてマッチングの仕組みを構築する。 3. 全国9プラットフォームが共通して利用できる海外拠点を整備し、スタートアップのアウトバウンド支援とともにインバウンド投資を促進する。 4. 全国9プラットフォームのエコシステムのブランディングを行うとともに、主要な案件についてはデザインアプローチの手法を用いた「見える化」を行い、国内外へ発信する仕組みを構築する。 5. 自治体や行政と連携したワンストップ窓口の整備を行い、全国のスタートアップのニーズに応える。これらの活動を通じて、政府目標であるスタートアップのすそ野拡大とユニコーン創出に寄与していく。
代表者	
渡部俊也（東京科学大学 副学長） 室田浩司（京都大学 副理事／成長戦略本部 本部長） 河野廉（名古屋大学 学術研究・産学官連携推進本部 スタートアップ推進室 室長） 大西晋嗣（九州大学 副理事／学術研究・産学官連携本部 本部長補佐） 辻本将晴（東京科学大学 イノベーションデザイン機構 機構長）	



大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム 採択プロジェクト一覧

第一期ステージ1

※所属・役職名はすべて採択時のものとなります。

事業化人材(所属機関※公表は任意)	課題名
相山 佑樹	集中治療室の診療効率化と価値共創型医療の実現
運 愛斗 (東京大学)	多孔性材料による中分子医薬品の精製
梶山 一臣	生成AIによる産業安全のリスクアセスメント
河野 功	次世代チップスケール原子時計の国内量産化
佐野 智	空気からつくる宇宙食
白井 紗耶加	BMI (ブレイン・マシン・インターフェース)技術を用いた義足の開発
末宗 拓馬 (三菱ケミカル株式会社)	革新的なタンパク質製造・構造解析技術を活用した新産業の創出
杉村 正暁	稲作から酒造迄のプロセスにおけるCO2 回収ビジネス、J クレジット化
園生 悠太	有効な既存治療がない心不全疾患に対する新規医療機器の開発
高須賀 聖五 (奈良先端科学技術大学院大学)	“3Dプリンタ×機械学習”による次世代のポリマー販売戦略
田中 柚希 (東京科学大学/理化学研究所)	バイオインフォマティクス及び合成生物学を活用した乳幼児向け栄養素の作成
辻井 豪佑 (北海道大学)	未利用水産資源を原料とした機能性家畜飼料の開発
寺田 曜	エコブローブの革新により、エコの可能性を最大化する
橋口 理佳	洗浄機能付きマイボトル用自動販売機
針崎 康太	動物園飼育員の猛獣による死傷事故の撲滅
疋田 啓太 (情報通信研究機構)	キレイな空気による農業ブランディング
藤野 沙季 (株式会社ZIPAIR Tokyo)	太陽活動データ解析によるオーロラの明るさと発生時期予報サービス
友政 蘭	新規作用機序による抗がん剤の開発
森 健太郎 (DIT 合同会社)	データセンター業界の抱える課題を解決する技術シーズの事業化
若口 明人 (株式会社SkyDrive)	炭素繊維エコサイクル創造:炭素繊維複合材料のリサイクル技術とリサイクル炭素繊維(rCF)を用いた新材料開発



大学発新産業創出基金事業 早暁プログラム 採択プロジェクト一覧

第一期ステージ2

※所属・役職名はすべて採択時のものとなります。

プロジェクト名	事業化人材	研究代表者	概要
革新的海藻乾燥システム でつくる駆虫飼料の開発	辻井 豪佑	北海道立総合研究機構 エネルギー・環境・ 地質研究所 研究主幹 白土 博康	畜産業では人工駆虫薬の耐性化・残留が深刻である。本課題では「海藻」を利用したクリーンエコシステム構築を目標とし、コア技術となる温泉熱を利用した海藻乾燥機の開発（デモ機作成、商用機設計）、線虫毒性試験、製造ライン設計を行い、駆虫効果を持つ独自開発の海藻飼料販売を行う新事業の起業を目指す。
生成AIを活用した爆発火 災リスクアセスメント支 援ツール開発	梶山 一臣	産業技術総合研究所 安全科学研究部門 主任研究員 牧野 良次	プロセス製造業向けに、リスクアセスメントを支援する次世代エキスパートAI付き作業指示書電子化アプリ（工場DXアプリの一種）を開発・提供し、爆発火災リスク低減、業務効率化、技術人材不足の解消を実現する。市場性・競合調査を通じて自身のプロダクトの有効性、優位性、参入可能性を明らかにし、実用性を検証する。
オーロラ中長期予測シ ミュレーションモデルの 構築（予測精度向上）と予 報サービスビジネスモデ ルの確立	藤野 沙季	東京大学 大学院理学系研究科 教授 今田 晋亮	太陽観測データを活用した、シミュレーションと機械学習等を組み合わせた独自の解析技術により、観測価値の高いレベル3以上のオーロラの直前期予測と中長期予測を実現する。
MOFを用いた中分子医薬 品の精製	運 愛斗	東京大学 大学院工学系研究科 准教授 細野 暢彦	本課題では、多孔性金属錯体(MOF)を用いた中分子・高分子分離技術に関わる製品やサービスを提供する事業に向けた研究開発を行う。初期ターゲットとして、ペプチド医薬品原薬の精製工程における効率を飛躍的に向上させる技術の提供を行う。
フェノタイプに依存しな い抗がん剤の社会実装に 向けた技術検証	友政 蘭	東京都立大学 大学院都市環境学研 究科 准教授 佐藤 潔	独自の細胞改変技術を応用して、難治性がんに対して新たな治療選択肢となる「フェノタイプ(特定のバイオマーカー)に依存しない、がん選択的で副作用の少ない抗がん剤」の創出を目指す。上記コンセプトの実現性の観点から技術検証を行い、将来的な大学発ベンチャーの設立を見据えた事業計画を策定する。
農業残渣の活用から始ま る循環型バイオ水素製造 システムによる地方創生・ エネルギー安全保障統合 モデルの事業化	杉村 正暁	福井大学 学術研究院工学系部門 教授 浅野 貴行	稲わらなどの農業残渣(ざんさ)を原料として、農家が自らエネルギー(水素・熱)を生産し、その過程で発生する副産物として生成されるカーボンナノチューブを事業者が買い取る仕組みにより、小型オンサイト循環システムと副産物による収益向上と持続可能な農業の実現を図る。
炭素繊維エコサイクル創 造:炭素繊維複合材料のリ サイクル技術とリサイク ル炭素繊維(rCF)を用い た新材料開発	若口 明人	静岡大学 大学院総合科学技術 研究科 准教授 岡島 いつみ	炭素繊維複合材料のリサイクル技術およびリサイクル技術に応じたrCF製品を開発し、炭素繊維リサイクルのエコサイクルを構築、将来発生する可能性が極めて高い社会問題の解決を目指す。
タンパク質の革新的な設 計・製造技術を活用した新 産業の創出	末宗 拓馬	鳥取大学 工学部 准教授 鈴木 宏和	大学研究シーズの集約によって、タンパク質の革新的な設計・製造プラットフォーム(プロテインファウンドリー)を確立し、既存の産業用タンパク質が抱えるさまざまな課題を解決する。また安定性や価格を理由に、これまでは活用が困難であったタンパク質の社会実装を達成し、新たなタンパク質市場の創出を目指す。
チップスケール原子時計 に適したレーザー光源の 技術ならびに事業化検証	河野 功	九州大学 総合理工学研究院 教授 濱口 達史	チップスケール原子時計(CSAC)用のレーザー光源は、アルカリ金属ガスの原子共鳴に作用するための狭線幅や安定動作が要求される。レーザー品質のバラツキがCSACの性能に直結するため、製造時に良品を選別しなければならないといった課題もある。本活動では、性能ならびに供給面でCSACに適した高性能レーザー光源の開発を目指す。
濡れないミスト冷却によ る高効率空調システムを 実現する、AI特化データセ ンターの開発事業	森 健太郎	琉球大学 工学部 教授 瀬名波 出	水分が設備やサーバーに付着しないミスト技術をコア技術として、AI特化の高効率空調システムを持つデータセンターの開発を目指し、本プログラムでは実験室環境下でサーバーを使ったミスト冷却の効果を検証する。起業前までにデータセンターのモックアップ環境下での実証を行い、プロダクトマーケットフィットの完了を目指す。



大学発新産業創出基金事業 プロジェクト推進型 起業実証支援 採択プロジェクト一覧

※所属・役職名はすべて採択時のものとなります。

採択年度	プロジェクト名	研究代表者	事業プロモーターユニット	概要
2023年度	バイオ医薬品等の難 吸収性薬物の経皮吸 収型製剤の開発	筑波大学 生命環境系 教授 臼井 健郎	サナメディ株式会社	侵襲的で痛みを伴う注射に投与が限定される バイオ医薬品等を対象にした、2種類の皮膚 バリアを透過可能な経皮吸収促進剤を実用化 する。これにより、患者や医療従事者等の負担 を軽減する経皮剤を開発するスタートアップ 設立を目指す。
	モノマーと肥料を与 えるポリカーボネー トのケミカルリサイ クルの事業化	千葉大学 大学院工学研究院 准教授 青木 大輔	インキュベイトファン ド株式会社	ポリカーボネートをアンモニアで処理すると モノマーと肥料として働く尿素に分解でき る。本反応を利用した経済合理性のあるポリ カーボネートケミカルリサイクルの事業化に より、環境的付加価値がある廃棄プラスチック 資源循環を実現するスタートアップ設立を 目指す。
	革新的細胞運命変換 技術による人工膵島 の開発と1型糖尿病 根治治療法の実用化	順天堂大学 難病の診断と治療研 究センター 特任教授 松本 征仁	Beyond Next Ventures 株式会社	多能性幹細胞を介さず体細胞からイン スリン分泌細胞へ直接分化させるダイ レクトリプログラミング技術を活用し た、安全性が高く低コストの再生医療等 製品により、1型糖尿病の根治治療法を 実現するスタートアップ設立を目指す。 ※「膵島」の読みは「すいとう」。
	超スマート社会を支 える超小型原子時計 のガスセル製造技術	京都大学 大学院工学研究科 講師 平井 義和	株式会社みらい創造イ ンベストメンツ	シリコン微細加工技術を活用した原子時計用 アルカリ金属封入ガスセルの製造技術を開発 し、低価格かつ高性能なガスセルを提供する ことで超小型原子時計による超スマート社会 を実現するスタートアップ設立を目指す。
	世界初の一酸化炭素 中毒に対する解毒剤 及び当該技術を活用 した他のガス中毒の 解毒剤の開発	同志社大学 理工学部 教授 北岸 宏亮	バイオ・サイト・キャピ タル株式会社	血中で一酸化炭素(CO)と結合して尿として 排泄させる化合物「hemoCD」を活用し、火災 等で発生するCO中毒およびその他のガス中 毒を救急救命現場で治療できる解毒剤を開発 し、医療実装を実現するスタートアップ設立 を目指す。
	次世代型人工ペプチ ド・タンパク質のため の人工リボソームプ ラットフォームの事 業化	大阪大学 大学院工学研究科 教授 青木 航	ANRI株式会社	自由自在にリボソームを改変可能な合成生物 学の独自技術を実用化し、産業応用可能な次 世代型人工ペプチド・タンパク質を創成す る事業への展開を目指す。
	フォトン・アップコン バージョン技術の事 業化	九州大学 大学院工学研究院 准教授 楊井 伸浩	QBキャピタル合同会社	低エネルギー光を高エネルギー光に変換する フォトン・アップコンバージョン(UC)技術 を実用化する。低輝度光・レアメタルフリーで 世界最高効率のUC技術によって、生活空間に 豊富に存在する可視光等を活用するスタート アップ設立を目指す。
	ブロックチェーン技 術でネット詐欺の撲 滅を目指す通信デー タ公証プロトコルの 事業化	佐賀大学 理工学部 准教授 中山 功一	バイオ・サイト・キャピ タル株式会社	Web3時代のセキュリティーを保証する革新 的な技術であるトラストレイヤーを開発し て、他人をかたるSPAMメールを無くすこと により、安全安心なインターネット環境を顧 客に提供するスタートアップ設立を目指す。



大学発新産業創出基金事業発スタートアップ一覧

♡ ライフサイエンス 緑 環境・エネルギー 電波 情報通信 分子 ナノテクノロジー・材料 果物 農林水産 その他 その他

設立年	分野	会社名	キャッチコピー	研究代表者所属機関
可能性検証				
2024年	♡	RadioNano Therapeutics 株式会社 RadioNano Therapeutics株式会社	ホウ素中性子捕捉療法とナノテクノロジーを駆使した革新的ながん治療の実現に向けて	京都大学
ディープテック・スタートアップ国際展開プログラム (D-Global)				
2025年	分子	IntraPhoton 株式会社 IntraPhoton	希土類添加 GaNLED 技術で、「現実と区別がつかない」VR/AR体験を実現する次世代マイクロLEDを商用化	立命館大学
スタートアップ・エコシステム共創プログラム				
■ 北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク (HSFC)				
2025年	その他	株式会社 Real Touch	誰でも5分で作業を教えられる手先感覚を持った汎用ロボットで人手不足を解消	北海道大学
■ みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム (MASP)				
2025年	電波	TouchStar 株式会社 TouchStar	触覚体験をアーカイブし、共有できる世界を創る	東北大学
■ Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)				
2025年	緑	Lead accel 株式会社 Lead accel	東京科学大学の液体金属技術をベースにして、小型で経済性に優れた加速器駆動型核変換システム (ADS: Accelerator Driven System) の実現を目指す会社です	東京科学大学
■ Tokai Network for Global Leading Innovation (Tongali)				
2025年	♡	PulmoGate 株式会社 PulmoGate	遠隔専門家診断とAIで間質性肺炎診療の新しい標準を創るプラットフォーム	名古屋大学
2025年	緑	プロ・クリエイティブ プロ・クリエイティブ株式会社	日本社会を新しい発想で社会未来を創り維持する会社（サービス、工学、農業他、生命と生活維持に必要なリン元素を中心に、火災やエネルギー他、日本経済の柱を支える総合会社）	名古屋大学
2025年	♡	株式会社 花酵母factory	有用微生物の採取と利用に関するコンサルティング発酵技術を使って新しいモノを生み出しませんか？	名城大学
2025年	分子	Thermiel 株式会社 Thermiel	Thermielはサーモグラフィによる熱物性マッピング技術を中核とし、半導体の熱設計に新たなソリューションを提供します	名古屋大学
■ 関西スタートアップアカデミア・コアリション (KSAC)				
2025年	分子	京都MPI株式会社	欲しい素材が計算通りにできる世界を作る	京都大学
■ Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI)				
2025年	その他	SYNRA 株式会社	「止められない社会インフラ」の安全と可用性を支えるための革新的な非接触型振動可視化技術を提供する	広島大学
■ Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup-ecosystem (PARKS)				
2025年	果物	株式会社 Arthron	畜産害虫サシバエの防除対策をはじめ、食料生産現場の課題解決に取り組んで参ります	九州大学
2025年	その他	Ouranox Technologies 株式会社	超低軌道を通した新たな宇宙利用の実現	九州大学
2025年	その他	KICK SPACE TECHNOLOGIES キックスペーステクノロジーズ株式会社	九州から宇宙のフロンティアを切り拓く	九州工業大学
2025年	その他	株式会社 Kyutech Space Solution for Emrgings	宇宙開発のDemocratization、社会課題解決サービス等、“誰でも使える宇宙”の実現を目指します	九州工業大学
2025年	♡	株式会社 Alteonus	世界中の“歯磨きが難しい人”に、やさしい選択を。鹿児島大学発「歯磨きスイーツ」たべる × オーラルケア	鹿児島大学
■ Inland Japan Innovation Ecosystem (IJIE)				
2025年	分子	ICTECH 株式会社 ICTECH	唯一無二の技術で、見えない炭素の世界を可視化し、材料の新しい価値を創造する Visualize Carbon's True Performance	群馬大学

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム(START)

大学等の「知」が社会で活用される日本型イノベーション・エコシステムの確立を目指して

大学発新産業創出プログラム(START) プロジェクト推進型

各プログラムの概要

大学発新産業創出プログラム(START) プロジェクト推進型は、以下の各プログラムで構成されています。

▶プロジェクト推進型 事業プロモーター支援(⇒P.24)

※新規の公募の予定はありません。

支援対象:日本国内に法人格を有する機関

プロジェクト推進型・事業プロモーター支援は、事業プロモーターと大学等の研究者をつなぎ、研究開発と事業育成を支援します。

▶プロジェクト推進型 SBIRフェーズ1支援(⇒P.25)

支援対象:研究機関に所属する研究者

プロジェクト推進型 SBIRフェーズ1支援は、各省庁等から社会ニーズ・政策課題をもとに設定された研究開発テーマに対して、大学等の研究者による独創的アイデアにより研究者自らが概念実証(POC: Proof of concept)や実現可能性調査(FS: Feasibility study)を実施し、大学等発スタートアップの起業や、大学等発スタートアップを含む既存中小企業(設立15年以内)への技術移転を行うことにより、新技術の事業化を目指すプログラムです。

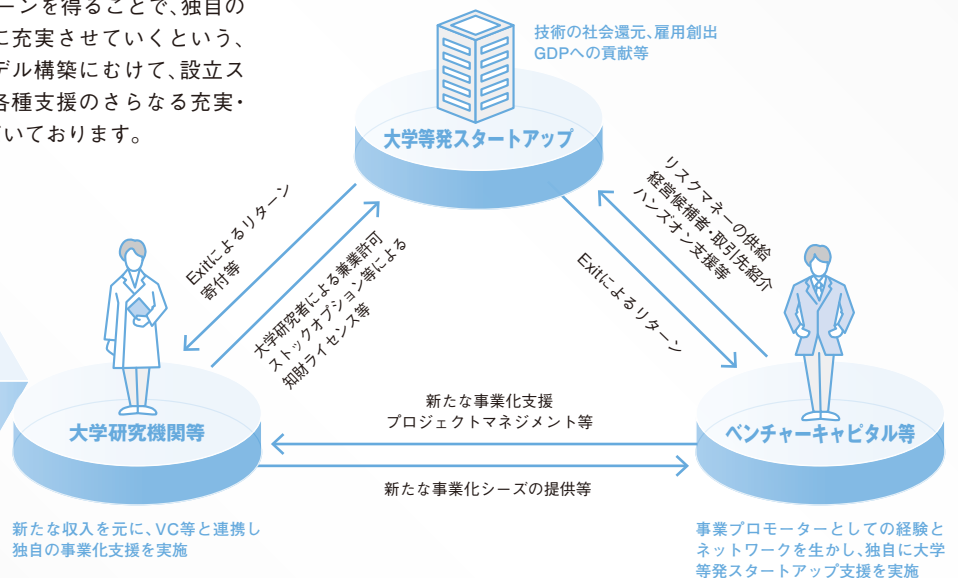
プロジェクト推進型 事業プロモーター支援

※新規の公募の予定はありません。

プロジェクト推進型 事業プロモーター支援では、事業化ノウハウを持った人材(事業化プロモーター)ユニットが、大学等のポテンシャルの高い技術シーズの探索とデューデリジェンスを行い、事業戦略・知財戦略を構築しつつ、市場や出口を見据えて事業化を目指します。これにより、大学等の研究成果の社会還元を実現し、持続的な仕組みとしての日本型イノベーションモデルの構築を目指します。

持続的な日本型イノベーションモデルの構築 (イメージ例)

大学・研究機関およびベンチャーキャピタルの皆様には、設立スタートアップを大きく成長させ、大きなリターンを得ることで、独自の事業化支援をさらに充実させていくという、イノベーションモデル構築にむけて、設立スタートアップへの各種支援のさらなる充実・強化を進めていただいております。



支援内容

事業プロモーター支援

支援目的	起業に向けた研究開発・事業化
支援対象	大学等の基礎研究成果等を対象とした、研究開発・事業育成を一体的に推進するための事業化ノウハウを有し、研究開発費を効果的・効率的に活用し得る、日本国内に法人格を有する機関
研究開発期間	原則5年度
研究開発費 (直接経費)	770万円/年(上限)
問い合わせ先	スタートアップ・技術移転推進部 スタートアップ第1グループ 〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町 TEL:03-5214-7054 E-mail: start@jst.go.jp https://www.jst.go.jp/start/promoter/index.html



プロジェクト推進型 SBIRフェーズ1 支援

プロジェクト推進型 SBIRフェーズ1 支援は、各省庁等から社会ニーズ・政策課題をもとに提示された研究開発テーマに対して、大学等の研究者による独創的アイデアにより研究者自らが概念実証(POC: Proof of concept) や実現可能性調査(FS: Feasibility study) を実施し、大学等発スタートアップの起業や、大学等発スタートアップを含む既存中小企業(設立15年以内) への技術移転を行うことにより、新技術の事業化を目指すプログラムです。

イノベーション創出に寄与する制度として抜本強化された「中小企業技術革新制度(SBIR)」の一環として、「研究開発と Society 5.0との橋渡しプログラム(BRIDGE)」の主導のもとで実施します。

【参考】

・SBIR(中小企業技術革新制度) 特設サイト
<https://sbir.csti-startup-policy.go.jp/>



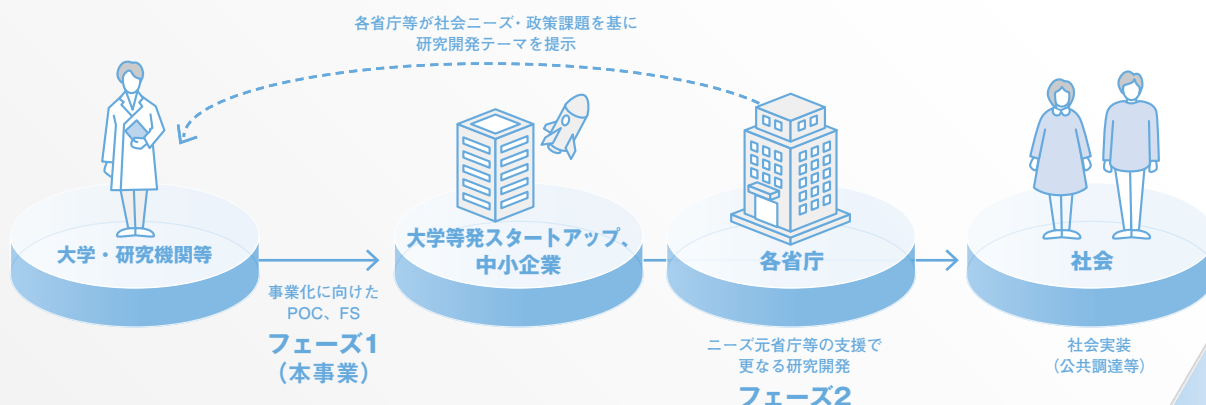
・研究開発と Society 5.0との橋渡しプログラム(BRIDGE)
<https://www8.cao.go.jp/cstp/bridge/index.html>



事業の特徴

- ① 各省庁等から社会ニーズ・政策課題をもとに提示された「研究開発テーマ」に対して、下図の「フェーズ1」にあたる研究開発提案を募ります。研究開発テーマのニーズ元省庁等は審査や評価に関わります。
- ② 「研究者自身による起業」、もしくは、「大学等発スタートアップを含む既存中小企業(設立15年以内)への技術移転」が対象となります。申請時に、どちらを目指すのか記載していただきます。
※一部、「大学等発スタートアップを含む既存中小企業(設立15年以内)への技術移転」が対象外の研究開発テーマがあります。
- ③ 年度末に開催を予定している成果発表会で、研究開発や事業化に向けた活動の成果を発表していただきます。
- ④ 本プログラム終了後には、ニーズ元省庁等により実施される「フェーズ2」のSBIR対応プログラムやその他の起業支援プログラム等に繋げ、社会ニーズ・政策課題の解決に寄与することを期待します。

SBIR制度全体のイメージ



活動実施の流れ

STEP1

申請

大学等の研究者により申請書を提出いただきます。

※技術移転を目指す場合は、技術移転先企業の同意が得られていることが必要です。申請内容についても共同で検討してください。

STEP2

審査・選考

申請書をもとに外部評価委員会にて審査を実施し、支援の可否を決定します。研究開発テーマのニーズ元省庁等が審査に参画します。

STEP3

プロジェクト開始

提案の採択後、JSTは研究開発を実施する機関と委託研究契約を締結します。研究代表者を中心として事業化に向けた研究開発を実施していただきます。

STEP4

成果発表会

研究開発や事業化に向けた活動の成果を発表していただきます。一般公開イベントとして実施する予定です。

支援内容

支援目的

大学等発スタートアップの起業や大学等発スタートアップを含む既存中小企業（設立15年以内）への技術移転に向けた研究開発

支援対象

以下のいずれかに該当する機関に所属する研究者
国公立大学、国公立高等専門学校、大学共同利用機関法人、独立行政法人（国立研究開発法人を含む）、地方独立行政法人、公益財団法人、公益社団法人、一般財団法人、一般社団法人
ただし、一般財団法人、一般社団法人は、
1. 旧制公益法人から移行したものであること
2. 非営利型法人であること
3. 定款に事業として「研究」を含むこと
を満たしているものが対象です。

応募分野

各省庁等における社会課題や政策ニーズを元に設定された「研究開発テーマ」に対応する分野

研究開発期間

1年度（当該年度の3月末まで）

研究開発費（直接経費）


750万円（上限）

問い合わせ先

スタートアップ・技術移転推進部
スタートアップ第1グループ
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町
TEL:03-5214-7054 E-mail: sbir-one@jst.go.jp
<https://www.jst.go.jp/start/sbir/index.html>



♥ ライフサイエンス

<p>歩容認証を活用した AI 疾患鑑別・評価技術により、歩行困難者の早期発見・回復に貢献</p>  <p>株式会社 ayumo Founded 2023 大阪南医療センター</p>	<p>持続可能な地域医療・福祉を支える支援技術・支援機器による共生社会の実現</p> <p>ケイエムエデュケーション合同会社 Founded 2025 熊本高等専門学校</p>
---	---







🌿 環境・エネルギー

環境 DNA サンプルング技術の普及・発展を通してネイチャーポジティブ成長社会の実現に貢献




株式会社 OceanFluidics
Founded 2025
海洋研究開発機構

📶 情報通信

<p>社会的知能を持つ会話 AI で Society 5.0 の実現へ</p>  <p>株式会社 エクムノポリス Founded 2022 早稲田大学</p>	<p>デジタルツインにより、実世界のヒトとモノの動きを先読みし、安全で豊かな未来を創造する</p>  <p>株式会社 ハイパーデジタルツイン Founded 2022 芝浦工業大学</p>	<p>ヒトが支援技術に合わせるのではなく、支援機器がヒトに合わせる機器開発を通して共生社会の実現に貢献</p>  <p>志エンボディ合同会社 Founded 2022 愛媛大学</p>	<p>水中 LED と光カメラ通信で切り拓く、海洋センシングの実用化と持続可能な社会の実現</p>  <p>株式会社 UMINeCo Founded 2024 東京農工大学</p>
<p>未来の技術移行を支える革新的なソリューションを提供し、持続可能で豊かな社会の実現に貢献</p>  <p>株式会社 M2T2 Founded 2025 東京科学大学</p>	<p>学習障害につながる眼球運動の苦手さを検査し、トレーニングで解消する社会を目指す</p> <p>Vison Labs 株式会社 Founded 2025 関西学院大学</p>	<p>誰もが快適に AR を体験できる世界を実現し、人とテクノロジーの新しい関係を創造する</p>  <p>株式会社 Iridescence Founded 2025 東京大学</p>	

🌾 農林水産

<p>自動航行船（ロボット漁船）で既存産業の労力削減と新産業の創出を目指す</p>  <p>株式会社 ロボティクスセーリングラボ Founded 2023 大阪公立大学</p>	<p>遺伝的改変による気候危機・温暖化に強いスーパーコシヒカリの開発と環境最適化によるプロセスイノベーション</p> <p>株式会社 ニューディメンジョン DNA 研究所 Founded 2024 静岡大学</p>	<p>エコシステムモデルを確立し、食卓に美味しい冷水性高級魚介類を提供する養殖プロジェクト</p> <p>株式会社 ハイパーフード・アクア Founded 2025 北里大学</p>	<p>海底水揚水装置により水産資源の持続的な利用、水産業の成長に貢献</p> <p>株式会社 Oceanics Japan Founded 2025 広島大学</p>
--	--	--	--

♡ ライフサイエンス

<p>複合型光ファイバー技術を利用した医療機器及び産業用機器</p>  <p>株式会社OKファイバーテクノロジー Founded 2013 量子科学技術研究開発機構</p>	<p>確かな技術で医療ロボティクスをリードする</p>  <p>リバーフィールド株式会社 Founded 2014 東京工業大学</p>	<p>世界中の遺伝病で苦しんでいる人々へ貢献する</p>  <p>ときわバイオ株式会社 Founded 2014 産業技術総合研究所</p>	<p>全ての人に血糖計を</p>  <p>株式会社PROVIGATE Founded 2015 東京大学</p>
<p>自動運転から医療、見守りなど幅広い分野のセンサを開発する女性90%の企業です</p>  <p>ひびきの電子株式会社 Founded 2016 九州工業大学</p>	<p>機能性ペプチドによるアンチエイジング化粧品・育毛剤の開発</p> <p>アンチエイジングペプチド株式会社</p> <p>Founded 2016 大阪大学</p>	<p>鳥取から世界へ、肝疾患領域の細胞治療と創薬研究開発を通じた医療イノベーション</p>  <p>カノンキュア株式会社 Founded 2016 鳥取大学</p>	<p>人の心や感性を可視化する</p>  <p>株式会社TOFFEE Founded 2016 長岡技術科学大学</p>
<p>がんの個別化医療に貢献</p>  <p>京ダイアグノスティクス株式会社 Founded 2016 京都大学</p>	<p>脱細胞化した生体組織を用いた膝前十字靭帯再建用の人工靭帯の開発・事業化</p>  <p>CoreTissue BioEngineering株式会社 Founded 2016 早稲田大学</p>	<p>Unmet Medical Needs解消に貢献する改良型アドレノメデュリンの新規創薬</p>  <p>ひむか AMファーマ株式会社 Founded 2017 宮崎大学</p>	<p>植物から、無限大の可能性を</p>  <p>グランドグリーン株式会社 Founded 2017 名古屋大学</p>
<p>食材の新機能を見つけて社会課題を解決する</p> <p>株式会社食機能探索研究所</p> <p>Founded 2017 筑波大学</p>	<p>世界初、非侵襲血糖値センサー</p>  <p>ライトタッチテクノロジー株式会社 Founded 2017 量子科学技術研究開発機構</p>	<p>治療法がなかった難治性慢性炎症性疾患に対峙して、新規治療法の開発に挑む</p>  <p>ペリオセラピア株式会社 Founded 2017 大阪大学</p>	<p>次世代型核酸医薬の開発を目指して</p>  <p>株式会社e-NA Biotec Founded 2018 愛知工業大学、岐阜大学</p>
<p>藻類の研究開発で、地球の未来に貢献する</p>  <p>株式会社アルガルバイオ Founded 2018 東京大学</p>	<p>昆虫のカイコで医薬品・ワクチンの原料となる唯一無二のタンパク質を生産することを旨とする</p>  <p>KAICO株式会社 Founded 2018 九州大学</p>	<p>無細胞膜タンパク質調製技術及び非天然型アミノ酸導入技術を用いた革新的創薬</p>  <p>リベロセラ株式会社 Founded 2018 理化学研究所</p>	<p>今、薬がない人に薬をとどける</p>  <p>株式会社FuturedMe Founded 2018 東京理科大学</p>
<p>エクソソーム解析 / miRNA測定システムの製品化、検査・創薬支援</p>  <p>株式会社イクストリーム (iXstream) Founded 2018 東京大学</p>	<p>エンジニアリング技術を、メディカル業界へ橋渡し</p>  <p>メドリッジ株式会社 Founded 2019 名古屋大学</p>	<p>健康を願う病気に備える人達を機器分析の側面から支える</p>  <p>株式会社プレッパーズ Founded 2019 浜松医科大学</p>	<p>"Magnet System" 光スイッチゲノムエンジニアリングシステム</p>  <p>株式会社ミーバイオ Founded 2019 東京大学</p>
<p>生物を生きたまま電子顕微鏡観察</p>  <p>NanoSuit株式会社 Founded 2019 浜松医科大学</p>	<p>病理画像解析の常識を変える</p>  <p>株式会社APSAM Imaging Founded 2019 大阪大学</p>	<p>ヒト及び動物領域で first-in-class、best-in-classの治療用モノクローナル抗体医薬品を提供</p>  <p>株式会社マブジェネシス Founded 2019 宮崎大学</p>	<p>[アイトラッキング式認知機能評価法]を用いた医療機器、アプリケーションの開発</p>  <p>株式会社アイ・ブレインサイエンス Founded 2019 大阪大学</p>
<p>ジスルフィドリッチペプチド創薬のリーディングイノベーター</p>  <p>Veneno Technologies株式会社 Founded 2020 産業技術総合研究所</p>	<p>息づく細胞技術</p>  <p>HiLung株式会社 Founded 2020 京都大学</p>	<p>磁気ターゲティングによる幹細胞を用いた治療で、世界の変形性関節症患者様に貢献</p>  <p>株式会社 Flying Cell Founded 2020 広島大学</p>	<p>超高感度デジタルウイルスアッセイによって、感染症に対してレジリエントな社会を実現する</p>  <p>株式会社ソティステクノロジーズ Founded 2020 東京大学</p>

次世代経皮吸収技術を用いて
医療を身近に、人々に質の高い生活を実現



NOVIGO Pharma株式会社
Founded 2021
九州大学

人工細胞膜の可能性を追求する



株式会社 MAQsys
Founded 2021
神奈川県立産業技術総合研究所

血液中の1分子酵素活性検出による
疾患早期診断



コウソミル株式会社
Founded 2022
東京大学

Be your Force! 核心に迫る
定量メタボローム解析



株式会社ビーフォース
Founded 2022
九州大学

がん検査に、血液だけではなく、
涙を使う選択肢を提供し、
人々のQOL向上に貢献します



株式会社 TearExo
Founded 2022
神戸大学

最先端科学と医療をつなぐ
銅の放射性同位体 64Cuを用い、
革新的「見える」がん治療薬を開発



リンクメッド株式会社
Founded 2022
量子科学技術研究開発機構

臨床の現場から
本当に役立つ治療法を世界に



株式会社 KOEDA
Founded 2022
東北大学

DTxに新たな波を起こす
心不全の再入院を無くしたい



A-wave株式会社
Founded 2023
大阪大学

ハエで患者を救う!



株式会社 FlyWorks
Founded 2023
北海道大学

SNPD-siRNAという新しい創薬
モダリティで、がんや遺伝性疾患等の患者
さんに「負担の少ない医療」を提供します



株式会社 ANRis
Founded 2023
東京大学

環境・エネルギー

竹/プラスチック・コンポジット事業



合同会社テイクプラス
Founded 2014
九州工業大学

世界を変える、センサデバイス



株式会社 SiRiC
Founded 2015
大阪市立大学

ボール SAW センサによる微量水分計と
可搬ガスクロマトグラフ



ボールウェーブ株式会社
Founded 2015
東北大学

クリーン & 低コストで高度な水処理を実現



BioAlchemy株式会社
Founded 2019
沖縄科学技術大学院大学

Faster, Smaller, Smarter



株式会社 OOOO
Founded 2020
京都大学

持続的で活力のある社会のために、
高エネルギーの ORLIB 電池を提供します



ORLIB株式会社
Founded 2020
東京大学

CO₂を回収・有効利用する



株式会社 JCCL
Founded 2020
九州大学

リチウムで持続可能な
地球環境を次の世代に繋ぐ



LiSTie株式会社
Founded 2023
量子科学技術研究開発機構

深冷分離とPDMS吸収材を用いた
最も低コストのCO₂回収技術



株式会社カーボンクライオキャプチャー
Founded 2024
物質・材料研究機構

情報通信

たった数アクションで
世界の有望スタートアップを発見



Zuva株式会社
Founded 2017
京都大学

真にセキュアなIoTプラットフォーム
およびセンサネットワークの実現



株式会社 DDSNA
Founded 2018
筑波大学

少し良い未来のため人々の生活を
シンプルに



PLIMES株式会社
Founded 2018
筑波大学

イジングモデルで計算困難な課題を
解決する



株式会社 Jij
Founded 2018
東北大学

絶対安全な量子暗号通信の
社会実装を目指す



LQUOM株式会社
Founded 2020
横浜国立大学

触覚センサーでロボットを
もっと身近に



株式会社 FingerVision
Founded 2021
東北大学

限界を超える最適化で
パラダイムシフトを起こす

株式会社 fineOptimAI

Founded 2021
大阪工業大学

社会的知能を持つ会話 AI で
Society 5.0の実現へ



株式会社エキュメノポリス
Founded 2022
早稲田大学

数学と論理学のチカラで
社会に安心と安全を届ける



株式会社イミロン
Founded 2024
国立情報学研究所

ナノテクノロジー・材料

世界初！銅ペーストで配線を
AgからCuへ！



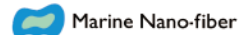
株式会社マテリアル・コンセプト
Founded 2013
東北大学

さりげなく人に寄り添うセンシング



株式会社フューチャーインク
Founded 2016
山形大学

「カニ殻でみんなを笑顔に」
～笑顔は素肌から、素肌の救世主として
肌の美しさをあなたに届けたい～



株式会社マリンナノファイバー
Founded 2016
鳥取大学

革新的バイオインターフェイスで
「人と機械の機能的融合」を実現する



インテリジェント・サーフェス株式会社
Founded 2016
東京大学

高周波雑音プローブシステム
Entrope®



株式会社デバイスラボ
Founded 2017
筑波大学

ナノスケール薄膜で素材を革新



株式会社Cool ALD
Founded 2019
山形大学

竹セルロースナノファイバーの
製造・販売を通じて「循環型経済社会と
脱炭素社会」を実現します



株式会社おおいた CELEENA
Founded 2021
大分大学

～素材の力で未来を創る～
超低消費コンピューティングで世界を変える



株式会社マテリアルゲート
Founded 2023
広島大学

計測技術のイノベーションを通して、
モノづくりのフロンティアを開拓する



株式会社Holoway
Founded 2023
兵庫県立大学

農林水産

見える「おいしさ」伝わる感動 AIビーフ技
術を活用し、肉用牛の環境要因（個体差）
を読み解き畜産のアップデートを目指す



株式会社ビーフソムリエ
Founded 2024
近畿大学

その他

小型・高出力で精密動作が可能な
動力伝達装置用システム



株式会社ミュラボ
Founded 2015
福島大学

いまこそ、ロボット労働力



株式会社チトセロボティクス
Founded 2018
立命館大学

すべての人々のモビリティにパワーを



BionicM株式会社
Founded 2018
東京大学

水を推進剤とした小型推進機により、
持続可能な宇宙開発を実現



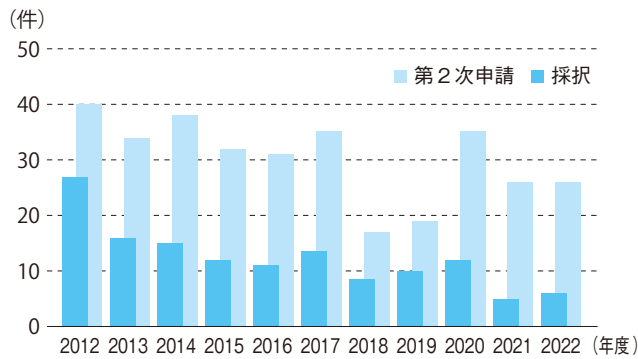
株式会社Pale Blue
Founded 2020
東京大学

全方向移動ロボットを活用し、ロボットと人、
ロボット同士の協調タスクの実現を目指す



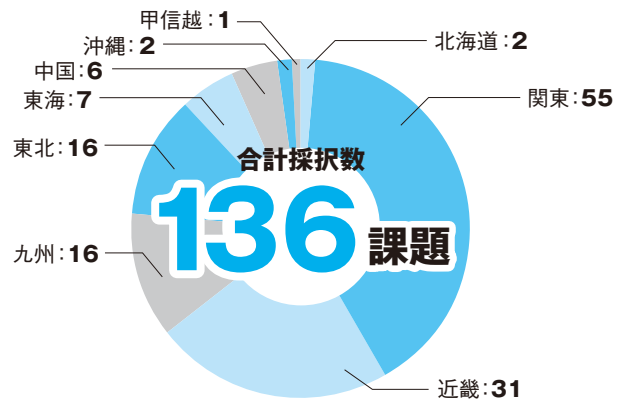
株式会社TriOrb
Founded 2023
九州工業大学

▶ 起業実証支援 第2次申請・採択状況

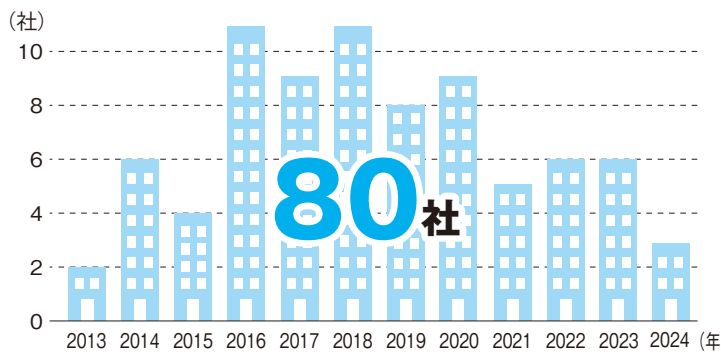


※ 2023年度は大学発新産業創出基金事業の下でプロジェクト推進型起業実証支援公募を行いました。

▶ 地域別採択状況 (2012年度～2022年度累計)

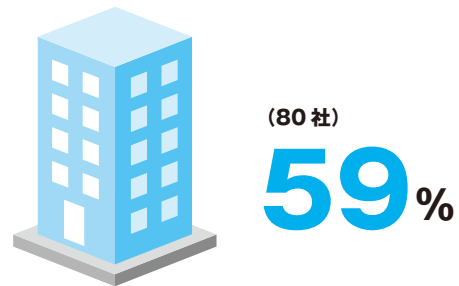


▶ スタートアップ設立数 (設立年度別)

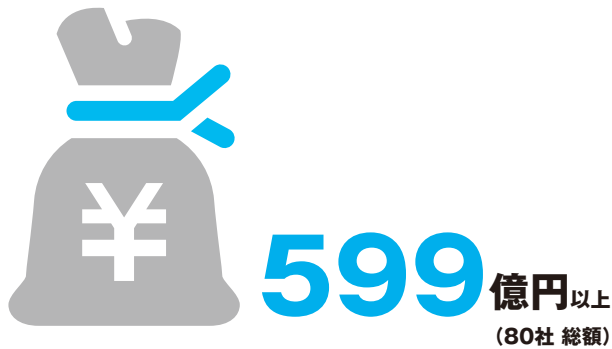


※ SBIRフェーズ1支援、スタートアップエコシステム形成支援との重複を含む。

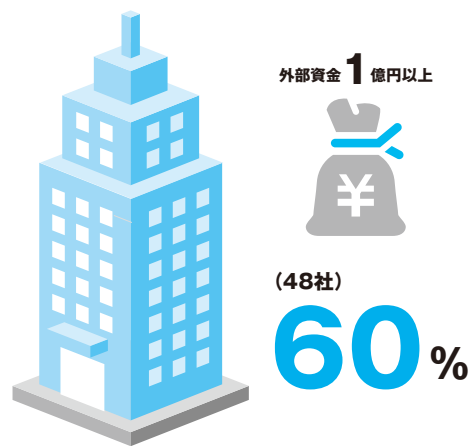
▶ 終了課題 (136 課題) におけるスタートアップ設立割合



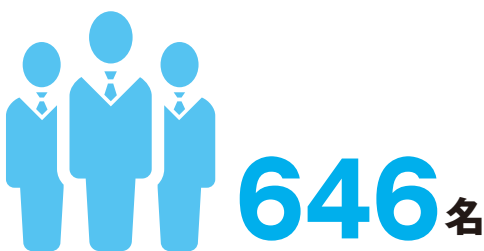
▶ 外部資金調達額



▶ 設立済みスタートアップ (80 社) における外部資金 1 億円以上等割合



▶ 雇用創出数



(2025年5月時点)

設立済みスタートアップの最新の情報については、START事業ホームページ以下URLをご確認ください。
<https://www.jst.go.jp/start/entre-demo/startup.html>



大学発新産業創出プログラム 事業プロモーターユニット一覧

START プロジェクト推進型 起業実証支援の第1次申請(大学等から事業プロモーターへの技術シーズ提案)で選択できる事業プロモーターユニットの一覧(現在、新規の公募の予定はありません。)

※事業プロモーターユニットの活動期間は、採択年度から5年間となります。

代表実施機関	対象分野	ライフサイエンス 環境・エネルギー 情報通信 ナノテクノロジー・材料 アグリカルチャー
2020年度採択	Beyond Next Ventures 株式会社	医療機器、創薬、再生医療、ヘルスケアIT等 / 環境・エネルギー全般 / IoT、AI / 新素材 / アグリカルチャー全般 / ロボット等
	株式会社デフタ・キャピタル	ライフサイエンス全般 / 環境・エネルギー全般 / 情報通信全般 / ナノテクノロジー・材料全般 / アグリカルチャー全般 / その他全般
	サナメディ株式会社 (旧社名:株式会社日本医療機器開発機構)	医療機器、創薬、体外診断薬、再生医療 / 医療IT領域、デジタルヘルス、モバイルヘルス
2021年度採択	anri ANRI 株式会社	ライフサイエンス全般 / 環境・エネルギー全般 / 情報通信全般(特に強み) / ナノテクノロジー・材料全般 / アグリカルチャー全般 / その他全般
	QBキャピタル合同会社	ライフサイエンス全般 / 環境・エネルギー全般 / 情報通信全般 / ナノテクノロジー・材料全般 / アグリカルチャー全般 / その他全般
	インキュベイトファンド 株式会社	ライフサイエンス全般 / 環境・エネルギー全般 / 情報通信全般 / ナノテクノロジー・材料全般 / アグリカルチャー全般 / その他全般
2022年度採択	株式会社みらい創造 インベストメンツ	ライフサイエンス全般 / 環境・エネルギー全般 / 情報通信全般 / ナノテクノロジー・材料全般 / アグリカルチャー全般 / その他全般
	Angel Bridge Angel Bridge株式会社	ライフサイエンス全般(重点領域) / 環境・エネルギー全般(重点領域) / 情報通信全般(重点領域) / ナノテクノロジー・材料全般 / アグリカルチャー全般 / その他全般
	ジャフコグループ 株式会社	医療機器、創薬プラットフォーム等(注力分野) / 環境・エネルギー全般 / 人工知能、IoT等全般 / 新素材等全般 / アグリカルチャー全般 / ロボット等
バイオ・サイト・キャピタル株式会社	ライフサイエンス全般 / 環境・エネルギー全般 / 情報通信全般 / ナノテクノロジー・材料全般 / アグリカルチャー全般 / 各テクノロジー全般が対象	
三菱UFJキャピタル 株式会社	ライフサイエンス(創薬・再生医療)	

プロジェクト推進型 SBIR フェーズ1 支援 採択プロジェクト一覧

採択年度	プロジェクト名称	研究代表者名	目指す社会実装方法	研究開発テーマ
2025年度	汎用的分散処理ミドルウェア(MEC-RM)を核としたエッジコンピューティング環境の実現	芝浦工業大学 工学部 教授 菅谷 みどり	起業による技術シーズの事業化	Beyond 5Gの実現、同技術を活用したサービスの社会実装・市場展開を見据えた研究開発
	Beyond 5G向け超高性能暗号ライブラリの開発と社会実装	大阪大学 大学院情報科学研究科 教授 五十部 孝典	起業による技術シーズの事業化	Beyond 5Gの実現、同技術を活用したサービスの社会実装・市場展開を見据えた研究開発
	IoTネットワーク環境におけるリアルタイムモデル学習基盤の研究開発	大阪大学 産業科学研究所 教授 櫻井 保志	起業による技術シーズの事業化	Beyond 5Gの実現、同技術を活用したサービスの社会実装・市場展開を見据えた研究開発
	パーキンソン病患者の歩行障害を改善して在宅療養する患者の自立支援を行う歩行支援ガイド表示機器の開発	浜松医科大学 光医学総合研究所 教授 長島 優	大学等発スタートアップを含む既存中小企業(設立15年以内)への技術移転	多様化する障害像を見据えた自立支援機器の開発
	ALS患者向けの入力インタフェースのウェアラブル化と入力モダリティ個人最適化のニーズ調査	立命館大学 情報理工学部 講師 双見 京介	起業による技術シーズの事業化	多様化する障害像を見据えた自立支援機器の開発
	スギ材の機能性抽出成分＝フェルギノールの段階的商品化	岩手大学 農学部 教授 小藤田 久義	起業による技術シーズの事業化	森林由来の資源を活用した新素材・原料の研究開発(エネルギー利用を除く)
	木材から得られるリグニンを利用した多彩でセキュアな顔料の開発	名古屋大学 大学院工学研究科 准教授 竹岡 敬和	起業による技術シーズの事業化	森林由来の資源を活用した新素材・原料の研究開発(エネルギー利用を除く)
	食品廃棄物を利用した非ベンゼン性有機蛍光物質の生産基盤の確立とその応用	日本大学 生物資源科学部 教授 松藤 寛	起業による技術シーズの事業化	廃棄による食品ロスの原因になっている未利用農産物等の高付加価値化を可能とする技術開発
	テラヘルツ波を用いた塩素系廃プラスチックの事前識別・除去技術の研究開発	芝浦工業大学 デザイン工学部 教授 田邊 匡生	大学等発スタートアップを含む既存中小企業(設立15年以内)への技術移転	複合素材によるプラスチック類や汚染度が高いプラスチック類等を対象としたケミカル・マテリアルリサイクルの手法の技術開発
2024年度	マルチバンド対応の再構成可能な電波吸収体の開発 2025年2月 [株式会社M2T2] 起業	東京工業大学 科学技術創成研究院 助教 イ サンヨブ	起業による技術シーズの事業化	Beyond 5G(6G)に向けた研究開発
	投影・表示系分離構成による軽量・電源レスな拡張現実感(AR)ディスプレイ空間技術の開発・事業化 2025年8月 [株式会社Iridescence] 起業	東京大学 大学院情報学環 特任准教授 伊藤 勇太	起業による技術シーズの事業化	Beyond 5G(6G)に向けた研究開発
	子どもの暮らしを豊かにする眼球運動検査・トレーニングエコシステム構築のための機器・システム開発 2025年3月 [Vision Labs株式会社] 起業	関西学院大学 工学部 教授 山本 倫也	起業による技術シーズの事業化	多様化する障害像を踏まえた汎用性のある自立支援機器の開発

採択年度	プロジェクト名称	研究代表者名	目指す社会実装方法	研究開発テーマ
2024年度	多様化（重複障害）する障害児者のデジタルデバイス解消を目的とした支援ツールの社会実装 2025年3月 [ケイエムエデュケーション合同会社] 起業	熊本高等専門学校 企画運営部 教授 清田 公保	起業による技術シーズの事業化	多様化する障害像を踏まえた汎用性のある自立支援機器の開発
	音声帯域リアルタイム変換技術と超音波を用いた局所音声案内システムの開発と社会親和性検証	鹿児島大学 大学院理工学研究科 准教授 西村 方孝	起業による技術シーズの事業化	多様化する障害像を踏まえた汎用性のある自立支援機器の開発
	リグニンからの微生物機能を応用したプラットフォームケミカル（2-ピロン-4, 6-ジカルボン酸(PDC))の大量生産系の構築	森林研究・整備機構 森林総合研究所 研究専門員 中村 雅哉	起業による技術シーズの事業化	木質バイオマスを活用した新素材・原料の研究開発（エネルギー利用は除く）
	自律移動可能な波浪観測用小型ブイとAIを用いた波高計測システムの開発	東京電機大学 未来科学部 准教授 藤川 太郎	大学等発スタートアップを含む既存中小企業（設立15年以内）への技術移転	波浪観測情報の取得手法の高度化・低コスト化
	MEMS差圧センサ素子を利用した波高センサの研究開発	慶應義塾大学 理工学部 准教授 高橋 英俊	大学等発スタートアップを含む既存中小企業（設立15年以内）への技術移転	波浪観測情報の取得手法の高度化・低コスト化
短波海洋レーダシステムによる広域・高密度な波浪観測のための深層学習モデルの開発と実装	愛媛大学 大学院理工学研究科 准教授 片岡 智哉	大学等発スタートアップを含む既存中小企業（設立15年以内）への技術移転	波浪観測情報の取得手法の高度化・低コスト化	
2023年度	ペロブスカイト量子ドットによる光変換を活用した農業生産力の強化	山形大学 大学院理工学研究科 教授 増原 陽人	起業による技術シーズの事業化	食品産業の生産力強化に資するスマート研究開発
	視運動性眼振・瞳孔反応を用いたヒトの注意状態推定による障害者のためのコミュニケーション支援	宇都宮大学 工学部 助教 金成 慧	起業による技術シーズの事業化	多様化する障害像を踏まえた汎用性のある自立支援機器の開発
	コミュニケーションに困難を抱えた子ども・若者とその支援者に対する認知行動療法自立支援機器の開発	千葉大学 大学院医学研究院 助教 廣瀬 素久	大学等発スタートアップを含む既存中小企業（設立15年以内）への技術移転	多様化する障害像を踏まえた汎用性のある自立支援機器の開発
	全船3次元モデル生成技術及びそれを活用した設計・建造支援システムの開発～3次元モデル普及で造船業に革新的変革を誘起する研究開発～	海上技術安全研究所 構造・産業システム系 研究員 森下 瑞生	起業による技術シーズの事業化	造船所の生産性向上に関する研究開発
	コスト削減、品質向上、労務環境改善等を主眼とする船舶塗装の抜本的生産性向上を図る「高粘度液体オンデマンド吐出装置」実用化の為の新（特許）技術の開発	東京農工大学 大学院工学研究院 教授 田川 義之	起業による技術シーズの事業化	造船所の生産性向上に関する研究開発

プロジェクト推進型 SBIR フェーズ1 支援 採択プロジェクト一覧

採択年度	プロジェクト名称	研究代表者名	目指す社会実装方法	研究開発テーマ
2022年度	環境DNA技術に基づいた水産資源・環境モニタリングの全自動装置による省力化 2025年2月 [株式会社OceanFluidics] 起業	海洋研究開発機構 研究プラットフォーム 運用開発部門 主任研究員 福場 辰洋	起業による技術シーズの事業化	農林漁業者の高齢化や担い手不足の解消に資する自動化・省力化、生産技術の効率化
	冷水性高級魚介類の生育や品質を向上させる食品加工残滓を有効活用したバイオマス飼料の製造技術 2025年4月 [株式会社ハイパーフード・アクア] 起業	北里大学 海洋生命科学部 教授 森山 俊介	起業による技術シーズの事業化	農林水産物の環境配慮、循環型の生産体系実現の可能性拡大に資する技術開発
	カーボンニュートラルを目指した施設園芸への地中熱冷却システムの導入	石川県立大学 生物資源環境学部 准教授 百瀬 年彦	起業による技術シーズの事業化	農林水産物の環境配慮、循環型の生産体系実現の可能性拡大に資する技術開発
	牡蠣（カキ）養殖生産を向上させる自立型海底水揚水装置 SPALOW (Solar-Powered AirLift for Ocean Water) 2025年2月 [株式会社Oceanics Japan] 起業	広島大学 大学院統合生命科学研究科 教授 小池 一彦	起業による技術シーズの事業化	農林水産物の環境配慮、循環型の生産体系実現の可能性拡大に資する技術開発
	有機JAS資材認証可能なメタン発酵消化液由来の濃縮バイオ液肥（Bio-CLF）の開発	九州大学 大学院農学研究院 教授 矢部 光保	起業による技術シーズの事業化	農林水産物の環境配慮、循環型の生産体系実現の可能性拡大に資する技術開発
	人工知能構音識別モデルによるひずみ音の自動評価システムの開発	茨城大学 教育学部 助教 石田 修	起業による技術シーズの事業化	各障害の特異性・個別性も留意しつつ、多様化する障害像への汎用性も見据えた自立支援機器の開発
	重度障害者のための表意用個別適応型複合センサシステムの開発	湘南工科大学 工学部 電気電子工学科 准教授 森 貴彦	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	各障害の特異性・個別性も留意しつつ、多様化する障害像への汎用性も見据えた自立支援機器の開発
	重症心身障害児者が容易に意思表示できる音声出力型会話補助装置の開発 2022年11月[志エンボディ合同会社] 起業	愛媛大学 教育学部 教授 荻田 知則	起業による技術シーズの事業化	各障害の特異性・個別性も留意しつつ、多様化する障害像への汎用性も見据えた自立支援機器の開発
	次世代内航のための遠隔監視・遠隔操船システムの研究開発	大阪公立大学 大学院工学研究科 教授 橋本 博公	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	IoT等の活用による内航近代化に係る研究開発
	海中モビリティを用いた可視光通信による海洋センシングのフィジビリティスタディ 2024年8月 [株式会社UMINeCo] 起業	東京農工大学 大学院工学府 准教授 中山 悠	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	海の次世代モビリティによる沿岸・離島地域の課題解決に向けた研究開発
	マルチエージェントシステムに基づく建造工程のシミュレーション技術に関する研究開発	海上技術安全研究所 構造・産業システム系 主任研究員 谷口 智之	起業による技術シーズの事業化	造船所の生産性向上に関する研究開発

採択年度	プロジェクト名称	研究代表者名	目指す社会実装方法	研究開発テーマ
2022年度	造船所での高効率な建造工程を実現するプロセスシミュレーションシステムの実用化	横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授 満行 泰河	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	造船所の生産性向上に関する研究開発
2021年度	デジタルツインによりセンサレス自律移動を可能にする多重複合センサネットワーク 2022年5月「株式会社ハイパーデジタルツイン」起業	芝浦工業大学 工学部 教授 新熊 亮一	起業による技術シーズの事業化	最先端通信技術によりサイバー空間とフィジカル空間が高度に融合した世界で新たな価値を生み出す研究開発
	高度にパーソナライズされた情報空間ガイドAIの開発 2022年5月「株式会社エキメノポリス」起業	早稲田大学 グリーン・コンピューティング・システム研究機構 主任研究員（研究院准教授） 松山 洋一	起業による技術シーズの事業化	最先端通信技術によりサイバー空間とフィジカル空間が高度に融合した世界で新たな価値を生み出す研究開発
	データセンタ光トランシーバ用超高速ポリマ光変調器の集積化	長崎大学 大学院工学研究科 教授 榎波 康文	起業による技術シーズの事業化	最先端通信技術によりサイバー空間とフィジカル空間が高度に融合した世界で新たな価値を生み出す研究開発
	複雑系のための機能設計 オーダーN一般化量子ML計算法	九州大学 大学院総合理工学研究院 教授 青木 百合子	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	ゲート型量子コンピュータの利活用に向けた、制御システムの設計や、アプリケーションソフトウェアの開発
	ロバスト深層学習による作物・雑草判別技術を活用した株間除草ロボットの開発	北海道大学 大学院工学研究院 准教授 江丸 貴紀	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	農林水産業・食品産業の課題解決に貢献する研究開発
	ドローンモニタリングによるイチゴ収量予測の実現可能性の検証	農業・食品産業技術総合研究機構 農業機械研究部門 主任研究員 坪田 将吾	起業による技術シーズの事業化	農林水産業・食品産業の課題解決に貢献する研究開発
	進化的機械学習技術による人工光型植物工場の栽培条件の最適化	横浜国立大学 大学院環境情報研究院 教授 長尾 智晴	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	農林水産業・食品産業の課題解決に貢献する研究開発
	液密亜臨界制御機能を有する水熱反応技術の事業化	信州大学 工学部 教授 天野 良彦	起業による技術シーズの事業化	農林水産業・食品産業の課題解決に貢献する研究開発
	スマートゲノム育種に基づく気候危機・自動化農業に適合する頑健・多収植物開発によるプロセスイノベーション 2024年10月「株式会社ニューディメンジョンDNA研究所」起業	静岡大学 グリーン科学技術研究所 教授 富田 因則	起業による技術シーズの事業化	農林水産業・食品産業の課題解決に貢献する研究開発
	養殖場における自動給餌機の為の自動補給船-ロボット漁船-の研究開発 2023年4月「株式会社ロボティクスセーリングラボ」起業	大阪府立大学 大学院工学研究科 准教授 二瓶 泰範	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	農林水産業・食品産業の課題解決に貢献する研究開発
	畜産動物の廃棄骨を循環的に利用する液肥成分製造法の確立と水耕栽培への実用化	近畿大学 生物理工学部 教授 森本 康一	起業による技術シーズの事業化	農林水産業・食品産業の課題解決に貢献する研究開発

プロジェクト推進型 SBIR フェーズ1 支援 採択プロジェクト一覧

※所属・役職名は採択時のものとなります。

採択年度	プロジェクト名称	研究代表者名	目指す社会実装方法	研究開発テーマ
2021年度	未利用水産資源を有効活用する次世代抗体作製技術のフィージビリティスタディ	愛媛大学 プロテオサイエンスセンター 准教授 竹田 浩之	起業による技術シーズの事業化	農林水産業・食品産業の課題解決に貢献する研究開発
	食品産業廃棄物を原料とする、海洋微生物ラビリンチュラの魚粉/魚油代替水産飼料素材への活用研究	宮崎大学 農学部 教授 林 雅弘	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	農林水産業・食品産業の課題解決に貢献する研究開発
	IoTを活用した実海域での省エネ効果モニタリングシステム構築による空気潤滑システムの実用省エネ効果向上の研究	海上技術安全研究所 流体設計系 上席研究員 川島 英幹	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	IoT等の活用による内航近代化
	デジタルツインを活用した自動操船システムの開発	東京理科大学 理工学部 教授 中村 文一	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	IoT等の活用による内航近代化
	内航フィーダー輸送へのモダルシフトを目的としたフィジカルインターネットサービス実現のためのフィージビリティスタディ	近畿大学 理工学部 准教授 加藤 暢	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	IoT等の活用による内航近代化
	太陽光発電予測のための気象予測モデル・気象衛星画像ハイブリッド高精度日射予測システムの構築	岐阜大学 工学部 教授 小林 智尚	起業による技術シーズの事業化	静止衛星ひまわりのデータを用いた社会課題解決に貢献する新たなサービス開発
	高齢者の認知機能訓練を目的とする対話ロボットの事業化に向けた対話データの解析	理化学研究所 革新知能統合研究センター チームリーダー 大武 美保子	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	人とコミュニケーションが取れ、福祉・医療支援や住民からの相談対応支援、安全安心なまちづくり等の分野で活躍できるロボット技術の研究開発
	人間の運転手の意図を理解する超人間級AI運転手の開発	国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系 助教 青木 俊介	大学等発ベンチャーを含む中小企業への技術移転	人とコミュニケーションが取れ、福祉・医療支援や住民からの相談対応支援、安全安心なまちづくり等の分野で活躍できるロボット技術の研究開発
	社会に調和した人口ロボット協調のための価値観認識・適応AIの研究開発	早稲田大学 理工学術院総合研究所 主任研究員（研究院准教授） 亀崎 允啓	起業による技術シーズの事業化	人とコミュニケーションが取れ、福祉・医療支援や住民からの相談対応支援、安全安心なまちづくり等の分野で活躍できるロボット技術の研究開発
	人工知能歩行識別モデルによる身体機能低下およびロコモティブシンドロームのスクリーニング診断 2023年6月 「株式会社 ayumo」 起業	大阪南医療センター 臨床研究部 流動研究員 多田 智	起業による技術シーズの事業化	人とコミュニケーションが取れ、福祉・医療支援や住民からの相談対応支援、安全安心なまちづくり等の分野で活躍できるロボット技術の研究開発

プロジェクト推進型 起業実証支援 採択プロジェクト一覧

※研究代表者の所属・役職名は事業終了時点のものとなります。

採択年度	プロジェクト名称	研究代表者名	事業プロモーターユニットの代表機関
2022年度	がん根絶を目指したがんmRNA ワクチンの開発	国立がん研究センター 先端医療開発センター 分野長 中面 哲也	Angel Bridge 株式会社
	リキッド・バイオプシー生体予測診断サービス “AIビーフ”の事業化 2020年度 SCORE チーム推進型採択 2024年12月「株式会社ビーフソムリエ」起業	近畿大学 生物理工学部 教授 松本 和也	インキュベイト ファンド株式会社
	ソフトウェア品質の論理的説明技術による、自動運転の本格普及の実現 2024年8月「株式会社イミロン」起業	国立情報学研究所 アーキテクチャ科学研究系 教授 蓮尾 一郎	インキュベイト ファンド株式会社
	透析患者を自由にするインプラント型人工腎臓の研究開発	慶應義塾大学 理工学部 教授 三木 則尚	サナメディ株式会社
	リンパ浮腫トモグラフィック・モニタ(LTモニタ)の実用化開発	千葉大学 大学院工学研究院 教授 武居 昌宏	日本戦略投資株式会社
	高分子吸着材による高濃度CO ₂ を含むメタン/CO ₂ 混合ガスからのCO ₂ 回収事業 2024年11月「株式会社カーボンライオキャプチャー」起業	物質・材料研究機構 機能性材料研究拠点 上席研究員 一ノ瀬 泉	ユニバーサルマテリアルズインキュベーター株式会社
2021年度	宇宙産業で安全に使用できる静電気検知技術の開発 2020年度 SCORE チーム推進型採択	大阪府立大学 大学院工学研究科 准教授 高橋 和	ANRI 株式会社
	印刷型有機ELパネルの事業化	山形大学 有機エレクトロニクスイノベーションセンター 教授 硯里 善幸	QB キャピタル 合同会社
	新規RNA ウイルスベクターを用いた遺伝子治療薬の開発	京都大学 ウイルス・再生医学研究所 教授 朝長 啓造	ジャフコ グループ株式会社
	血流感染症特異的治療薬の開発に向けた大規模スクリーニングと vivoEF 阻害剤ライブラリーの構築	北海道大学 大学院獣医学研究院 准教授 佐藤 豊孝	サナメディ株式会社
	個体表現型スクリーニングに立脚した新規治療薬探索基盤の確立 2023年9月「株式会社FlyWorks」起業	北海道大学 遺伝子病制御研究所 教授 園下 将大	日本戦略投資 株式会社
2020年度	プラスチック製容器包装廃棄物の高度選別装置の事業化 2019年度 SCORE 採択	芝浦工業大学 デザイン工学部 教授 田邊 匡生	QB キャピタル 合同会社
	感染症診断用の超高感度蛍光イムノクロマトキットの開発	埼玉大学 大学院理工学研究科 准教授 幡野 健	サナメディ株式会社
	COVID-19パンデミック時代における心不全悪化の早期検出に向けた遠隔診療システムの構築 2023年5月「A-wave株式会社」起業	大阪大学 医学部付属病院 特任助教 樹田 浩禎	MedVenture Partners株式会社
	1分子計測リキッドバイオプシーの事業化 2022年4月「コウソミル株式会社」起業	東京大学 大学院薬学系研究科 助教 小松 徹	ANRI 株式会社
	産業用ロボットの生産性向上を実現する球駆動式全方向移動装置技術の事業化 2019年度 SCORE 採択 2023年2月「株式会社TriOrb」起業	九州工業大学 大学院生命体工学研究科 准教授 宮本 弘之	株式会社FFG ベンチャービジネス パートナーズ
	ワンショット・ナノレベル表面形状測定機の事業化 2023年4月「株式会社Holoway」起業	兵庫県立大学 大学院工学研究科 特任教授 佐藤 邦弘	QB キャピタル 合同会社
	iPS細胞を原材料とした骨形成誘導補填材の開発	東北大学 大学院歯学研究科 教授 江草 宏	サナメディ株式会社
	工業用ポリマーを基盤としたインクレス印刷技術の開発	京都大学 高等研究院物質-細胞システム統合拠点 教授 イーサン・シバニア	日本戦略投資 株式会社
	癌・ウイルス等の簡便、迅速、超高感度な検査・分析プラットフォームテクノロジーの開発 2022年4月「株式会社TearExo」起業	神戸大学 大学院工学研究科 教授 竹内 俊文	バイオ・サイト・ キャピタル株式会社
	革新的がん放射性治療薬の事業化に向けた技術開発 2022年7月「リンクメッド株式会社」起業	量子科学技術研究開発機構 量子生命・医学部門 上席研究員 吉井 幸恵	バイオ・サイト・ キャピタル株式会社
	急性胆嚢炎の治療を革新するドレナージキットの開発と事業化 2019年度 SCORE 採択 2022年9月「株式会社KOEDA」起業	東北大学 大学院工学研究科 准教授 宮本 浩一郎	Beyond Next Ventures株式会社
	籠型分子を用いた超高密度不揮発性メモリおよび超低消費電力AIチップの開発 2023年6月「株式会社マテリアルゲート」起業	広島大学 大学院先進理工系科学研究科 教授 西原 禎文	ユニバーサルマテリアルズインキュベーター株式会社

プロジェクト推進型 起業実証支援 採択プロジェクト一覧

※研究代表者の所属・役職名は事業終了時点のものとなります。

採択年度	プロジェクト名称	研究代表者名	事業プロモーターユニットの代表実施機関
2019年度	Cube in a Chip システムによる in vitro 創薬モデルの事業化	理化学研究所 開拓研究本部 理研白眉研究チームリーダー 萩原 将也	ANRI 株式会社
	社会的会話AIを搭載したメディアサービスの事業化 2022年5月「株式会社エキュメノボリス」起業	早稲田大学 グリーン・コンピューティング・システム研究機構 主任研究員（研究院 准教授）松山 洋一	ウエルインベストメント株式会社
	定量メタボローム解析の事業化に向けたデータ解析システムの開発 2022年1月「株式会社ビーフォース」起業	九州大学 生体防御医学研究所 教授 馬場 健史	株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ
	組合せ爆発を計算可能な小さなAI「fineOptimAI（ファインオプティマイ）」の事業化 2018年度SCORE採択 2021年12月「株式会社fineOptimAI」起業	大阪工業大学 情報科学部 准教授 平嶋 洋一	QBキャピタル合同会社
	1塩基変異遺伝子を正常遺伝子と区別して抑制するRNA干渉技術の開発 2023年9月「株式会社ANRis」起業	東京大学 大学院理学系研究科 准教授 程 久美子	ジャフコグループ株式会社
	高感度標識による細菌及びウイルスの迅速検出	大阪府立大学 大学院工学研究科 准教授 椎木 弘	日本戦略投資株式会社
	長期徐放性DDSのプラットフォームテクノロジーの開発と眼科用新薬開発への応用	東北大学 大学院医学系研究科 助教 永井 展裕	バイオ・サイト・キャピタル株式会社
	免疫プロファイリングプラットフォームによる疾患の早期診断・迅速モニタリングシステムの開発	岡山大学 学術研究院 研究教授 二見 淳一郎	Beyond Next Ventures 株式会社
	ヒトiPS細胞高度疾患モデリング技術を基盤としたハブ型呼吸器創薬ベンチャーの創出 2020年7月「HiLung株式会社」起業	京都大学 大学院医学研究科 特定助教 山本 佑樹	Beyond Next Ventures 株式会社
	イオン伝導体分離法による塩湖かん水からの低コストリチウム回収技術 2023年7月「LiSTie株式会社」起業	量子科学技術研究開発機構 核融合エネルギー部門 上席研究員 星野 毅	ユニバーサルマテリアルズインキュベーター株式会社
2018年度	竹の解繊・ナノ化技術によるCNFの開発 2017年度SCORE採択 2021年9月「株式会社おおいたCELEENA」起業	大分大学 理工学部 准教授 衣本 太郎	QBキャピタル合同会社
	視線検出技術を利用した簡易認知機能スクリーニングシステムの開発による社会システムの負荷軽減 2019年11月「株式会社アイ・ブレインサイエンス」起業	大阪大学 大学院医学系研究科 寄附講座 准教授 武田 朱公	バイオ・サイト・キャピタル株式会社
	細胞内イオンチャネル創薬のためのスクリーニングプラットフォームの事業化 2021年8月「株式会社MAQsys」起業	神奈川県立産業技術総合研究所 人工細胞膜システムグループ グループリーダー 竹内 昌治	ウエルインベストメント株式会社
	次世代経皮吸収技術の開発 2021年1月「NOVIGO Pharma株式会社」起業	九州大学 工学研究院 教授 後藤 雅宏	ニッセイ・キャピタル株式会社
	人工衛星群のための運用支援・健全性監視サービス	東京大学 先端科学技術研究センター 教授 矢入 健久	ウエルインベストメント株式会社
	低侵襲、超高感度なインフルエンザ迅速診断キットの開発 2020年12月「株式会社ソティステクノロジーズ」起業	東京大学 大学院工学系研究科 准教授 田端 和仁	MedVenture Partners 株式会社
	視覚と触覚を合わせ持つ革新センサFingerVision事業化 2021年10月「株式会社FingerVision」起業	東北大学 大学院情報科学研究科 助教 山口 明彦	Beyond Next Ventures 株式会社
	負荷ナノ粒子による標的化DDSプラットフォームの構築	長崎大学 病院薬剤部 教授/薬剤部長 佐々木 均	QBキャピタル合同会社
	変形性膝関節症を対象とした骨髄間葉系幹細胞の磁気ターゲティングによる軟骨再生治療の事業化 2017年度SCORE採択 2020年9月「株式会社Flying Cell」起業	広島大学 大学院医系科学研究科 准教授 亀井 直輔	Beyond Next Ventures 株式会社
2017年度	化学発光タンパク質を利用したイルミネーション技術の開発	大阪大学 産業科学研究所 助教 服部 満	野村ホールディングス株式会社
	マイクロ湿式紡糸技術をコアとした高付加価値材料の精密生産	岡山大学 大学院自然科学研究科 教授 小野 努	ニッセイ・キャピタル株式会社

プロジェクト推進型 起業実証支援 採択プロジェクト一覧

※研究代表者の所属・役職名は事業終了時点のものとなります。

採択年度	プロジェクト名称	研究代表者名	事業プロモーターユニットの代表実施機関
2017年度	多様な形状と機能性を有するシリカガラス製品を低コストで製造する技術の事業化	九州大学 グローバルイノベーションセンター 教授 藤野 茂	QB キャピタル 合同会社
	農産物の品質や生産性を向上させる為の環境制御システムの開発 2020年12月「株式会社日本炭素循環ラボ」起業	九州大学 大学院工学研究院 准教授 星野 友	QB キャピタル 合同会社
	ANGPTL2を標的とする画期的心不全等遺伝子治療薬の開発	熊本大学 大学院生命科学研究部 教授 尾池 雄一	バイオ・サイト・ キャピタル株式会社
	超小型衛星用の水を推進剤とした統合推進システム 2020年4月「株式会社Pale Blue」起業	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 准教授 小泉 宏之	株式会社東京大学エッジ キャピタルパートナーズ
	Si負極と有機正極からなる軽量高エネルギー二次電池の開発 2020年5月「ORLIB株式会社」起業	東京大学 大学院理学系研究科 教授 西原 寛	株式会社 経営共創基盤
	量子アニーリングで加速する最適化技術の実用化 2018年11月「株式会社Jij」起業	東北大学 大学院情報科学研究科 准教授 大関 真之	ANRI 株式会社
	NanoSuit®法を用いた電子顕微鏡による、生きたまま濡れたままの生物検体の検査技術 2019年4月「NanoSuit株式会社」起業	浜松医科大学 再生・感染病理学講座 准教授 河崎 秀陽	ニッセイ・キャピタル 株式会社
	質量顕微鏡法を用いた新しい薬物動態解析及び創薬標的探索事業 2019年2月「株式会社プレッパーズ」起業	浜松医科大学 細胞分子解剖学講座 教授 瀬藤 光利	株式会社東京大学 エッジキャピタル パートナーズ
	高機能性ヒト抗体開発シーズ 2019年6月「MabGenesis株式会社」起業	宮崎大学 医学部機能制御学講座 教授 森下 和広	Beyond Next Ventures株式会社
	長距離量子通信システム 2020年1月「LQUOM株式会社」起業	横浜国立大学 大学院工学研究院 准教授 堀切 智之	Beyond Next Ventures株式会社
無細胞膜タンパク質調製技術及び非天然型アミノ酸導入技術を用いた新薬創出の加速 2018年4月「リベロセラ株式会社」起業	理化学研究所 横山構造生物学研究室 上席研究員 横山 茂之	Beyond Next Ventures株式会社	
2016年度	RANKL/RANKシグナルをターゲットにした炎症制御による新規脳梗塞治療法の開発 2018年8月「MHペプタイド株式会社」起業	大阪大学 大学院医学系研究科 寄附講座 准教授 島村 宗尚	バイオ・サイト・ キャピタル株式会社
	病理診断に現れる組織画像解析法の事業化 2019年4月「株式会社APSAM Imaging」起業	大阪大学 大学院医学系研究科 教授 山本 浩文	360ip ジャパン株 式会社
	フレネル型大口径液晶レンズを用いた度数可変型眼鏡の開発	大阪大学 大学院工学研究科 教授 尾崎 雅則	360ip ジャパン株 式会社
	微生物燃料電池を用いた新規エコ廃水処理システムの開発 2019年5月「BioAlechemy株式会社」起業	沖縄科学技術大学院大学 生物システムユニット 技術員 デイヴィッド・シン普森	バイオ・サイト・ キャピタル株式会社
	障害者のモビリティを高める高性能義足の開発 2018年2月「BionicM株式会社」起業	東京大学 大学院情報理工学系研究科 教授 稲葉 雅幸	株式会社東京大学エッジ キャピタルパートナーズ
	CRISPR-Cas9システムを光制御するゲノムエンジニアリングツール 2019年4月「株式会社ミーバイオ」起業	東京大学 大学院総合文化研究科 教授 佐藤 守俊	バイオ・サイト・キャ ピタル株式会社
	標的タンパク質分解によるケミカルノックダウン(CiKD) 創薬基盤技術の事業化 2018年6月「株式会社FuturedMe」起業	東京理科大学 生命医科学研究所 准教授 宮本 悦子	ジャフコ グループ株式会社
	超高速オープンフローサイトメータの開発 2019年1月「メドリッジ株式会社」起業	名古屋大学 大学院工学研究科 教授 新井 史人	日本戦略投資 株式会社
	室温原子層堆積法による金属酸化物ナノコーティング技術の事業化 2019年3月「株式会社Cool ALD」起業	山形大学 大学院理工学研究科 教授 廣瀬 文彦	野村ホールディングス 株式会社
	視覚相対位置によるロボットアーム作業戦略理論とその実用 2018年3月「株式会社チトセロボティクス」起業	立命館大学 理工学研究科 教授 川村 貞夫	ジャフコ グループ株式会社
動作軌道の直接教示が容易で柔表面構造を有する安全なロボットアームの開発	早稲田大学 創造理工学研究科 准教授(任期付) シュミッツ・アレクサンダー	野村ホールディングス 株式会社	
2015年度	次世代型医療を実現する実用的RNA分子の開発 2018年1月「株式会社e-NA Biotec」起業	愛知工業大学 工学部応用化学科 教授 北出 幸夫 岐阜大学 工学部 特任教授 岐阜大学 名誉教授	バイオ・サイト・ キャピタル株式会社

プロジェクト推進型 起業実証支援 採択プロジェクト一覧

※研究代表者の所属・役職名は事業終了時点のものとなります。

採択年度	プロジェクト名称	研究代表者名	事業プロモーターユニットの代表実施機関
2015年度	抗原特異的な免疫制御薬の開発 2017年3月「HuLA immune株式会社」起業	大阪大学 微生物病研究所 教授 荒瀬 尚	日本戦略投資株式会社
	オンリーワンカイコバイオリソースと昆虫工場を用いた難発現性タンパク質の大量生産システム 2018年4月「KAICO株式会社」起業	九州大学 大学院農学研究院 教授 日下部 宜宏	DBJキャピタル株式会社
	装着型嚙下計測技術に基づく摂食・嚙下支援ネットワーク形成への応用 2018年4月「PLIMES株式会社」起業	筑波大学 システム情報系/サイバニクス研究センター 教授 鈴木 健嗣	野村ホールディングス株式会社
	明日葉有効成分を用いた家畜などの生殖機能改善事業 2017年6月「株式会社食機能探査研究所」起業	筑波大学 生命環境系 教授 宮崎 均	日本戦略投資株式会社
	ノロウイルス感染症に対する予防及び治療薬の開発	東京大学 医科学研究所 教授 清野 宏	日本戦略投資株式会社
	ナノ診断・治療技術の基盤となるナノバイオ粒子プロファイリング技術の事業化 2018年11月「株式会社イクストリーム (iXstream)」起業	東京大学 大学院工学系研究科 教授 一木 隆範	株式会社ファストトラックイニシアティブ
	クロレラによる複数色のカロテノイドと長鎖不飽和脂肪酸の大量生産 2018年3月「株式会社アルガルバイオ」起業	東京大学 大学院新領域創成科学研究科 教授 河野 重行	株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ
	マルチガス温度制御プラズマを用いたプラズマ内視鏡治療装置の開発	東京工業大学 大学院総合理工学研究科 准教授 沖野 晃俊	MedVenture Partners株式会社
	接木の技術革新による農業イノベーション 2017年4月「グランドグリーン株式会社」起業	名古屋大学 大学院生命農学研究科 助教 野田口 理孝	株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ
	タランチュラ毒由来のペプチドライブラリーと新規ペプチドディスプレイ技術を用いたイオンチャネル作用薬の創製技術 2020年7月「Veneno Technologies株式会社」起業	産業技術総合研究所 創薬基盤研究部門 主任研究員 木村 忠史	ウォーターベイン・パートナーズ株式会社
	コラーゲンビトリゲルの形状加工技術を活用した医療機器および創薬支援ツールの開発	農業・食品産業技術総合研究機構 生物機能利用研究部門 主席研究員 竹澤 俊明	日本戦略投資株式会社
2014年度	革新的血液脳関門制御技術の開発	大阪大学 大学院薬学研究科 准教授 岡田 欣晃 (2015年4月1日～) 准教授 近藤 昌夫 (~2015年3月31日)	バイオ・サイト・キャピタル株式会社
	がん患者の予後を正確に予測する新規バイオマーカーを用いた病理診断技術 2016年11月「京ダイアグノスティクス株式会社」起業	京都大学 大学院医学研究科 特命教授/国際高等教育院 特定教授 武藤 誠	日本戦略投資株式会社
	Collective Osmotic Shock法を用いた新規メンブレンフィルターの実用開発研究 ~省エネおよび低ファウリング(膜汚染)膜の実現を目指して~ 2020年1月「株式会社OOYOO」起業	京都大学 物質・細胞統合システム拠点 教授 イーサン・シバニア	株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ
	Cdkal1リスクアレル保有2型糖尿病患者に対する治療薬ならびにコンパニオン診断技術の開発	熊本大学 大学院生命科学研究部 教授 富澤 一仁	ウォーターベイン・パートナーズ株式会社
	宇宙誕生の電波観測技術を応用した革新的気象予報装置の開発	高エネルギー加速器研究機構 素粒子原子核研究所 准教授 田島 治	野村ホールディングス株式会社
	超低消費電力データ駆動プロセッサによる長寿命・高信頼センサーシステムの事業化 2018年2月「株式会社DDSNA」起業	筑波大学 システム情報系 教授 西川 博昭	野村ホールディングス株式会社
	LSIの動作信頼性向上に寄与する半導体素子の雑音計測技術の事業化 2017年4月「株式会社デバイラボ」起業	筑波大学 数理物質系 准教授 蓮沼 隆	日本戦略投資株式会社
	糖尿病患者のQOL(生活の質)向上を目指したエレクトロニクスフリーな人工臓器の開発	東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 准教授 松元 亮	株式会社ケイエスピー
	ボールSAWセンサを用いた小型・高速・高感度な微量水分計ユニットの事業化 2015年11月「ボールウェーブ株式会社」起業	東北大学 未来科学技術共同研究センター 教授 山中 一司	日本戦略投資株式会社
	画像解析技術を用いた再生医療用培養細胞の品質管理システムの事業化	名古屋大学 大学院創薬科学研究科 准教授 加藤 竜司	ジャフコグループ株式会社

プロジェクト推進型 起業実証支援 採択プロジェクト一覧

※研究代表者の所属・役職名は事業終了時点のものとなります。

採択年度	プロジェクト名称	研究代表者名	事業プロモーターユニットの代表実施機関
2014年度	脱分化脂肪細胞 (DFAT) の臨床用細胞製造と細胞治療への応用	日本大学 医学部 教授 松本 太郎	360ip ジャパン株式会社
	我が国で発見された生理活性ペプチド“アドレノメデュリン”の医薬品としての研究開発 2017年2月「ひむかAMファーマ株式会社」起業	宮崎大学 医学部 教授 北村 和雄	ウォーターベイン・パートナーズ株式会社
	植物病原カビを抑制する微生物創薬及びグローバルライセンスビジネスの構築	山形大学 大学院理工学研究科 教授 原 富次郎	DBJ キャピタル株式会社
	生きた細胞内の分子の動きを見る高速超解像ライブイメージング顕微鏡の事業化	理化学研究所 光量子工学研究領域 チームリーダー 中野 明彦	株式会社ファストトラックイニシアティブ
	前十字靭帯再建手術に用いる動物由来無細胞化腱の事業化 2016年11月「CoreTissue BioEngineering株式会社」起業	早稲田大学 理工学術院 教授 岩崎 清隆	ウエルインベストメント株式会社
2013年度	日本産完熟イチゴを世界展開するための超品質保持流通技術及び品質管理システムの開発	宇都宮大学 大学院工学研究科 教授 尾崎 功一	DBJ キャピタル株式会社
	アンチエイジング効果のあるショートペプチドを用いた化粧品・育毛剤の開発ーペプチドのプラットフォームテクノロジーの開発ー 2016年4月「アンチエイジングペプタイド株式会社」起業	大阪大学 大学院医学系研究科 寄附講座 教授 中神 啓徳	バイオ・サイト・キャピタル株式会社
	多機能エネルギーセンサによる革新的省電力ソリューション技術の開発 2015年2月「株式会社SIRC」起業	大阪市立大学 大学院工学研究科 教授 辻本 浩章	日本戦略投資株式会社
	電界共振型生体センシング、およびセンシングデータ解析システムの開発 2016年3月「ひびきの電子株式会社」起業	九州工業大学 産学連携推進センター 教授 佐藤 寧	DBJ キャピタル株式会社
	「関係性システム」を活用したレコメンドシステムの事業化 2017年12月「Zuva株式会社」起業	京都大学 大学院情報学系研究科 准教授 新熊 亮一	ウエルインベストメント株式会社
	ステルス型RNAベクターを使った再生医療用ヒト細胞創製技術 2014年12月「ときわバイオ株式会社」起業	産業技術総合研究所 創薬基盤研究部門 ヒト細胞医工学研究ラボ長 中西 真人	ウォーターベイン・パートナーズ株式会社
	デジタルグリッド技術の電力識別に基づく電力流通サービス事業	東京大学 総括プロジェクト機構 特任准教授 田中 謙司	株式会社東京大学エッジキャピタルパートナーズ
	シリコンハイドロゲルを起点とした医療機器表面の改質 2016年5月「インテリジェント・サーフェス株式会社」起業	東京大学 大学院工学系研究科 教授 石原 一彦	野村ホールディングス株式会社
	病原体の種類を問わず植物病害を防除できる新型微生物農薬及びその種子処理技術の開発	東京農業大学 農学部 教授 篠原 弘亮	DBJ キャピタル株式会社
	免疫抗原受容体バイオインフォマティクスを利用した新規治療ターゲットの同定および治療法の開発	東北大学 加齢医学研究所 教授 小笠原 康悦	株式会社ファストトラックイニシアティブ
	再生医療技術の基盤研究を応用した内在性幹細胞制御による肝疾患の革新的治療戦略 2016年4月「カノンキュア株式会社」起業	鳥取大学 大学院医学系研究科 教授 汐田 剛史	野村ホールディングス株式会社
	カニ殻を用いたキチンナノファイバーの製造技術、およびその展開 2016年4月「株式会社マリンナノファイバー」起業（設立に際し、株式会社山陰合同銀行及びREVICキャピタル株式会社の支援を受ける）	鳥取大学 大学院工学研究科 准教授 伊福 伸介	株式会社ファストトラックイニシアティブ
	スマートセンシングを用いた感性計測装置 2016年4月「株式会社TOFFEE」起業	長岡技術科学大学 工学部 教授 中川 匡弘	野村ホールディングス株式会社
無機過電流保護素子	名古屋大学 大学院工学研究科 教授 小橋 眞	日本戦略投資株式会社	
中赤外レーザーを用いた非侵襲血糖測定器の開発 2017年7月「ライトタッチテクノロジー株式会社」起業	日本原子力研究開発機構 量子ビーム応用研究センター 研究主幹 山川 考一	バイオ・サイト・キャピタル株式会社	
微細印刷集積回路に向けた高精細、高機能な銀ナノ粒子インクの開発、製造・販売 2016年4月「株式会社フューチャーインク」起業	山形大学 大学院理工学研究科 准教授 熊木 大介	東北イノベーションキャピタル株式会社	
2012年度	紫外可視光変換材料の開発および量産技術の確立と事業化	秋田大学 大学院工学資源学系研究科 講師 辻内 裕	ジャフコグループ株式会社
	がん特異的アミノ酸輸送体を分子標的とする新規PET診断用プローブ	大阪大学 大学院医学系研究科 教授 金井 好克	バイオ・サイト・キャピタル株式会社
	ペリオスチン制御による炎症関連疾患の新規治療法の開発 2017年6月「ペリオセラピア株式会社」起業	大阪大学 大学院医学系研究科 准教授 谷山 義明	バイオ・サイト・キャピタル株式会社

プロジェクト推進型 起業実証支援 採択プロジェクト一覧

※研究代表者の所属・役職名は事業終了時点のものとなります。

採択年度	プロジェクト名称	研究代表者名	事業プロモーターユニットの代表機関
2012年度	タンパク質、核酸等バイオ分子の分離・精製用カラムを中心とした高機能有機高分子モノリスの開発	大阪大学 大学院工学研究科 教授 宇山 浩	バイオ・サイト・ キャピタル株式会社
	miRNA プロファイルモジュレーションシステムの開発	大阪市立大学 大学院工学研究科 准教授 立花 亮	バイオ・サイト・ キャピタル株式会社
	分子分解電子線トモグラフィーによる巨大分子の3次元可視化 2014年6月「 沖縄プロテイントモグラフィー株式会社 」起業	沖縄科学技術大学院大学 構造細胞生物学ユニット 教授 ウルフ・スコグラント	バイオ・サイト・ キャピタル株式会社
	半導体リソグラフィ用 EUV 光源事業	関西大学 システム理工学部 教授 大西 正視	ウエルインベスト メント株式会社
	スマートエネルギー利用植物工場	九州大学 大学院工学研究科 准教授 濱本 芳徳	DBJ キャピタル 株式会社
	未利用バイオマスからの高性能コンポジット開発プロジェクト 2014年12月「 合同会社テイクプラス 」起業	九州工業大学 大学院生命体工学研究科 教授 西田 治男	DBJ キャピタル 株式会社
	菌根菌とそのパートナー細菌を活用した、安心・安全で持続可能な食料増産技術の事業化のための研究開発	京都府立大学 大学院生命環境科学研究科 教授 石井 孝昭	DBJ キャピタル 株式会社
	経皮的肝灌流化学療法 (PIHP) を行う医療機器システムの開発 2016年3月「 PIHP メディカル株式会社 」起業	神戸大学 大学院医学研究科 教授 具 英成	日本戦略投資 株式会社
	新規大腸がん特異抗体による治療・診断法の開発	国立がん研究センター 新薬開発分野 分野長 松村 保広	日本戦略投資株式会社
	半月板型インプラント様細胞構造体を用いたあたらしい再生医療事業の創出	佐賀大学 大学院工学系研究科 教授 中山 功一	株式会社東京大学エッジ キャピタルパートナーズ
	気体の超精密制御技術を基盤とした低侵襲手術支援ロボットシステムの開発 2014年5月「 リバーフィールド株式会社 」起業	東京医科歯科大学 生体材料工学研究所 教授 / 東京工業大学 精密工学研究所 准教授 川嶋 健嗣 東京工業大学 精密工学研究所 准教授 只野 耕太郎	ジャフコ グループ株式会社
	抗 CD4 抗体投与による骨髄移植に伴う副作用 (GVHD) の軽減と抗腫瘍効果 (GVL/T) の促進をねらった治療	東京大学 大学院医学系研究科 教授 松島 綱治	株式会社東京大学エッジ キャピタルパートナーズ
	非侵襲型診断医療に向けた半導体バイオセンシングの実用開発研究 ~採血フリーグルコースセンサによる糖尿病患者の負担軽減を目指して~ 2015年3月「 株式会社PROVIGATE 」起業	東京大学 大学院工学系研究科 准教授 坂田 利弥	株式会社東京大学 エッジキャピタル パートナーズ
	無線アクセスポイント仮想化による情報通信サービスの高度化	東京大学 大学院情報学環 教授 中尾 彰宏	株式会社東京大学エッジ キャピタルパートナーズ
	知能ロボットソフトウェアの産業展開によるオープンイノベーション拠点の創出	東京大学 大学院情報理工学系研究科 准教授 岡田 慧	株式会社東京大学エッジ キャピタルパートナーズ
	高速液クロ/質量分析装置用普及型脱塩インターフェース、および試薬の開発	東京農工大学 大学院農学研究院 教授 千葉 一裕	ジャフコ グループ株式会社
	高性能・低価格太陽電池を実現するための Cu ベースの開発 2013年4月「 株式会社マテリアル・コンセプト 」起業	東北大学 未来科学技術共同研究センター 教授 小池 淳一	東北イノベーション キャピタル株式会社
	超高機能光源の開発と先端バイオメディカル応用	東北大学 未来科学技術共同研究センター 教授 横山 弘之	東北イノベーション キャピタル株式会社
	新型固体電池のグローバルビジネスモデル確立のためのスマートバッテリー技術開発	東北大学 金属材料研究所 准教授 山村 朝雄	DBJ キャピタル 株式会社
	複合型光ファイバを適用した産業及び医療用ツール開発プロジェクト 2013年9月「 株式会社OKファイバーテクノロジー 」起業	日本原子力研究開発機構 量子ビーム応用研究部門 研究主幹 岡 潔	日本戦略投資 株式会社
	モータ内蔵型ミリサイズ・バックラッシュレス関節アクチュエータの事業化 2015年4月「 株式会社ミューラボ 」起業	福島大学 共生システム理工学類 教授 高橋 隆行	東北イノベーション キャピタル株式会社
	アグリ・グリーンイノベーションを実現する生分解性抗菌ナノ粒子による農業用抗菌剤の研究開発	横浜市立大学 大学院医学研究科 准教授 城武 昇一	DBJ キャピタル 株式会社
	糖鎖の研究及び産業利用を促進させるための新規糖鎖合成技術の開発	和歌山大学 教育学部 准教授 山口 真範	バイオ・サイト・ キャピタル株式会社
	次世代ハイビジョン用画像デコーダ LSI の事業化	早稲田大学 大学院情報生産システム研究科 教授 後藤 敏	ウエルインベスト メント株式会社

START

Program for Creating Start-ups
from Advanced Research and Technology

大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進型

各プログラムの概要

大学発新産業創出プログラム(START) 大学・エコシステム推進型は、以下の各プログラムにて構成されています。

▶大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援(⇒P.45)

※新規の公募の予定はありません。

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援では、2020年7月に内閣府が選定した「スタートアップ・エコシステム拠点都市」において中核となる大学・機関から構成されるプラットフォームに対し、アントレプレナーシップを有する人材の育成とスタートアップ創出へ一体的に取り組むための活動に必要な支援を行います。大学から生まれる優れた技術シーズの実用化やアントレプレナーシップを有する人材の育成を強力に支援し、コロナ後の社会変革や社会課題解決に繋がる社会的インパクトの大きいスタートアップが持続的に創出される体制を構築することを目指すプログラムです。

※ スタートアップ・エコシステム拠点都市:内閣府が公募し、4つのグローバル拠点都市及び4つの推進拠点都市が選定され、2020年～2022年までの3年間を集中支援期間として、世界に伍するスタートアップを支える支援体制の構築を推進する。
<https://www8.cao.go.jp/cstp/openinnovation/ecosystem/index.html>



▶大学・エコシステム推進型 大学推進型(⇒P.47)

※新規の公募の予定はありません。

大学・エコシステム推進型 大学推進型では、大学にて、学内の研究代表者の技術シーズを基にした大学発スタートアップの創出にむけた研究開発課題の募集・選考、及び起業活動支援プログラムの運営を推進します。最長5年度の活動期間となりますが、支援期間終了後も持続的に大学発スタートアップ創出支援を実現するために、GAPファンド運用や支援体制の維持等に必要な資金の確保を含めた中長期的な計画を立てて、活動を推進します。

▶大学・エコシステム推進型 拠点都市環境整備型(⇒P.48)

※新規の公募の予定はありません。

2020年度補正予算で実施した「大学・エコシステム推進型 拠点都市環境整備型(以下、「拠点都市環境整備型」)」では、「スタートアップ・エコシステム拠点都市」において中核となる大学・機関から構成されるプラットフォームに対し、起業家育成とスタートアップ創出に一体的に取り組むための環境整備に必要な支援を短期集中的に実施しました。スタートアップ・エコシステム形成支援では、アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等への支援も追加し、拠点都市環境整備型で育成した人材や整備した環境を活用しつつ、さらにエコシステムを発展させることを目指します。

START

Program for Creating Start-ups
from Advanced Research and Technology

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援では、2020年7月に内閣府が選定した「スタートアップ・エコシステム拠点都市」において中核となる大学・機関から構成されるプラットフォームに対し、アントレプレナーシップを有する人材の育成とスタートアップ創出へ一体的に取り組むための活動に必要な支援を行います。大学から生まれる優れた技術シーズの実用化やアントレプレナーシップを有する人材の育成を強力に支援し、コロナ後の社会変革や社会課題解決に繋がる社会的インパクトの大きいスタートアップが持続的に創出される体制を構築することを目指すプログラムです。

事業の特徴

アントレプレナーシップを有する人材の育成と大学発スタートアップ創出に必要な、

- 1 (1) 起業活動支援プログラムの運営
(2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等
(3) 起業環境の整備
(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展
について一括して支援

- 2 支援対象はスタートアップ・エコシステム拠点都市において中核となる大学・機関を中心とした複数機関の連携によるプラットフォーム(研究者個人、機関単独では対象外)

- 3 最長5年度の支援期間終了後も、拠点都市で自律的かつ持続的なアントレプレナーシップ人材の輩出や、大学発スタートアップ創出に取り組むスタートアップ・エコシステムの実現を目指す

支援内容

支援目的

「スタートアップ・エコシステム拠点都市」における取組との連携により社会的インパクトの大きいスタートアップが持続的に創出される体制の構築

支援対象

スタートアップ・エコシステム拠点都市において中核となる大学・機関を主幹機関とし、共同機関、幹事自治体とともに複数機関(最低5機関以上)が連携して形成したプラットフォーム

支援期間

最長5年度

問い合わせ先

スタートアップ・技術移転推進部 スタートアップ第2グループ
〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町
TEL: 03-3512-3529 E-mail: su-ecosys@jst.go.jp
<https://www.jst.go.jp/start/su-ecosys/index.html>



大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援の枠組み

プラットフォームは、スタートアップ・エコシステム拠点都市のビジョン・目標に対し、プラットフォームとしてどのように貢献していくかを踏まえた上で、支援終了時点におけるプラットフォームとして目指す姿について定め、以下の内容について実施します。

主幹機関・共同機関



- 技術シーズの発掘、研究開発課題の募集・選考
- 研究開発費（GAP ファンド）の適切な配布、起業ノウハウ等の学習、ビジネスモデルのブラッシュアップ、想定顧客訪問サポート等の支援
- ハンズオン支援する人材の育成
- Demo Day の実施

起業活動支援プログラムの運営

主幹機関・共同機関



- 拠点都市で受講を希望する全ての者に対して、アントレプレナーシップ人材育成プログラムを提供できる環境の整備
- アントレプレナーシップ教育をより効率的、効果的に実施するための体制・仕組みづくり
- アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・実施

アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営等

主幹機関・共同機関



- 起業を志す研究者等が、事業化に向けた準備・検討を行う際に必要となる環境の整備
- 起業を志した際の相談窓口の設置や、関係諸ルールの整備・見直し
- 設備機器を活用した起業支援に資するプログラム等の実施

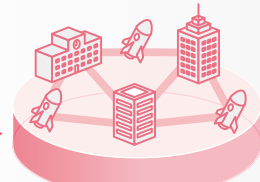
起業環境の整備

主幹機関・共同機関



- 産学官金の各ステークホルダーとのネットワーク構築やそれらが有効に機能するようなマネジメントの実施
- ネットワーク構築のためのコミュニティの設置やネットワーキングイベントの実施
- 拠点都市間の情報共有、ネットワーク構築や、拠点都市外の機関・海外のエコシステムとの連携促進

拠点都市のエコシステムの形成・発展



スタートアップ・エコシステムの構築

大学・エコシステム推進型 大学推進型 ※新規の公募の予定はありません。

大学・エコシステム推進型 大学推進型では、大学にて、学内の研究代表者の技術シーズを基にした大学発スタートアップの創出にむけた研究開発課題の募集・選考、及び起業活動支援プログラムの運営を推進します。

最長5年度の活動期間となりますが、支援期間終了後も持続的に大学発スタートアップ創出支援を実現するために、GAPファンド運用や支援体制の維持等に必要な資金の確保を含めた中長期的な計画を立てて、活動を推進します。

事業の特徴

- 1 大学の特色や強みを活用した、起業活動支援プログラムを実施可能
- 2 毎年度Demo Dayを実施し、次のステージへ展開
- 3 複数の大学と連携した取り組み
- 4 最長5年度の活動期間後も、持続的な大学発スタートアップ創出支援実現を目指す

支援内容

支援目的	大学の自助努力により推進する起業支援の取り組みの促進とそのためが必要となる持続可能な起業支援体制の構築・強化
支援対象	主幹機関：国内の国公立大学 共同機関：国内の国公立大学、国公立高等専門学校、大学共同利用機関法人、独立行政法人（国立研究開発法人を含む）、地方独立行政法人
支援期間	最長5年度
支援費用（直接経費）	プログラム推進費と研究開発費の合計上限：6,000万円/年（内訳上限） 「プログラム推進費」3,000万円/年 「1研究開発課題あたりの研究開発費」原則500万円/年（上限1,000万円/年）

大学推進型 拠点都市環境整備型とは ※新規の公募の予定はありません。

大学推進型 拠点都市環境整備型では、
スタートアップ・エコシステム拠点都市[※]においてプラットフォームを構築する
大学や機関に対し、起業家育成とスタートアップ創出に一体的に取り組むための環境整備を支援し、
コロナ後の社会変革や社会課題解決に繋がる社会的インパクトの大きいスタートアップが持続的に創出される
体制を構築する活動を推進します。

※ スタートアップ・エコシステム拠点都市：内閣府が公募し、4つのグローバル拠点都市及び4つの推進拠点都市が選定され、令和2年～令和4年までの3年間を集中支援期間として、世界に伍するスタートアップを支える支援体制の構築を推進する。
<https://www8.cao.go.jp/cstp/openinnovation/ecosystem/index.html>

事業の特徴

以下の項目を実施し、大学を中心とするスタートアップ・エコシステムの構築を目指します。

- 1 起業に向けた研究開発と起業活動支援プログラムの運営
- 2 起業家育成プログラムを運営する指導・支援人材の育成等
- 3 起業環境の整備
- 4 プラットフォーム内外のスタートアップ・エコシステムの構築・推進

支援内容

支援の目的	「スタートアップ・エコシステム拠点都市」における取組との連携により大学を中心としたエコシステムの構築に向けた環境整備
対象機関	主幹機関：国内の国公立大学、一般財団法人、一般社団法人、 公益財団法人、公益社団法人、民間企業 共同機関：国内の国公立大学、国公立高等専門学校、大学共同利用機関法人、 独立行政法人（国立研究開発法人を含む）、地方独立行政法人、一般財団法人、 一般社団法人、公益財団法人、公益社団法人、民間企業
支援期間	契約締結日から令和3年度末まで
支援費用（直接経費）	グローバル拠点都市に所属するプラットフォーム：上限3.8億円程度 推進拠点都市に所属するプラットフォーム：上限1.8億円程度

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援 採択プラットフォームによる アントレプレナーシップ人材育成プログラムの実施内容紹介

「大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援」では、全部で7つのプラットフォームが採択され、アントレプレナーシップを有する人材の育成とスタートアップの創出に向けた活動等を実施しています。
今回は各プラットフォームによるアントレプレナーシップ人材育成プログラムの取組内容について、2024年度に実施した活動の一部を紹介します。



北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク(HSFC)

※詳細はP.57を参照。

叡智は、挑戦のフォースとなる。
— 学びのステップが拓く、
次世代アントレプレナー育成 —

HSFCは、官民連携プラットフォーム「STARTUP HOKKAIDO」と協働し、約3か月にわたり連携講義「社会課題を読み解き未来を生き抜くフューチャースキルを育てよう」を実施しました。起業家による講義や、ビジネスアイデア創出に挑む実践型ワークを通じて、大学生と高校生が世代や背景を超えて学び合うコミュニティが生まれ、アントレプレナーシップの基盤が育まれました。最終発表では10チームがピッチに挑戦し、最優秀チームには次の学びのステップとなるスタートアップエコシステムツアーへの参加権が授与されました。

また、一次産業分野を強みとする北海道との親和性を踏まえ、イタリア・ポッリカの漁村地域での海外研修も実施しました。「Local」「Sustainable」「Fieldwork」を軸に、漁師体験や水産加工の実習、持続可能性をテーマとしたハッカソンなど、地域に根ざした体験を重ねることで、事業づくりの基盤となる視点を深めました。

このように、講義等での学びを通してマインドを醸成し、さらに体験型研修を重ねることで、学生たちは次のステップであるアクセラレータープログラムなどの社会実装につながる学びを積み上げています。こうしたプロセスと段階的な学びの積み重ねが、スタートアップ創出に向けた着実な成長の流れを形づくっています。



▲イタリア・ポッリカの漁村地域でのグローバルアントレプレナーシップ育成プログラム



▲社会実装へとつながるアクセラレーションプログラム

東北から世界へ挑戦するアントレ人材の育成と、プログラムを超えた学びの創出

DeepTech人材育成プログラム

フランス・エコールポリテクニクと連携し、研究シーズをもとに起業したい学生・研究者を対象にGlobal DeepTech Designer Programを実施しました。初心者向けBasicコースでは、オンデマンド教材やワークショップでビジネスアイデアの発想を学び、上級者向けAdvancedコースではアイデアをコーチングでブラッシュアップした後、パリで現地研修を行い、ディープレックスタートアップのエコシステムを体感します。2025年度からはBasicとAdvancedの間を補完するPracticalコースと、3週間のフィールドワークを加え、基礎理解から起業までを一気通貫で学ぶカリキュラムを提供し、海外の起業風土を日本に持ち帰ることも目指します。MASPでは欧米・アジアの各大学との連携プログラムも展開しています。

MASPプログラムが一同に会するアントレ教育の祭典

TOHOKU IGNITE 2025は、学生の起業支援やアントレ教育をテーマに、2024年度に実施された5つのプログラムの合同報告会として開催されました。東北や海外での挑戦を通じて育まれた社会課題解決やデジタル改革などの取り組みを学生が発表します。2025年度はさらに参加プログラムを拡大し、小学生から大学生・研究者まで幅広い世代が学びや成長を共有・刺激しあえる大規模イベントを計画しています。



▲パリのインキュベーション施設訪問の様子



▲TOHOKU IGNITEにおけるワークショップの様子



Greater Tokyo Innovation Ecosystem ※詳細はP.59を参照。

「世界を変える大学発ベンチャーを育てる」アントレプレナーシップ人材育成プログラム

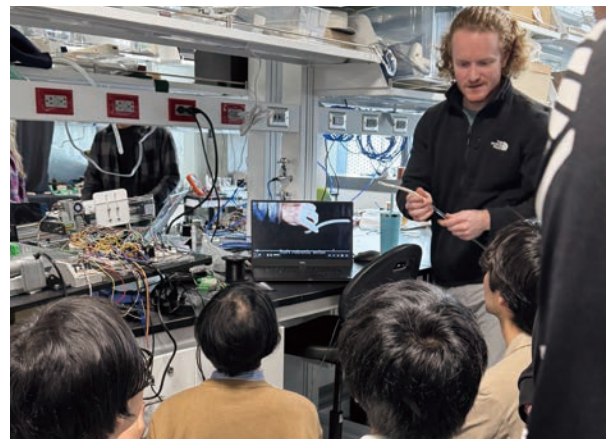
GTIEでは、起業・事業創出への意欲や課題設定・検証力、リーダーシップを体系的に育成する「アントレプレナーシップ人材育成プログラム」を展開しています。学生や研究者など幅広い層を対象に、多様なプログラムを提供し、GTIE内外の機関と連携してノウハウを共有しながら、アントレプレナーシップの醸成を目指しています。

2023年度より開始した「GTIE共通人材育成プログラム」では、GTIEに参画する大学の学生を対象に、国内外で多様なプログラムを実施しました。国内研修ではリーンローンチパッド研修による実践、海外研修であるシリコンバレー派遣では、現地のベンチャーキャピタルや起業家との交流を通じた学びの機会を提供し、メルボルン派遣では、メルボルン大学の協力のもと、実践的スキルを習得する機会を提供しました。また、GTIE以外の大学の学生も対象としたミートアップを複数回開催し、裾野拡大にも取り組んでいます。

また、研究者向けにワークショップ型プログラムを実施し、大学が保有する研究成果を活用し、ビジネスプランの仮説構築から検証までを支援する教育活動にも取り組みます。高校生等を対象としたプログラムでは、アントレプレナーシップ教育の浸透を図るとともに、社会的課題の解決に向けた意識醸成と実践を促進しています。さらには、アントレプレナーシップを行う教育者を対象とした教員向けプログラム、インパクトスタートアップ勉強会など、多角的な活動を推進しています。



▲シリコンバレー派遣



▲メルボルン派遣

東海地域の大学が一体となり「誰もがアントレプレナーシップ教育を受講できる環境」を構築

“未来に繋がる価値を創り、届けることができるトンガった人材を育成する”をミッションとしているTongaliには、東海地域の28大学が参画しており、アントレプレナーシップ教育を地域一体で行っています。2024年度は、114のプログラムを実施し、のべ9,000人以上の学生が参加しました。

我々のアントレプレナーシップ教育の大きな特徴は、「気づき」をスタートとし、そこから「深掘り」「アイデア創出」「アイデア実証」、さらには、実証したアイデアの「実践準備」「仮説検証」…と、段階的に学びを進められるところにあります。

毎年4月、起業家の考え方から学ぶ「マインドセット」から始まり、Tongaliスクールでは0→1を創るための思考や方法を学びます。秋には「アイデアピッチコンテスト」を開催し、多くの学生がアイデアや技術を基にしたアイデアを発表。そのアイデアをどう実現していくかの研修がここから始まり、事業の可能性が見られたら、次の年の初夏に開催する「ビジネスプランコンテスト」でさらに磨きをかけていきます。

参画する大学がそれぞれ特徴あるプログラムを提供するとともに、すそ野を広げ、小中高生対象アントレ教育の展開にも力を入れています。スタート地点がどの年代であっても、段階を進めるごとに、シームレスに気づきを行動に、行動を形に…と体系的に学んでいける環境作りを大切にしています。

Tongaliでは今後もアントレ教育のさらなる拡充、受講者層の拡大を目指し、全参画大学一体となって歩みを進めていきます。



▲「Tongaliビジネスプランコンテスト2025」

2025年度のビジネスプランコンテストには94チームのエントリーがあり、当地区の登竜門的存在になりつつあります。



▲「真珠から学ぼう」

小中学生がアコヤガイの解剖を通し、御木本幸吉の起業家マインドを学びました。

KSACが提供する フィールドワーク・プログラム

サステナブル・ガストロノミー・プログラム：“サステナビリティ”が新たな価値を生み出す事業機会であると捉え、真の社会課題の探索を学びます。食の生産から消費・廃棄に至るサプライチェーンを考えるだけでなく、食をとりまく生活や文化、芸術までを含めて、複雑な循環型社会をより客観的かつ広い視野で観ることを経験します。

ナッジと公共政策：行動経済学の理論を学びながら、実社会の課題を解決するナッジを構築するプログラムです。学部生・院生、自治体の職員、社会人と学生が共創しながら課題解決案を考えます。

ハザイソン：町工場から生じる端材・廃材について、学生とプロダクトデザイナーの共創により新しい価値を持つ商品にアップサイクルさせる開発プログラムです。プロのプロダクトデザイナーに弟子入りをする経験もあり、新たな価値のあるものをゼロから作り出すために必要なスキルセットを身につけることができます。

テクノロジー・レジリエンス・プログラム：大きな複合災害からの創造的復興をもたらす事業を考案するプログラムです。過去の大震災からの復興の実際を観ることで、社会的価値と経済的価値を両立する解決策を考案します。

未来社会とエネルギー：エネルギー問題の先進地域であるハウイの現状を観ることで問題の本質を捉え、エネルギーに関わる知識だけでなく文化・習慣に関わる知識を取得・活用することで課題解決のアイデアを考案するプログラムです。



▲町工場からの端材を商品化、2025年度は、パナソニックと協業し、大阪・関西万博「ノモの国」パビリオンにて展示と発表を行いました。



▲テクノロジー・レジリエンス・プログラムのフィールドワーク（@宮城県女川町）での集合写真



平和希求型イノベーション人財を育む 中四国アントレ教育エコシステム

PSIエコシステムでは、「平和希求型イノベーション人財」の育成を目指し、中国・四国地域の大学(18大学)が参画して、アントレプレナーシップ教育を推進しています。

学生が、自ら課題を設定し、解決に向けたアイデアや社会実装に向けてプレゼンテーションする場として、「PSI学生アイデアピッチ」を2024年に初めて開催しました。これまで、各大学内で実施していた試みをPSIの他大学を交えて行ったことに大きな意義があります。6大学から選抜された学生が、地域産業や社会に関する課題を解決するために、多様な視点からビジネスアイデアを発表しました。当日は、現地・オンライン合わせて約150名が参加し、地元企業や自治体、金融機関等からの講評や異業種の交流も実施しました。これにより、学生間並びに社会人とのつながりや協働が芽生える絶好の機会となりました。

こうした取り組みは、PSIの参画大学で構成される「アントレプレナーシップ委員会」が進める教育資源の可視化、カリキュラムの相互開放の枠組みに支えられています。相互開放の代表的な取組みとして、広島大学の「地域おこし実習」が挙げられます。地域の伝統や地域資源の魅力をフィールドワークを通じて学び、学生が事業提案を行うものです。

PSIは今後も、中国・四国地域の参画大学が地域の壁を超えて、誰もがアントレプレナーシップ教育を受講し、様々な挑戦ができる機会を提供し続けていきたいと思っています。



▲中四国6大学の代表学生が挑戦した「PSI学生アイデアピッチ」。受賞者が集まり、学びと努力の成果を共有しました。



▲東広島市・豊栄町での薬細工体験。地域住民から伝統技術を学び、地域資源の価値を再発見する「地域おこし実習」の一場面です。



Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup—ecosystem(PARKS)

※詳細はP.63を参照。

PARKS海外研修プログラム

PARKSは、アジアとつながるスタートアップ・エコシステムを創出することを目指しています。そのため、PARKSのアントレプレナーシップ教育に於いても、学生をアジアの国々に派遣して、アントレプレナーシップについて学ぶための海外研修プログラムを実施しています。2024年度は、シンガポールと台湾と香港に学生を派遣し、現地の関係者と共にアントレプレナーシップ教育を実施しました。

シンガポール研修プログラムでは、シンガポールのアクセラレーターであるReactorと連携して、ビジネスプランのアイデアソンを実施し、そのビジネスプランを南洋理工大学とシンガポール国立大学でピッチしました。その他にも、BLOCK71やOne&Coなどシンガポールのスタートアップ関連の施設等を訪れて、シンガポールのスタートアップ・エコシステムについて学びました。

台湾研修プログラムでは、国立政治大学でアイデアソンを実施しました。また、台北のスタートアップ関連施設であるStartup IslandやOne&CoやTaiwan Tech Arenaを訪問したり、台湾のシリコンバレーと呼ばれる新竹を訪問したりして、台湾のスタートアップ・エコシステムについて学びました。

香港研修プログラムでは、香港科技大学(HKUST)と連携して、HKUST-SINO One Million Dollar Entrepreneurship Competition 2024に参加しました。また、香港中文大学アントレプレナーシップセンターや香港サイエンスパークなど香港のスタートアップ関連施設を訪問して、香港のスタートアップ・エコシステムについて学びました。



▲シンガポール研修プログラム

南洋理工大学のアントレプレナーシップアカデミーと連携して、PARKSの4チームがピッチを実施しました。南洋理工大学の教員やスタッフからピッチに対するフィードバックを頂きました。



▲香港研修プログラム

香港科技大学(HKUST)と連携して、HKUST-SINO One Million Dollar Entrepreneurship Competition 2024に参加し、香港科技大学の教員や学生と交流しました。

♥ ライフサイエンス

<p>一気通貫のバイオアッセイプラットフォームと天然物創薬ライブラリで創薬・機能的食品開発を支援します</p>  <p>MED R&D株式会社 Founded 2021 筑波大学</p>	<p>立ち上がって生活する自由を届ける 起立リハビリテーションと 立位型モニタリティの提供</p>  <p>Qolo株式会社 Founded 2021 筑波大学</p>	<p>細胞内へ任意の物質を導入および 抽出するためのナノチューブを用いた ツールの開発・製造・販売</p> <p>HYNTS TECH</p> <p>ハインツテック株式会社 Founded 2021 早稲田大学</p>	<p>データサイエンス・AIの技術でデータ から新たな価値を見出し、最適な医療を 提供できる社会を目指す</p>  <p>株式会社Mediest Founded 2021 神戸大学</p>
<p>観察漏れや診断ミスによる “見落とし”を防ぐ 膀胱内視鏡検査支援 AI システムの開発</p> <p>Vesica corporation</p> <p>Founded 2021 筑波大学</p>	<p>脳卒中を克服できるレドックスナノ粒子の 研究成果を医療現場に届けます</p>  <p>CrestecBio株式会社 Founded 2021 筑波大学</p>	<p>人から動物まで、分子センシングに よりストレスをすばやく見える化</p>  <p>KOKOROMI 株式会社こころみ Founded 2022 早稲田大学</p>	<p>人とペットが共に健康長寿となる 未来をソウゾウする</p>  <p>株式会社ビヨ・ファーマ Founded 2022 神戸大学</p>
<p>誰もがどこでも簡単に 極微量タンパク質検出を行える 革新的なプラットフォームを創生します</p>  <p>株式会社BioPhenoMA Founded 2023 早稲田大学</p>	<p>生命科学の最先端テクノロジーで 健康を創出します</p>  <p>Statera合同会社 Founded 2024 筑波大学</p>	<p>「FOOD × EXERCISEで社会課題を解決へ」をミッション、 「食と運動で一人の健康寿命の延伸に挑戦する」をビジョン と定め、動脈硬化・生活習慣病・ロコモティブシンドローム・ フレイルの予防を目指した各種サービスを提供します</p>  <p>株式会社Food&Exercise Lab Founded 2024 大阪工業大学</p>	<p>大学発のエビデンスに基づいた シーズを基に人々の幸せ・ 健康長寿社会に貢献します</p>  <p>株式会社神戸バイオサイエンス研究所 Founded 2025 神戸大学(主幹: 神戸大学)</p>

🌿 環境・エネルギー

<p>「気象×ICT」で学術と産業の 架け橋となり、 風力発電の正しい導入の道しるべに</p>  <p>レラテック株式会社 Founded 2020 神戸大学</p>	<p>環境に優しいバイオ発酵法によって 現代社会に必要な化学品を生産します</p>  <p>BioPhenolics株式会社 Founded 2023 筑波大学</p>	<p>下水・海水・空気から光で 化学品をつくる</p>  <p>光オンデマンドケミカル株式会社 Founded 2024 神戸大学</p>
---	--	---


📶 情報通信

<p>工場ライン自動化のための、 導入・運用がしやすい小型・簡単操作・ 高拡張なロボットシステムの開発</p>  <p>株式会社Closer Founded 2021 筑波大学</p>	<p>都市のビッグデータを解きほぐす</p> <p>株式会社Function</p> <p>Founded 2022 神戸大学</p>	<p>だれもが使えるシミュレーション・ 最適化技術 限られた人手でサービスの 質を上げるためのソリューションの提供</p>  <p>DsD合同会社 Founded 2022 神戸大学</p>	<p>人流センシング技術で安全・安心な街・ 社会を支えるインフラおよび ソリューションの提供を実現します</p>  <p>合同会社ゆいまーイノベーション Founded 2022 大阪工業大学</p>
<p>あらゆる形状に被覆可能で 配線不要な触覚センサ</p>  <p>FabSense株式会社 Founded 2024 筑波大学</p>	<p>進化するビジネスとともに。 AIで支える、セキュリティの当たり前。</p>  <p>株式会社ザナリクス Founded 2024 神戸大学(主幹: 神戸大学)</p>	<p>「人の動きを計算可能にする」スポーツから 非スポーツ領域まで幅広い分野に応用可能な AI映像解析プラットフォームを構築</p>  <p>株式会社Playbox Founded 2024 筑波大学(主幹: 筑波大学)</p>	<p>「覚醒度検知によりハイパフォーマンスの発揮を 支援する」顔表情から覚醒度を高精度に推定する エッジデバイスおよびクラウド API サービスの提供</p> <p>株式会社ヴィジライズ</p> <p>Founded 2025 筑波大学(主幹: 筑波大学)</p>

🔬 ナノテクノロジー・材料

<p>マイクロ球体化技術で社会に貢献する、 マイキューテック株式会社</p> <p>マイキューテック株式会社</p> <p>Founded 2022 筑波大学</p>	<p>おいしい減塩を、おいしい減塩に。 海底湧水塩をつかった、ミネラル 豊富なおいしい塩</p>  <p>Ussio Lab. 株式会社 Founded 2021 早稲田大学</p>	<p>IoT デバイスを活用した現場改善で 農業の生産性向上を目指します！</p> <p>株式会社アクコム</p> <p>Founded 2022 大阪工業大学</p>	<p>麹菌により、多様な価値を備えた人と 地球にやさしい代替タンパク質を実現する</p>  <p>株式会社麹ラボ Founded 2024 筑波大学(主幹: 筑波大学)</p>
--	---	---	--

その他 その他

<p>消費者の深層心理を探り、深層心理に 訴えるマーケティング戦略を考えます</p> <p>株式会社日本消費者深層心理研究センター</p> <p>Founded 2021 神戸大学</p>	<p>オートファジー研究をベースにしたニュー トリゲノミクスなどの解析を行い、食品の 機能的、安全性の評価事業を行っている</p>  <p>Wellness AP Science Wellness AP Science株式会社 Founded 2024 早稲田大学</p>
---	--

♥ ライフサイエンス

<p>脳卒中リハビリロボットをはじめとする医療機器の開発に取り組んでいます</p>  <p>株式会社東北医工 Founded 2022 岩手大学(主幹: 東北大学)</p>	<p>排泄に関する患者さんの「できたらいいな」、を実現します</p>  <p>株式会社Eudaimonix Founded 2022 京都大学(主幹: 京都大学)</p>	<p>フェロトシス創薬で病気を治す</p>  <p>株式会社FerroptoCure Founded 2022 慶應義塾大学(主幹: 東京工業大学)</p>	<p>DNA 修復研究の成果をがん診断・治療等の先端医療に応用した研究用試薬、診断薬、治療薬の開発</p>  <p>株式会社ドゥナキュア Founded 2022 横浜市立大学(主幹: 横浜みなとみらい21)</p>
<p>あまねくすべての人に健康を届ける(誰もが健康で、病気や飢餓とは無縁の社会を創造する)</p>  <p>エコセル株式会社 Founded 2022 横浜市立大学(主幹: 横浜みなとみらい21)</p>	<p>細径軟性マニピュレータの技術を応用した手術機器を開発しています</p>  <p>エンドフォースイト株式会社 Founded 2022 九州大学(主幹: 九州大学)、神戸大学へ転籍後起業</p>	<p>先進的な遠隔画像診断の提供(社会実装)、画像診断システムや医療情報システムに関する研究開発事業、モバイル型・仮設型のCTやMRI等に関する事業</p>  <p>横浜ラジオロジカ株式会社 Founded 2022 横浜市立大学(主幹: 横浜みなとみらい21)</p>	<p>再生医療領域に用いる魚うるこコラーゲン製シートの販売・開発・金型設計をします</p>  <p>株式会社コラウインド Founded 2023 新潟大学(主幹: 東北大学)</p>
<p>ハイドロゲルで生体質感モデルを再現 新次元のリアルタッチ感を実現!</p>  <p>ゲルサイエンス合同会社 Founded 2023 横浜国立大学(主幹: 横浜みなとみらい21)</p>	<p>乳幼児期の発達に関する健診を推進し、早期支援へと繋げる</p>  <p>株式会社SEGNOs Founded 2024 九州大学(主幹: 九州大学)</p>	<p>磁性粒子が診断技術の常識を変える!</p>  <p>AQVANA株式会社 Founded 2024 長岡技術科学大学(主幹: 東北大学)</p>	<p>水ストレスの解決へ役立てていく</p>

DNAを活用した有機素材の開発





株式会社Dincula
Founded 2024
関西大学(主幹: 京都大学)

🌿 環境・エネルギー

<p>ダイヤモンド半導体の製造及び販売 廃炉技術の社会実装を目指す</p>  <p>大熊ダイヤモンドデバイス株式会社 Founded 2022 北海道大学(主幹: 北海道大学)</p>	<p>国際特許を取得した安心安全な風力発電を活かして、分散型エネルギーとしての普及を目指します!</p>  <p>株式会社パンタレイ Founded 2021 長岡技術科学大学(主幹: 東北大学)</p>	<p>持続可能な食用タンパク源ウキウサ Wolfia のオンデマンド生産技術開発</p>  <p>Floatmeal株式会社 Founded 2023 北海道大学(主幹: 北海道大学)</p>
---	--	---

📶 情報通信

<p>クラウド教育プラットフォームで、数理・データサイエンスの教育環境をご提案します!</p>  <p>株式会社CES-Alpha Founded 2022 新潟大学(主幹: 東北大学)</p>	<p>学習障害につながる眼球運動の苦手を検出し、トレーニングで解消する社会をめざします</p>  <p>Vision Labs 株式会社 Founded 2025 関西学院大学(主幹: 京都大学)</p>
--	---

メカノケミカル法による有機化学合成の革新



株式会社メカノクロス
Founded 2023
北海道大学(主幹: 北海道大学)

🔬 ナノテクノロジー・材料

<p>「先端繊維材料をあなたの手に」をモットーに、スポーツ材料、自動車産業、航空宇宙産業、その他一般産業分野に向けて社会実装に取り組みます</p>  <p>株式会社fff fortississimo Founded 2022 名古屋大学(主幹: 名古屋大学)</p>	<p>株式会社ミサリオは新材料の実装を通じて社会の持続的な発展に貢献します</p>  <p>株式会社ミサリオ Founded 2022 名古屋大学(主幹: 名古屋大学)</p>	<p>スペクトル超解像解析ソフトの開発、販売による分析・検査の高度化技術の普及</p>  <p>SSR株式会社 Founded 2023 名古屋大学(主幹: 名古屋大学)</p>
--	---	---

🌾 農林水産

化学農薬の代替となるキャビテーションプラズマ処理水を製造・販売しています。



株式会社YSH総合研究所
Founded 2025
兵庫県立大学(主幹: 京都大学)

📌 その他

<p>地震による建築物損傷診断システム & アプリケーションの研究開発</p>  <p>株式会社preArch Founded 2022 東京理科大学(主幹: 早稲田大学)</p>	<p>認知行動科学と行動経済学をかけた独自の課題解決技術で人や組織のwell-beingを実現する</p>  <p>CoBe-Tech株式会社 Founded 2022 大阪大学(主幹: 京都大学)</p>	<p>臨床工学技術を活用したアジア・アフリカ向けの医療機器管理教育システムの開発・提供</p>  <p>株式会社Redge Founded 2022 神奈川県立保健福祉大学(主幹: 早稲田大学)</p>	<p>人の眼に代わる測色技術により、完全なデジタルアーカイブ化とオンライン化を実現する</p>  <p>株式会社イロラボ Founded 2024 大阪公立大学(主幹: 京都大学)</p>
<p>生きる喜び・生きている体感を創出する「身体的感覚」や「身体的動作」をキーにしたテクノロジー・デジタルデバイスで、人間が持つ本来の量かさや幸福度の向上を目指します</p>  <p>株式会社nu. Founded 2024 関西大学(主幹: 京都大学)</p>			



♥ ライフサイエンス

<p>エクソソーム／細胞外小胞 (EV) の商品規格化と新規素材探索をサポート</p>  <p>株式会社GIFU EXOSOME Founded 2023 岐阜大学</p>	<p>誰でも、どこにいても、高い質の医療を受けられる世界へ</p>  <p>Anylom株式会社 Founded 2023 東北大学</p>	<p>ヘルスプロモーションのためのケアスタジオ創生</p>  <p>スターダムフロウ株式会社 Founded 2023 東北大学</p>	<p>高精度非侵襲ダイナミックブレインマシンインタフェースで脳機能を拡張する</p>  <p>株式会社Gush Founded 2023 広島市立大学 (主幹：広島大学)</p>
<p>病で苦しむ患者様に、ご自身で歩ける未来を提供したい</p> <p>株式会社Walkable Future</p> <p>Founded 2023 愛媛大学 (主幹：広島大学)</p>	<p>歩容認証を活用した AI 疾患鑑別・評価技術により、歩行困難者の早期発見・回復に貢献</p>  <p>株式会社ayumo Founded 2023 大阪大学</p>	<p>アカデミア発革新的技術を用いて「治療効果が高く副作用の少ないがん治療」を実現！</p>  <p>株式会社SCMバイオメディカ Founded 2023 長崎大学</p>	<p>SNPD-siRNA という新しい創薬モダリティで、がんや遺伝性疾患等の患者さんに「負担の少ない医療」を提供します</p>  <p>株式会社ANRis Founded 2023 東京大学</p>
<p>AI と医用画像解析を用いて、健康寿命を延伸する新しいソリューションを提供します</p> <p>MICBON 株式会社</p> <p>Founded 2024 奈良先端科学技術大学院大学</p>	<p>磁性粒子が診断技術の常識を変える！</p>  <p>株式会社SEGNOS Founded 2024 九州大学</p>		



🌿 環境・エネルギー

<p>低温熱で電力を生み出し、エネルギー問題・資源問題を解決し、雇用創出に貢献して参ります</p>  <p>株式会社elleThermo Founded 2023 東京工業大学</p>	<p>メカノケミカル有機合成で産業に変革を！</p>  <p>株式会社メカノクロス Founded 2023 北海道大学</p>
---	---





📶 情報通信

<p>既存の眼鏡無し 3D 映像の常識を覆す、高画質・広視域を同時に実現</p>  <p>株式会社ReallImage Founded 2023 大阪公立大学</p>	<p>列車の車両ごとの混雑をリアルタイムに見る化し、利用者に混雑情報を提供します</p> <p>株式会社Nohs</p> <p>Founded 2023 東京工業大学</p>	<p>看護師一人ひとりの理想とする働き方を実現し、質の高い医療の持続的な提供に貢献します</p>  <p>株式会社アルゴナース Founded 2025 東北大学</p>
--	---	---

🌾 農林水産

<p>次世代光源「Light Emitting Plant」が未来社会を拓く</p>  <p>株式会社LEP Founded 2023 奈良先端科学技術大学院大学</p>	<p>遺骨を土に還し、森に生き続ける樹木葬基地の開設支援、管理運営</p>  <p>株式会社me.MORI Founded 2024 北海道大学</p>
--	---

📄 その他

<p>データ活用を実践し、人材を育成する道場を作り、社会に貢献する</p>  <p>株式会社 e n Founded 2023 北海道大学</p>	<p>“誰でも橋梁や道路をはじめとした公共インフラの管理ができる社会”を実現します！</p>  <p>株式会社コクリエ Founded 2023 大阪大学</p>	<p>医療事故のない世界の実現を目指す</p>  <p>株式会社Medswell Founded 2023 岡山大学 (主幹：広島大学)</p>	<p>社会がツクル、サイエンスコミュニケーションでツクル。SciBaco は科学と社会を結ぶサイエンスコミュニケーションの会社です</p>  <p>株式会社サイバコ Founded 2023 北海道大学</p>
--	--	--	--

大学・エコシステム推進型 大学推進型 採択プロジェクト一覧

※所属・役職名は2025年1月31日時点のものとなります。

採択年度	2020年度
主幹機関	神戸大学 【総括責任者】 副学長・理事／産官学連携本部 本部長 河端 俊典 【プログラム代表者】 産官学連携本部 副本部長 蔭山 広明
共同機関	大阪工業大学 【共同機関責任者】 学長 井上 晋 【プログラム共同代表者】 学長室 研究支援社会連携推進課 課長 江藤 邦隆
活動概要	<p>本事業の目的は、神戸大学および大阪工業大学において、5年後までに外部資金の間接経費や寄附金を原資とする継続的なGAPファンドやシード投資ファンドを運営・発展させ、継続的な起業活動支援を可能にすることである。</p> <p>神戸大学と大阪工業大学に所属する研究者の技術シーズに基づく起業活動支援を通じて技術シーズやビジネスモデルのブラッシュアップを行うとともに、「大学発新産業創出プログラム(START)」の申請やベンチャーキャピタル(VC)へ橋渡しする。同時にさらなる技術シーズの創出につなげることで内閣府事業「スタートアップ・エコシステム拠点都市^{注)}」の「グローバル拠点都市」に採択された「京阪神連携によるスタートアップ・エコシステム拠点形成」に貢献する。</p> <p>具体的には、神戸大学と大阪工業大学が共同でGAPファンドプログラム、起業活動支援プログラムを構築し、試作品製作、追加データ取得などにより、STARTやVCでの評価や投資判断ができるレベルまでビジネスモデルをブラッシュアップする。</p>
採択年度	2020年度
主幹機関	筑波大学 【総括責任者】 副学長／国際産学連携本部 本部長 中内 靖 【プログラム代表者】 国際産学連携本部 本部審議役・教授 西野 由高
活動概要	<p>筑波大学はつくばスタートアップ・エコシステム・コンソーシアムのメンバーであり、つくば地区の国立研究開発法人とも連携しながら、アントレプレナーシップ教育からベンチャー起業支援までの一貫した「大学発ベンチャー創出支援」を推進している。この知見・体制を活用し本事業の起業支援プログラムでは、本学教員などが有する起業シーズを開発研究段階から事業化段階へステップアップするための活動を、学外のプロフェッショナルのメンターと学内の起業支援人材がペアになりハンズオン型で支援する。それにより、起業成功確率を上げると同時に、学内でのメンターの育成も推進する。</p> <p>大学発ベンチャーとの共同研究を積極的に進め、知財の創出を図り、さらには大学が新株予約権を持つことなどで、企業成長の支援とともに大学への資金還流の拡大を図る。それらの資金を次のベンチャー起業支援に供し、またベンチャー起業家も教育プログラムに参画することで、人材・知・資金を循環する総合的ベンチャーエコシステムの確立を進める。</p>
採択年度	2020年度
主幹機関	早稲田大学 【総括責任者】 研究推進担当理事 若尾 真治 【プログラム代表者】 リサーチイノベーションセンター アントレプレナーシップセクション 所長 石井 裕之
活動概要	<p>知財創出、ベンチャー起業・アクセラレーション、産官学連携、高付加価値製品創出、人材育成をスパイラルアップし社会への貢献を目指す早稲田オープンイノベーション・エコシステムを、本事業を駆動力として推進する。</p> <p>経営・財務・法律など起業に必要なチーム構築支援を、本学ビジネススクールおよび成功企業を創出した経験豊かな校友、提携VCからのアドバイスも得ながら進め、質の高い活動支援プログラムの提供を目指す。</p> <p>また、育成企業の世界市場への進出も視野に、米国のファンドおよびアクセラレータとも連携し、世界レベルの質を備えたベンチャー支援プログラムの確立を目指す。併せて、内閣府事業「スタートアップ・エコシステム拠点都市^{注)}」の「グローバル拠点都市」に採択された「スタートアップ・エコシステム東京コンソーシアム」における活動を通じ、アクセラレーションの強化と戦略的な海外展開を図る。</p>

注) スタートアップ・エコシステム拠点都市

日本の強みである優れた人材、研究開発力、企業活動、資金などを生かした世界に伍する日本型のスタートアップ・エコシステム拠点の形成を目指し、地方自治体、大学、民間組織などが策定した拠点形成計画を認定し、政府、民間サポーターによる支援を実施する内閣府の事業です。

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援 採択プラットフォーム一覧

採択年度	2022年度
プラットフォーム名	北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク (Hokkaido Startup Future Creation development by mutual support networks/HSFC "叡智の力、エイチフォース")
参画している拠点都市の コンソーシアムなどの名称	札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会
主幹機関	北海道大学 【総括責任者】 総長 寶金 清博
共同機関	小樽商科大学、室蘭工業大学、北見工業大学、公立はこだて未来大学、札幌医科大学、北海道情報大学、北海道科学大学、北海学園大学、苫小牧工業高等専門学校、函館工業高等専門学校、旭川工業高等専門学校、北海道科学技術総合振興センター、旭川医科大学、帯広畜産大学、北海道医療大学、北海道教育大学、旭川市立大学、北星学園大学・北星学園大学短期大学部
幹事自治体	札幌市/江別市/帯広市/函館市/北海道/釧路市
活動概要	<p>1. 全体概要 北海道未来創造スタートアップ育成相互支援ネットワーク (HSFC (エイチフォース、"叡智の力")) は、スタートアップ創出により、北海道の産業構造の変革と豊かで住みやすい北海道の実現を戦略目標に掲げ、北海道内の大学を中心としたスタートアップ・エコシステムを構築するための全道組織である。 北海道は若い人材の道外流出が進み、少子高齢化とそれに伴う経済活動の縮小が国内で最も先行して進む「課題先進地域」だが、アントレプレナー教育を道内全域へ拡充させ、組織的なスタートアップ支援を推進し、有能な若年層が地域で活躍するベンチャー企業を創出することで「課題解決先進的の地域」への変革を目指す。</p> <p>2. 実施項目ごとの概要 (1) 起業活動支援プログラムの運営 シーズ発掘からGAPファンド申請前の支援、申請後の研究開発および事業化へ向けての支援、Demo Dayの開催、Demo Day後の支援体制の構築など起業活動支援を一連のパッケージで提供する。 具体的には、申請者に対するスタートアップに係る知識注入や専門知識を持つ卒業生を指導者として起用することで質と量を担保したメンタリングの実施により、早期から起業家人材の資質向上を図る。 また、Demo Dayは審査委員に投資側の人材を配置し、VCや金融機関の参加を広げることで次の資金獲得に向けた取り組みになるよう設計している。最終的にはスタートアップ向けの人材プラットフォームと連携し経営人材とのマッチングを進め、1~2年度後の起業を目的に支援を行う。</p> <p>(2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営 北海道大学および小樽商科大学がEDGE-NEXTプログラムで培ってきた知見を活用し、学部学生を含めた幅広い層をターゲットとした段階別のアントレプレナーシップ人材育成メニューの構築・運営に取り組む。また、JSTの社会還元加速プログラム (SCORE事業) で育成した指導支援人材を活躍させ「人材のエコシステム」を構築できるプログラムの開発・運営を実施する。人材育成プログラムは他のプラットフォームとも連携して活用できるものとし、将来的には単位互換制度の構築を目指す。また、経営人材の発掘・育成を行い、大学研究者とのマッチングを進める。</p> <p>(3) 起業環境の整備 SCORE事業により構築してきた拠点をベースとして、各共同機関などで整備した拠点間をつなぐネットワーク機能をさらに強化し、DXを取り入れつつ北海道という非常に広域なフィールドを効率的かつ効果的にカバーできる体制を構築する。 また、北海道立総合研究機構および産業技術総合研究所北海道センターで保有する公設試験研究機関を活用する仕組み (特に大学発ベンチャー企業やGAPファンド支援をされている研究者などが共用できるもの) や、札幌市内にある民間などの起業拠点との連携体制を強化し、起業人材の増加に向けたプロセスを加速させる。</p> <p>(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展 HSFCプラットフォーム推進会議 (仮称) の下にプログラム部会を設置し、各プログラムの進捗管理を行いながら、札幌・北海道スタートアップ・エコシステム推進協議会と連携の上、北海道全域におけるエコシステム形成に向けたビジョンやロードマップを作成し、北海道内関係機関が一体となってスタートアップ・エコシステムの形成を推進する。 また、幹事自治体である札幌市や北海道などが推進しているスタートアップ誘致・創出に係る支援事業の活用をプラットフォームとしても進めるとともに、SCORE事業で連携してきた東北大学とのプログラム相互活用などの協働を実施し、各拠点都市の垣根を超えたスタートアップ・エコシステムの形成・発展を目指す。</p>

採択年度	2022年度
プラットフォーム名	みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォーム (Michinoku Academia Startup Platform : MASP)
参画している拠点都市の コンソーシアムなどの名称	仙台スタートアップ・エコシステム推進協議会
主幹機関	東北大学【総括責任者】理事 遠山 毅
共同機関	弘前大学、岩手大学、秋田大学、山形大学、福島大学、新潟大学、長岡技術科学大学、宮城大学、会津大学、東北大学ナレッジキャスト株式会社
幹事自治体	仙台市
活動概要	<p>1. 全体概要</p> <p>みちのくアカデミア発スタートアップ共創プラットフォームは、東北・新潟の10大学を中核に、幹事自治体の仙台市と地域内外の協力機関で形成し、大学の研究成果・技術シーズを活用し、課題先進地域から国内外の課題解決を図る大学発スタートアップの創出を加速する。</p> <p>そのために、東北大学のシームレスなベンチャー支援の仕組みと経験を展開し、東北・新潟全域でそのシステムを構築する。EDGE-NEXTプログラム参加大学の経験・ネットワークなどを活用して、東北・新潟全域でアントレプレナー教育を実施し、起業環境を整備する。これらを通じ、東北・仙台スタートアップ・エコシステムの形成に貢献する。</p> <p>2. 実施項目ごとの概要</p> <p>(1) 起業活動支援プログラムの運営</p> <p>みちのくGAPファンドの運営により起業活動を支援する。積極的な案件発掘活動を行い、申請前のeラーニングを経て、審査会により支援案件を採択する。採択後の伴走支援として、セミナー・ワークショップにより知識・ノウハウなどを提供し、個別相談・メンタリングによりビジネスモデル構築・ブラッシュアップなどを支援する。成果報告とマッチングのために拠点都市などと連携したDEMO DAYを開催する。</p> <p>なお、令和4年度本予算では令和5年度～令和8年度のGAPファンド支援を予定している（令和4年度のGAPファンド支援は令和3年度補正予算を活用）。</p> <p>令和8年度末までに東北・新潟の大学のスタートアップ創出数を200社増加することを目標とする。</p> <p>(2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営</p> <p>EDGE-NEXTプログラム参加大学の経験・ネットワークなどを活用して、東北・新潟全域でアントレプレナー教育を実施する。</p> <p>動機付け・意識醸成、コンピテンシーの形成、社会実践（アントレプレナー教育後を含む）の各段階で、参加大学が役割を分担し、可能なものは各大学のプログラムの相互乗り入れや統合・一本化を図るなど共通プログラムを実施する。また、アントレコンピテンシー基盤型教育（CBE：Competency-Based Education）を構築していく。</p> <p>令和7年度末までに東北・新潟の学生などがすべからくアントレプレナー教育を受講できる状態を実現し、令和8年度末までに受講者10,000人／年を目標とする。</p> <p>(3) 起業環境の整備</p> <p>各大学に起業相談窓口を設置し、起業関係の学内規程の共有・整備を進める。SCORE拠点都市環境整備型の「東北コンソーシアム試作コーディネートオフィス（Tohoku Consortium Prototype Coordination Office:TPCO）」を運用し、公設試験場や民間企業などと連携し、プロトタイプ作製を支援する。また、プロトタイプデザイン教育研修を実施する。</p> <p>以上の取り組みを強力に推進するために、「みちのく大学間起業支援室ネットワーク（Michinoku University Network for Entrepreneurial Support : MuNES）」を設立・運用する。</p> <p>(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展</p> <p>本プラットフォームは「大学の研究成果・技術シーズを活用し、課題先進地域から国内外の課題解決を図るスタートアップの創出を加速し、大学を中核とするスタートアップ・エコシステム形成」を企図している。</p> <p>各主体の役割として、大学はアントレプレナー教育・事業性検証・大学の技術の活用などを、自治体は事業環境整備・ビジコンイベント開催・実証フィールドの活用などを、金融機関・VCはファイナンス、メンタリングなどを、産業界は共同事業化、人材・資金支援などを果たし、東京圏やグローバルとも連携し、日本を代表する世界的なスタートアップ・エコシステムを形成していく。</p>

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援 採択プラットフォーム一覧

採択年度	2021年度
プラットフォーム名	Greater Tokyo Innovation Ecosystem (GTIE)
参画している拠点都市の コンソーシアムなどの名称	スタートアップ・エコシステム「東京コンソーシアム」
主幹機関	東京大学【総括責任者】執行役・副学長 染谷 隆夫 早稲田大学【総括責任者】研究推進担当理事 若尾 真治 東京科学大学【総括責任者】理事・副学長(研究・産学官連携担当) 波多野 睦子
共同機関	筑波大学、千葉大学、ライフサイエンス・イノベーション・ネットワーク・ジャパン (LINK-J)、東京農工大学、お茶の水女子大学、神奈川県立保健福祉大学、CIC Toranomon 合同会社、渋谷スクランブルスクエア株式会社 (SHIBUYA QWS)、横浜国立大学、横浜市立大学、慶應義塾大学、東京都立大学、芝浦工業大学
幹事自治体	つくば市／茨城県／川崎市／横浜市／渋谷区／東京都
活動概要	<p>① 全体概要 本構想は、国際競争力の強化、スタートアップの創出や成長、GreaterTokyoの経済の持続的な発展を実現し、また、エコシステムによるイノベーションを社会に実装し、地域に還元する活動を行うことを目的とした「スタートアップ・エコシステム 東京コンソーシアム」に参画する、大学と地方公共団体、大学発イノベーションの取り組みをさまざまな形で支援する民間機関が結集して進めるものである。 SCORE大学推進型（拠点都市環境整備型）に採択されたプラットフォームを主宰している早稲田大学・東京科学大学、そして起業家の輩出などについて随一の成果を上げている東京大学の3機関による共同主幹体制とし、以下のプロジェクトを進める。</p> <p>②実施項目ごとの概要 (1) 起業活動支援プログラムの運営 本構想においてGTIEサーチファンド (GSF) を設置する。GSFは次の5つの機能を持つ。第1に「経営者人材と研究者とのマッチング (チーム形成) 支援」、第2に「GAP ファンド提供」、第3に「メンタリング・カスタマーデベロップメント提供」、第4に「シード出資獲得支援」、第5に「大企業とのマッチング支援」である。GTIE 予算の一部を用いたGAP ファンド提供を行うと同時に、新たにファンディングスキームを構築し、協力機関を中心とした民間企業からの資金提供を受け入れる。GTIEがファンドマネージャを設置し、GAP ファンドの募集・選考・審査・運用、そして伴走支援を行う。民間資金に係る受け入れや支援のファンディングスキームも今後検討する。</p> <p>(2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営など EDGE-NEXT プログラムで主幹機関を務めている東京大学、早稲田大学がそれぞれ実施しているプログラムを総動員し、本構想のステイクホルダーにシームレスに提供でき、コンソーシアムの受講を希望する全ての者がプログラムを受講できる体制を目指す。特に東京大学では1) 研究成果や技術を新産業創出に結び付けるマインドおよびスキルを持つ研究者やエンジニアの育成、早稲田大学では2) 小中学高校生への教育プログラム、3) 東京外の地域も含めた社会的課題の解決に係るプログラム、を共同機関・協力機関などに広く展開する。また、海外機関との協働プログラムや、仮説構築・検証などの手法において国際通用性の高いプログラムに重点的に取り組む。</p> <p>(3) 起業環境の整備 GTIE主幹機関の一つである東京科学大学の田町キャンパス (キャンパスイノベーションセンター東京：CIC) の2階から4階の一部を用いてインキュベーション・アクセラレーション機能を持つGTIE活動拠点を形成し、専門家・メンターの配置、コミュニティスペースの運用、ラジオブース、フリー席、オープン席の活用を行う。さらに懇談会、イベント、起業支援セミナー、アイデアソン、ワークショップなどを短サイクルで実施し、コミュニティの活性化を継続的に行う。また、スタートアップが入居可能なオフィスの賃料をエクイティで支払えるようにするなど制度・ルールの検討・提案を行い、インキュベーション施設運営と連携した活動を展開する。</p> <p>(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展 GTIE および東京コンソーシアムの参画機関のネットワークを相互接続し、特に海外ベンチャーキャピタルやアクセラレーターなどとの協業・イベントなどを積極的に進め、ユニコーン創出の確度を飛躍的に高める。本事業においては早稲田大学の国内外のグローバルネットワークを主としつつ、東京大学・東京科学大学や共同機関などのネットワークを総動員し、協力機関に名を連ねている海外組織や民間のイノベーション・コミュニティ創出支援組織と密に連携し、GTIEのコミュニティを形成し、発展させていく。</p>

※所属・役職名は2025年4月25日
時点のものとなります。

採択年度	2021年度
プラットフォーム名	Tokai Network for Global Leading Innovation (Tongali)
参画している拠点都市の コンソーシアムなどの名称	Central Japan Startup Ecosystem Consortium
主幹機関	名古屋大学 【総括責任者】 東海国立大学機構名古屋大学 機構長 松尾 清一
共同機関	豊橋技術科学大学、名古屋工業大学、岐阜大学、三重大学、名城大学、中京大学、藤田医科大学、名古屋市立大学、岐阜薬科大学、愛知県立芸術大学、椋山女学園大学、光産業創成大学院大学、愛知県立大学、静岡大学、浜松医科大学、南山大学、豊田工業大学、金城学院大学、中部大学、静岡理工科大学、静岡県立大学、名古屋外国語大学
幹事自治体	愛知県／岐阜県／名古屋市／浜西市
活動概要	<p>①全体概要 東海地域の17大学が一体となり、Tech Innovation Smart Society を実現していくために、グローバル展開を志向するシーズアウト型の起業支援、アントレプレナーシップ教育、環境整備を融合していくことで、面でのスタートアップ創出の環境整備を行う。 具体的には、①大学に埋もれた起業可能性の高いシーズ発掘・磨きのためのGAPファンドとインキュベーションプログラム、②アントレプレナーシップ教育の裾野拡大と深化、③プロトタイプ製作と熱い刺激（ステージが異なるコミュニティ・ネットワーキング）に触れることができる場を創る。スタートアップ・エコシステム・グローバル拠点都市「Central Japan Startup Ecosystem Consortium」と連結し本地域のエコシステム形成に取り組む。</p> <p>②実施項目ごとの概要 (1) 起業活動支援プログラムの運営 参加大学の技術シーズから起業することを目指して、①起業の可能性の高いシーズ情報を共有するために構築しているシーズライブラリを活用した、埋もれた技術シーズの探索、②支援人材である産学連携担当者、事業化プロデューサー候補、メンターなどの協力が一堂に会したスタートアップを目指す起業チームづくり、③モノづくり・医療などの分野別のGAPファンドからの資金提供および起業研修プログラムの実施、④磨き上げたビジネスモデル・プロダクトをプレゼンし、VCなどからの資金を呼び込むための拠点都市と連携したDemo Dayの開催を行う。最終年には、50社／年のスタートアップを創出するプログラムに成長することを目指していく。</p> <p>(2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営など 現在実施しているアントレプレナーシップ人材育成「Tongaliプロジェクト」を基盤に、地域で希望する学生などが受講できる教育体制の構築と、起業教育まで深度を高めた教育・育成を行っていく。具体的には、①インセプションから始まるマインドセットプログラム（意識醸成～アイデア創出のトレーニング）、②コンピテンシー・スキルセットと実践教育、③自らのアイデアや技術を用いて起業化を進めるプログラムを実施する。5年後には、拠点都市の全大学84大学のうち30大学が参加し、プラットフォームの全機関の全学教育などでマインドセットステージの教育を行い、プラットフォーム全体で、10,000人／年が受講できる体制を構築する。</p> <p>(3) 起業環境の整備 地域内の3大学に整備したTongali Tech Base (TTB) 中心に、試作機能のほか、メンターやスタートアップの先輩格とのコミュニケーションを通じて、熱い刺激に触れることができる「集う機能」を整える。①効率的な試作品製作・仮説検証環境（ファブラボTTB）の維持・運用、②コミュニティ形成・関係機関とのハブ機能の構築の維持・運用、③共同機関・TTB間の遠隔通信システムの維持・運用といった環境を整備するとともに、大学における起業相談窓口の拡充・起業関係諸ルールのプラットフォーム内設置などを行う。また、大学間および拠点都市内のインキュベーション拠点などとの連携体制を整え、拠点内の交流の機会を創出し、拠点間の連携促進・参画者の裾野の拡大を行う。</p> <p>(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展 Tongali-PFに「プラットフォーム推進委員会」を設置し、計画・ビジョンの策定やコミュニティ（拠点）の要望に沿ったイベントなどを企画・実施するとともに、拠点都市に設置するコンソーシアム運営委員会に接続し、相互交流の下で拠点都市のビジョン達成に取り組む。また、アドバイザー委員会を設置し、拠点共同運営機関の有識者を招き、活動の実質化のための助言を受ける。海外のベンチャー先進地域との交流によるノウハウ会得や他の国内グローバル拠点都市との連携にも努める。スタートアップによって還流される人材・資金・ノウハウを、大学の基礎研究・応用研究に再投資することで、新たな起業につながる研究成果を創出するエコシステムを構築する。</p>

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援 採択プラットフォーム一覧

採択年度	2021年度
プラットフォーム名	京阪神スタートアップ アカデミア・コアリション(KSAC)
参画している拠点都市の コンソーシアムなどの名称	大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム
主幹機関	京都大学 【総括責任者】 理事（産官学連携担当）澤田 拓子
共同機関	大阪大学、神戸大学、大阪公立大学、大阪工業大学、関西大学、近畿大学、京都工芸繊維大学、京都府立大学、立命館大学、同志社大学、龍谷大学、京都先端科学大学、奈良先端科学技術大学院大学、兵庫県立大学、関西学院大学、甲南大学、大阪産業局
幹事自治体	大阪府／大阪市／京都府／京都市／兵庫県／神戸市
活動概要	<p>①全体概要</p> <p>本プラットフォームは、「90社以上の大学発スタートアップ創出」をはじめとするKPIを掲げ、起業活動支援・アントレ教育・起業環境整備・エコシステム形成活動を統合的に進めることで、「大阪・京都・ひょうご神戸コンソーシアム」が目指すビジョンの実現に貢献する。プラットフォーム共通のエコシステム機能を開発し、普及させ、本拠点都市で実施されている他の事業などとの有機的な連携を図ることで、「連続的な大学発スタートアップの創出」と「アントレプレナーシップ人材の裾野の拡大」を目指す。大学をはじめとする各参画機関の特徴を生かしたシナジーが最大限発揮できる国際的なスタートアップ創業環境を構築する。</p> <p>②実施項目ごとの概要</p> <p>(1) 起業活動支援プログラムの運営</p> <p>バイオ・ヘルスケア・ライフサイエンス・ものづくり・情報通信・人文社会系・アグリビジネス・学生主導の各分野からグローバルインパクトのあるアカデミックシーズを募集し、技術視点と事業化視点の両面から、参画大学に産業界などの外部人材を加えた委員会が審査を行う。プラットフォーム共通の専任支援人材による支援体制を整え、研究開発課題の申請書類・開発計画書の作成から経営人材とのマッチングを含むハンズオンを視野に入れた支援を行う。京都大学・大阪大学が構築したVCネットワークとOsaka Innovation Hubが培ってきた「メンター、先輩起業家、投資家」などを利用して多様な支援人材を確保し、スタートアップへとつなげる。</p> <p>(2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営など</p> <p>地域中核大学（京都大学、大阪大学、神戸大学）が共同で、体系だった起業家教育プログラムを開発し、エントリー～応用～実践レベルの全てをカバーする。また、フィールドワークを通し課題を同定できるプログラムも開発し、京阪神全体に展開する。その上で、拠点都市全体の多様な大学機関、企業、自治体の活動と有機的に連結させ、お互いの"強み"を共有し、"補完"することで、拠点都市全体の共通インフラとしての起業家教育を実現する。広範な大学機関における希望者が、興味のあるプログラムを受講できるようにする地域共通基盤ウェブサイトを活用することで、一気にアントレプレナーシップ人材の裾野を拡大する。</p> <p>(3) 起業環境の整備</p> <p>SCORE大学推進型（拠点都市環境整備型）において試作機器や動画撮影設備などを整備した5つの拠点（京都大学、大阪大学、大阪工業大学、大阪産業局、神戸大学）をプラットフォームの起業活動支援の場として実働させる。外部のインキュベーション施設などとも連携し、本プラットフォームのスタートアップ創出や人材育成活動を促進させるイベントなども行う。また、5つの主幹・共同機関から構成される相談窓口連絡会を設け、多様な起業に関する相談に対し、プラットフォームが持つ知見、情報、人脈を活用したサポートを提供する。さらに、起業を視野に入れた諸規定の整備が進んでいる大学をモデルとし、各大学の実情も加味した各種規定の整備を進める。</p> <p>(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展</p> <p>プラットフォーム推進会議を通じて共同・協力機関との意思疎通を図り、運営方針の決定と活動の進捗を管理する。幹事自治体とは定期的に連絡会を開催し、意識のすり合わせを行い、拠点都市のビジョンの実現に貢献する。また、Demo Dayやピッチイベント、勉強会などを開催することで、参画機関内外のネットワークの強化やPR活動を行い、外部のスタートアップ創出推進プログラムやVCとの相乗的な連携を推進する。さらに、Hack OsakaやHVC Kyotoなどのグローバルネットワークと本プログラムから生まれるスタートアップ予備軍とのマッチングを行い、京都大学・大阪大学などが培った海外ネットワークも加えた連携を進める。</p>

採択年度	2022年度
プラットフォーム名	Peace & Science Innovation Ecosystem (PSI)
参画している拠点都市の コンソーシアムなどの名称	広島地域イノベーション戦略推進会議
主幹機関	広島大学 【総括責任者】学長 越智 光夫
共同機関	岡山大学、島根大学、愛媛大学、徳島大学、高知大学、香川大学、鳥取大学、広島市立大学、叡啓大学、県立広島大学、広島修道大学、安田女子大学、岡山理科大学、川崎医科大学、周南公立大学、高知工科大学、山口東京理科大学
幹事自治体	広島県
活動概要	<p>1. 全体概要 平和を希求する精神とともにイノベーションを創出するエコシステム (Peace & Science Innovation Ecosystem : PSI) を構築するため、中四国地域を中心に首都圏・海外を含む約100機関の産学官金が一体的に結集する。 司令塔として中四国地域のスタートアップの一元的支援組織を構築し、「健康長寿」や「SDGs」を新産業創出により加速するとともに、楽しく・生き生き・自然とともに過ごせる平和な社会（地域版・Well-being）を実現する。平和希求型ベンチャー総数300社（現状の3倍）、アントレプレナーシップ教育受講者数25,000人（現状の10倍、参画機関の学部生・大学院生の約50%）などを目指す。</p> <p>2. 実施項目ごとの概要 (1) 起業活動支援プログラムの運営 中四国地域の大学が持つ強い技術領域、地域が抱える課題領域、特徴ある産業領域の3点が重なる領域として、健康医療領域、環境エネルギー領域、次世代ものづくり領域などを「重点領域」として設定する。 共同機関が把握しているシーズのうち、技術成熟度レベル (Technology Readiness Levels : TRL) に準じた柔軟なGAPファンドまたはPoCファンドを付与する。TRLレベルの上昇に向け、協力機関などと連携したアクセラレーションプログラムの受講やメンタリング機会を提供する「スタートアップ道場」を設置する。</p> <p>(2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営 現在各大学で実施しているアントレプレナーシップ教育を①起業マインドの醸成、②起業知識・スキルの習得、③起業実践能力の習得、④オープンイノベーションの「4段階」で整理し、各大学に不足しているカリキュラムを明らかにする。 不足しているカリキュラムの補完や開発に向けて、共同機関が保有するカリキュラムの開放や協力機関における実践的なカリキュラムの提供を実施する。具体的には、平和希求プログラム、デザイン思考または専門的な知識習得などの相互利用に向けた講師派遣、地域の実証フィールドを利用した課題発見・解決型PBLの手法やノウハウの共有化、海外大学とのアントレプレナーシップ教育の提供などを実施する。</p> <p>(3) 起業環境の整備 共用機器や共有スペースなどの利用に必要な制度改正やルール整備、また、ワンストップ窓口（相談、弁護士対応など）を活用し、中四国全域での機器利用や起業環境の場の利用を実現する。 アントレプレナーシップカリキュラムの相互開放に必要な「共通教育プラットフォーム」を各大学で運用するほか、動画撮影や配信機能を備えた環境を活用したピッチイベントなどの活動を通じ、本プラットフォームのエコシステム強化を実現する。</p> <p>(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展 「ひろしま好きじゃけんコンソーシアム」を中四国地域のスタートアップの一元的支援組織とし、広島大学が先行的に進めている「企業版ふるさと納税」のノウハウ、有料会員によるプラットフォーム運営、クラウドファンディングによるGAPファンド獲得の取り組みなどを中四国地域全体に広げていく。拠点都市間および海外ネットワークを生かした相互交流やシンポジウムなどを実施し、スタートアップ予備軍を積極的に世界に送り出す。</p>

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援 採択プラットフォーム一覧

採択年度	2022年度
プラットフォーム名	Platform for All Regions of Kyushu & Okinawa for Startup – ecosystem (PARKS)
参画している拠点都市の コンソーシアムなどの名称	福岡スタートアップ・コンソーシアム／北九州市SDGsスタートアップエコシステムコンソーシアム
主幹機関	九州大学【総括責任者】総長／学術研究・産学官連携本部 本部長 石橋 達朗 九州工業大学【総括責任者】学長 三谷 康範
共同機関	株式会社FFGベンチャービジネスパートナーズ、長崎大学、北九州市立大学、佐賀大学、熊本大学、大分大学、宮崎大学、鹿児島大学、琉球大学、九州産業大学、久留米大学、第一薬科大学、福岡大学、福岡工業大学、山口大学、立命館アジア太平洋大学、沖縄科学技術大学院大学、九州歯科大学、長崎総合科学大学、九大OIP株式会社
幹事自治体	福岡市／北九州市
活動概要	<p>1. 全体概要</p> <p>PARKSは、オール九州・沖縄が一体となり、アジアとつながるスタートアップエコシステムの創出を目指す。各大学の強みを持つ、「ロボティクス」「環境・食・海洋」「AI/IoT」「材料・素材」「医療・ヘルスケア」分野を軸とした、顧客志向で業界変革を実現可能なベンチャーを九州・沖縄という地域に持続的に創出していく。また、拠点都市である福岡市、北九州市、および九州・大学発ベンチャー振興会議との密な連携のもと、アントレプレナーシップ教育から起業支援までを一気通貫で実施していく。さらに、経営人材候補を学生やポスドクのみならず九州・沖縄へのUIJターンを促進しながら確保する仕組みを構築する。</p> <p>2. 実施項目ごとの概要</p> <p>(1) 起業活動支援プログラムの運営</p> <p>GAP ファンドプログラム、GAP NEXT プログラムを定期的・継続的に実施することで、大学等発ベンチャー創出を継続的に可能とする支援体制を構築する。また、プレCXO（プレCEO、プレCOO、プレCFOなど）人材プールの活用によるCXO候補の安定供給やインキュベーションプログラムに支援人材を伴走させることで支援人材育成も実施し、ベンチャー創出支援からCXOまで各フェーズで必要となる人材の供給プラットフォームを整備する。</p> <p>(2) アントレプレナーシップ人材育成プログラムの開発・運営</p> <p>①アントレプレナーシップ教員の教育</p> <p>アントレプレナーシップ教育で先進的な国内・国外の組織と連携して、FD（教員への教育）を実施する。また、PARKSアントレプレナーシップ教員ネットワークを構築し、FDの内容を踏まえてアントレプレナーシップ教育の研究を行い、参加大学においてアントレプレナーシップ教育を実施する教員を育成する。</p> <p>②学生のアントレプレナーシップ教育</p> <p>PARKSアーカイブシステムを利用した教育を実施し、アントレプレナーシップの動機付け、意識醸成を行う教育を行う。また、PARKS参加大学の学生を対象にオンラインで演習を実施し、アントレプレナーシップのコンピテンシーを形成する教育を行う。各大学ではそれぞれの大学の特色を生かしたPBL（課題解決型学習）などを実施し、社会実装につながる教育を行う。</p> <p>(3) 起業環境の整備</p> <p>PARKS参加大学で、プレCXO マッチングとEIR（客員起業家制度）活動を踏まえた大学内の起業関係諸ルールのフォーマット化を進める。また、PARKSアーカイブシステムを整備しプラットフォーム内での各種コンテンツを共有可能とする。その他、コミュニティ活性化アプリなどの継続運用、キャンパス内外コワーキングスペースの活性化の仕組みの導入、九州・沖縄の各地域（各県）への起業準備拠点の設置などを行い、グローバル都市・推進都市として成長支援の中心にある「Fukuoka Growth Next (FGN)」と「COMPASS小倉 & JETRO北九州」に接続することで、各種起業支援体制との役割・機能・連携の最適化を進める。さらに、インターユニバーシティと公設民営の方針に基づく持続的な起業環境の運営体制を構築する。</p> <p>(4) 拠点都市のエコシステムの形成・発展</p> <p>運営方針の策定を行うための運営機関会議の定常開催と共同機関が参加する合同会議の定期的な実施により、PARKSプラットフォームの運営方針策定とノウハウなどの共有を行う。また、九州・大学発ベンチャー振興会議との連携による九州・沖縄全域を巻き込んだスタートアップ・エコシステムの形成や、拠点都市である福岡市・北九州市との定期的な打ち合わせを通じた、拠点都市との施策連携を促進する。また、小中高生向けのアントレプレナーシップ教育を提供することで、地域を巻き込んだエコシステムの形成を行う。</p>

※所属・役職名は2025年12月19日
時点のものとなります。

採択年度	2025年度
プラットフォーム名	Tech Startup HOKURIKU (TeSH)
主幹機関	金沢大学 【総括責任者】学長 和田 隆志 北陸先端科学技術大学院大学 【総括責任者】学長 寺野 稔
共同機関	富山大学、福井大学、富山県立大学、石川県立大学、金沢美術工芸大学、公立小松大学、金沢工業大学、金沢医科大学、福井工業大学、富山高等専門学校、石川工業高等専門学校、福井工業高等専門学校、株式会社ガイアックス
幹事自治体	富山県／石川県／福井県
活動概要	アントレプレナーシップ人材育成プログラムでは、「高校ー大学接続」から「起業準備」までの8つのフェーズに体系化し、プラットフォーム内でプログラムをアーカイブ・共有し、各機関の優れた教育リソースを活用しつつ、独自性あるプログラムの開発を推進する。北陸拠点（金沢駅西口）や首都圏拠点（CIC Tokyo）、金沢大学の社会共創施設（未来知実証センター）、北陸先端科学技術大学院大学が整備する施設（Jイノプラ3）を活用し、学生や研究者がプロトタイプ開発や事業創出に取り組める環境の拡充を図る。将来的には、北陸地域が先進的なアントレプレナーシップ人材育成拠点として全国的に認知され、持続的に起業家人材が輩出されるとともに、大学・高専発スタートアップや成長企業の中核人材が次々と生まれるスタートアップ・エコシステムの構築を目指す。

大学・エコシステム推進型 スタートアップ・エコシステム形成支援 採択プラットフォーム一覧

※所属・役職名は2025年12月19日
時点のものとなります。

採択年度	2025年度
プラットフォーム名	Inland Japan Innovation Ecosystem-Nexus (IJIE-Nexus)
主幹機関	信州大学 【総括責任者】 理事（研究、産学官・社会連携担当）清水 聖幸
共同機関	山梨大学、宇都宮大学、群馬大学、埼玉大学、株式会社信州 TLO
幹事自治体	長野県／長野市／松本市
活動概要	IJIE-Nexus では、甲信・北関東地域において「アントレプレナーシップの醸成」、「コンピテンシーの形成」、「社会実践」の各段階に応じたアントレプレナーシップ人材育成プログラムを構築し、小中高生や高校生、大学生、社会人などに幅広く社会課題解決や起業に必要となるスキル習得の機会を提供する。信州スタートアップステーションや自治体が域内に設置している複数のスタートアップ支援拠点とのネットワーク構築により、甲信・北関東地域の起業に関心をもつ者が支援拠点にアクセスできる環境を整備し、ビジネスモデルの仮説検証のための試作の実施などが可能な環境を実現する。さらに、産学官金の連携により、地域に独自のイノベーションエコシステムを構築し、社会を変える地方発のスタートアップを持続的に創出する体制を構築する。

ホームページ(公募情報・新着情報等)

本事業に関する詳細は、次の URL からご覧いただけます。



大学発新産業創出基金事業



<https://www.jst.go.jp/program/startupkikin/>

研究成果展開事業 大学発新産業創出プログラム(START)

<https://www.jst.go.jp/start/>



問い合わせ先

〒102-0076 東京都千代田区五番町7 K's五番町

国立研究開発法人科学技術振興機構 スタートアップ・技術移転推進部

スタートアップ第1グループ TEL: 03-5214-7054

スタートアップ第2グループ TEL: 03-3512-3529